

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7217916号
(P7217916)

(45)発行日 令和5年2月6日(2023.2.6)

(24)登録日 令和5年1月27日(2023.1.27)

(51)国際特許分類

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I

A 6 3 F

7/02

3 2 0

請求項の数 1 (全109頁)

(21)出願番号	特願2018-37773(P2018-37773)	(73)特許権者	599104196 株式会社サンセイアールアンドディ 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番 13号
(22)出願日	平成30年3月2日(2018.3.2)	(74)代理人	110000291 弁理士法人コスマス国際特許商標事務所
(65)公開番号	特開2019-150319(P2019-150319 A)	(72)発明者	土屋 良孝 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番 13号 株式会社サンセイアールアンド ディ内
(43)公開日	令和1年9月12日(2019.9.12)	(72)発明者	川添 智久 愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番 13号 株式会社サンセイアールアンド ディ内
審査請求日	令和3年3月1日(2021.3.1)	(72)発明者	中山 覚

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】**【請求項1】**

遊技者に有利な特別遊技状態にすることが可能な遊技機において、所定の演出を実行可能な演出実行手段を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性があることを示唆する特別演出、特定の段階まで進行可能な進行演出、および前記進行演出が実行される可能性があることを示唆する示唆演出が含まれ、

前記特別演出には、第1特別演出と、前記特別遊技状態になる可能性が前記第1特別演出よりも高いことを示唆する第2特別演出と、があり、

前記進行演出の演出態様には、第1演出態様と、前記特別遊技状態になる可能性が前記第1演出態様よりも高いことを示唆する第2演出態様と、があり、

前記示唆演出には、第1示唆演出と、前記第1示唆演出とは異なる第2示唆演出と、があり、

前記第2示唆演出では、前記進行演出が実行されることを示唆するときと、前記進行演出とは異なる他の演出が実行されることを示唆するときと、があり、

前記演出実行手段は、

前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特別演出を実行することがあり、

前記進行演出を実行する場合、前記第1示唆演出を実行するときと、前記進行演出が実行されることを示唆する態様の前記第2示唆演出を実行するときと、があり、

10

20

前記進行演出を実行しない場合、前記進行演出とは異なる他の演出が実行されることを示唆する態様の前記第2示唆演出を実行して、当該他の演出を実行することがあり、

前記第1示唆演出が実行されたときと前記進行演出が実行されることを示唆する態様の前記第2示唆演出が実行されたときとで、前記第2演出態様の前記進行演出が実行される確率が異なり、且つ、前記第2演出態様の前記進行演出が実行され、前記第2演出態様の前記進行演出が前記特定の段階まで進行した場合に、前記第1特別演出が実行される確率が異なることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本発明は、パチンコ遊技機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技機では、遊技が実行されているときに様々な演出を実行することが可能である。特許文献1に記載の遊技機では、特別図柄の変動表示が実行されているときに、エネルギーを段階的に上昇させることができエネルギー上昇演出が実行されることがある。

【0003】

そして、エネルギー上昇演出でエネルギーがゲージ最大値に到達した場合は、相対的に遊技者に有利な大当たり遊技が実行される。一方、エネルギー上昇演出でエネルギーがゲージ最大値に到達しない場合は、相対的に遊技者に不利な大当たり遊技が実行される。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特許第6143143号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、段階的に進行可能な演出を実行可能な遊技機について、遊技興趣の向上を図るために未だ改善の余地がある。

【0006】

30

本発明は上記事情に鑑みてなされたものである。すなわち、その課題とするところは、遊技興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態にすることが可能な遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性があることを示唆する特別演出、特定の段階まで進行可能な進行演出、および前記進行演出が実行される可能性があることを示唆する示唆演出が含まれ、

前記特別演出には、第1特別演出と、前記特別遊技状態になる可能性が前記第1特別演出よりも高いことを示唆する第2特別演出と、があり、

前記進行演出の演出態様には、第1演出態様と、前記特別遊技状態になる可能性が前記第1演出態様よりも高いことを示唆する第2演出態様と、があり、

前記示唆演出には、第1示唆演出と、前記第1示唆演出とは異なる第2示唆演出と、があり、

前記第2示唆演出では、前記進行演出が実行されることを示唆するときと、前記進行演出とは異なる他の演出が実行されることを示唆するときと、があり、

前記演出実行手段は、

前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特別演出を実行するこ

40

50

とがあり、

前記進行演出を実行する場合、前記第1示唆演出を実行するときと、前記進行演出が実行されることを示唆する態様の前記第2示唆演出を実行するときと、があり、

前記進行演出を実行しない場合、前記進行演出とは異なる他の演出が実行されることを示唆する態様の前記第2示唆演出を実行して、当該他の演出を実行することがあり、

前記第1示唆演出が実行されたときと前記進行演出が実行されることを示唆する態様の前記第2示唆演出が実行されたときとで、前記第2演出態様の前記進行演出が実行される確率が異なり、且つ、前記第2演出態様の前記進行演出が実行され、前記第2演出態様の前記進行演出が前記特定の段階まで進行した場合に、前記第1特別演出が実行される確率が異なることを特徴とする。

10

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、遊技興趣の低下を抑えることが可能である。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の基本的な実施形態に係るパチンコ遊技機の斜視図である。

【図2】遊技盤ユニットの正面図である。

【図3】(A)は盤可動体の待機状態を説明する正面図、(B)は盤可動体の移動状態を説明する正面図、(C)は盤可動体の回転状態を説明する正面図である。

【図4】表示器類の正面図である。

20

【図5】遊技制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。

【図6】演出制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。

【図7】(A)は普図関連判定情報を示す表であり、(B)は特図関連判定情報を示す表である。

【図8】(A)は当たり判定テーブルであり、(B)は普図変動パターン判定テーブルであり、(C)は補助遊技制御テーブルである。

【図9】(A)は第1大当たり判定テーブルであり、(B)は第2大当たり判定テーブルであり、(C)は大当たり図柄種別判定テーブルであり、(D)はリーチ判定テーブルである。

【図10】特図1変動パターン判定テーブルである。

30

【図11】特図2変動パターン判定テーブルである。

【図12】第1先読み判定テーブルである。

【図13】第2先読み判定テーブルである。

【図14】(A)は大当たり遊技制御テーブルであり、(B)は遊技状態設定テーブルである。

【図15】(A)はデモ動画の一例を示す図であり、(B)は設定画面の一例を示す図である。

【図16】(A)は第1通常用背景画像の一例を示す図であり、(B)は第2通常用背景画像の一例を示す図であり、(C)は第3通常用背景画像の一例を示す図であり、(D)は確変用背景画像の一例を示す図であり、(E)は時短用背景画像の一例を示す図である。

40

【図17】(A)は大当たりオープニング演出の一例を示す図であり、(B)はラウンド演出の一例を示す図であり、(C)は大当たりエンディング演出の一例を示す図である。

【図18】リーチ無しハズレの特図変動演出の一例を表す図である。

【図19】特図変動演出が開始してからリーチになるまでの一例を表す図である。

【図20】Nリーチの一例を表す図である。

【図21】S Pリーチの一例を表す図である。

【図22】S Pリーチの一例を表す図であり、図21の続きである。

【図23】S Pリーチの一例を表す図であり、図22の続きである。

【図24】可動体演出の一例を表す図である。

【図25】操作演出の一例を表す図である。

50

- 【図 2 6】保留演出の一例を表す図である。
- 【図 2 7】保留アイコン変化予告の一例を表す図である。
- 【図 2 8】保留アイコン変化予告の一例を表す図である。
- 【図 2 9】遊技制御メイン処理のフローチャートである。
- 【図 3 0】遊技制御側タイマ割り込み処理のフローチャートである。
- 【図 3 1】センサ検出処理のフローチャートである。
- 【図 3 2】センサ検出処理のフローチャートであり、図 3 1 の続きを表す図である。
- 【図 3 3】普通動作処理のフローチャートである。
- 【図 3 4】特別動作処理のフローチャートである。
- 【図 3 5】特別図柄待機処理のフローチャートである。
- 【図 3 6】特図 1 変動パターン判定処理のフローチャートである。
- 【図 3 7】特別図柄変動処理のフローチャートである。
- 【図 3 8】特別図柄確定処理のフローチャートである。
- 【図 3 9】演出制御メイン処理のフローチャートである。
- 【図 4 0】1 ms タイマ割り込み処理のフローチャートである。
- 【図 4 1】10 ms タイマ割り込み処理のフローチャートである。
- 【図 4 2】(A) はタイマー予告実行判定テーブルであり、(B) はタイマー予告態様判定テーブルである。
- 【図 4 3】(A) はタイマー発動予告実行判定テーブルであり、(B) はタイマー発動予告種別判定テーブルであり、(C) はドラム予告態様判定テーブルである。
- 【図 4 4】(A) はドラム予告態様 1 のドラム予告画像の展開図であり、(B) はドラム予告態様 2 のドラム予告画像の展開図である。
- 【図 4 5】(A) は群予告実行判定テーブルであり、(B) は群予告態様判定テーブルである。
- 【図 4 6】(A) は群ドラム予告実行判定テーブルであり、(B) は非特定ドラム予告実行判定テーブルであり、(C) はタイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルである。
- 【図 4 7】タイマー調整中予告の一例を表す図である。
- 【図 4 8】タイマー予告の一例を表す図である。
- 【図 4 9】タイマー予告から S P リーチまたは L リーチに発展する様子の一例を表す図である。
- 【図 5 0】ドラム予告の一例を表す図である。
- 【図 5 1】ドラム予告の後にハズレを示す演出図柄の停止表示が実行される、またはリーチが成立する様子の一例を表す図である。
- 【図 5 2】ドラム予告からタイマー予告に発展する様子の一例を表す図である。
- 【図 5 3】ドラム予告から群予告に発展する様子の一例を表す図である。
- 【図 5 4】受信コマンド解析処理のフローチャートである。
- 【図 5 5】受信コマンド解析処理のフローチャートであり、図 5 4 の続きを表す図である。
- 【図 5 6】(A) は保留アイコン変化予告実行判定テーブルであり、(B) は保留アイコン変化態様判定テーブルである。
- 【図 5 7】(A) は変動アイコン変化予告実行判定テーブルであり、(B) は変動アイコン変化態様判定テーブルである。
- 【図 5 8】(A) はカットイン予告実行判定テーブルであり、(B) はカットイン予告態様判定テーブルである。
- 【図 5 9】(A) は G タイマー予告実行判定テーブルであり、(B) は C タイマー予告実行判定テーブルであり、(C) は H タイマー予告実行判定テーブルであり、(D) は変動アイコン変化予告に係るタイマー予告種別判定テーブルである。
- 【図 6 0】(A) は群予告に係る第 1 タイマー予告の演出時間判定テーブルであり、(B) はカットイン予告に係る第 1 タイマー予告の演出時間判定テーブルである。
- 【図 6 1】(A) は変動アイコン変化予告に係る第 1 タイマー予告の演出時間判定テーブルであり、(B) は変動アイコン変化予告に係る第 2 タイマー予告の演出

10

20

30

40

50

時間判定テーブルである。

【図 6 2】第 1 タイマー予告領域および第 2 タイマー予告領域の一例を表す図である。

【図 6 3】第 1 タイマー予告の一例を表す図である。

【図 6 4】第 1 タイマー予告の後に変動アイコン変化予告が実行される様子の一例を表す図である。

【図 6 5】第 1 タイマー予告の一例を表す図である。

【図 6 6】第 1 タイマー予告の後に群予告が実行される様子の一例を表す図である。

【図 6 7】第 1 タイマー予告の一例を表す図である。

【図 6 8】第 1 タイマー予告の後にカットイン予告態様 4 のカットイン予告が実行される様子の一例を表す図である。

【図 6 9】第 1 タイマー予告の一例を表す図である。

【図 7 0】第 1 タイマー予告の後にカットイン予告態様 1 のカットイン予告が実行される様子の一例を表す図である。

【図 7 1】第 2 タイマー予告の一例を表す図である。

【図 7 2】第 2 タイマー予告の後に変動アイコン変化予告が実行される様子の一例を表す図である。

【図 7 3】複数の第 1 タイマー予告が実行されている様子の一例を表す図である。

【発明を実施するための形態】

【0 0 1 0】

< 基本的な実施形態 >

最初に、本発明の遊技機の特徴部分の前提となる本発明の基本的な実施形態を、図面を参照して具体的に説明する。参照される各図において、同一の部分には同一の符号を付し、同一の部分に関する重複する説明を原則として省略する。なお、以下において、記述の簡略化上、情報、信号、物理量又は部材等を参照する記号又は符号を記すことによって、該記号又は符号に対する情報、信号、物理量又は部材等の名称を省略又は略記することがある。

【0 0 1 1】

1. 遊技機の構造

本発明の遊技機の基本的な実施形態であるパチンコ遊技機 PY 1 について説明する。最初に、パチンコ遊技機 PY 1 の構造について図 1 ~ 図 3 を用いて説明する。なお、以下の説明において、パチンコ遊技機 PY 1 の各部の左右上下方向は、そのパチンコ遊技機 PY 1 に対面する遊技者にとっての（正面視の）左右上下方向のことである。また、「前方」とはパチンコ遊技機 PY 1 から当該パチンコ遊技機 PY 1 に対面する遊技者に近づく方向とし、「後方」をパチンコ遊技機 PY 1 に対面する遊技者から当該パチンコ遊技機 PY 1 に近づく方向として、説明する。

【0 0 1 2】

図 1 に示すように、パチンコ遊技機 PY 1 は、遊技盤 1 を含む遊技盤ユニット YU と、遊技盤ユニット YU を内部に収納した遊技機枠 2 とを備えている。遊技機枠 2 は、遊技店に固定される枠状の外枠 2 1 と、外枠 2 1 に取り付けられ、遊技盤ユニット YU が取り付けられる内枠 2 2 と、内枠 2 2 に回転自在に支持される前扉 2 3 と、を備える。

【0 0 1 3】

外枠 2 1、内枠、および前扉 2 3 の正面視外周形状は大体同一である。そして、外枠 2 1 の前面に内枠 2 2 が取り付けられている。

【0 0 1 4】

前扉 2 3 は内枠 2 2 に対して開閉が可能である。前扉 2 3 は、大体中央に略縦長矩形状の大きな開口部が形成された枠状の前枠 2 3 m と、その開口部に嵌め込まれた透明板 2 3 t と、を備える。前扉 2 3 が閉じられているとき、遊技盤ユニット YU に含まれる遊技盤 1 と透明板 2 3 t とが対面する。透明板 2 3 t は、透明な合成樹脂板で略縦長矩形状に成形されている。よって、パチンコ遊技機 PY 1 が遊技店に設置されると、当該パチンコ遊技機 PY 1 の前方にいる遊技者は、透明板 2 3 t を通して、遊技盤 1 に形成された遊技領

10

20

30

40

50

域 6 を視認することができる。なお、透明板 2 3 t として、透明な合成樹脂板の代わりに透明なガラス板を用いてもよい。パチンコ遊技機 PY 1 の前方から透明板 2 3 t を通して遊技領域 6 を視認可能であればよい。

【 0 0 1 5 】

前枠 2 3 m の前面の右下部には、遊技球を発射させるための回転操作が可能なハンドル 7 2 k が設けられている。ハンドル 7 2 k が操作された量（回転角度）が、遊技球を発射させるために遊技球に与えられる力の大きさ（発射強度）に対応付けられている。よって、遊技球は、ハンドル 7 2 k の回転操作に応じた発射強度で発射される。

【 0 0 1 6 】

また、前枠 2 3 m の前面の下部には、前方に大きく突出した上皿 3 4 と、上皿 3 4 の直下に配された下皿 3 5 が設けられている。上皿 3 4 の前方側中央には、下方に押下操作可能な第 1 演出ボタン 4 0 k が設けられている。第 1 演出ボタン 4 0 k の操作部分は半球形に成形されている。さらに、上皿 3 4 の上面の後方側には、ハンドル 7 2 k に供給される遊技球を貯留するための供給球貯留穴 3 4 A が第 1 演出ボタン装置 4 0 を避けるように形成されている。また、下皿 3 5 の上面には、供給球貯留穴 3 4 A に収容しきれない余剰の遊技球を貯留するための余剰球貯留穴 3 5 A が設けられている。

10

【 0 0 1 7 】

さらに、前枠 2 3 m の前面の透明板 2 3 t の上側、右側、および左側には、前方に突出した上側装飾体 3 1 、右側装飾体 3 2 、および左側装飾体 3 3 が設けられている。上側装飾体 3 1 の底面には、音を出力可能な一対の 2 つのスピーカ 5 2 、具体的には左側に配されたスピーカ 5 2 L と右側に配されたスピーカ 5 2 R 、が下方を向いて左右方向に所定距離をおいて並設されている。また、右側装飾体 3 2 の下部には、下方に押下操作可能な第 2 演出ボタン 4 1 k が設けられている。第 2 演出ボタン 4 1 k の操作部分は棒状に成形されている。さらに、右側装飾体 3 2 から上皿 3 4 の正面右部分にかけて、および左側装飾体 3 3 から上皿 3 4 の正面左部分にかけて、発光可能な枠ランプ 5 3 が設けられている。

20

【 0 0 1 8 】

なお、遊技機枠 2 に設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 1 9 】

次に、遊技盤ユニット Y U について、図 1 に加えて図 2 を用いて説明する。遊技盤ユニット Y U は、遊技盤 1 と、遊技盤 1 の背面に取り付けられた盤用演出ユニット E U と、を有する。最初に、遊技盤 1 について説明する。遊技盤 1 は、透明な合成樹脂板で構成されている。遊技盤 1 の略中央には正面視略円形の開口部 1 A が形成されている。

30

【 0 0 2 0 】

遊技盤 1 の前面には、開口部 1 A に沿って、略リング状のセンター装飾体 6 1 が前方に突出して形成されている。また、センター装飾体 6 1 の外側には、センター装飾体 6 1 を大きく取り囲むように略リング状に形成された外レール 6 2 と、外レール 6 2 の左側部分とセンター装飾体 6 1 との間で、外レール 6 2 およびセンター装飾体 6 1 に沿った湾曲状の内レール 6 3 と、が形成されている。

40

【 0 0 2 1 】

そして、遊技盤 1 の前面において、センター装飾体 6 1 、外レール 6 2 および内レール 6 3 などで囲まれた領域が遊技領域 6 を形成している。すなわち、遊技盤 1 の前面が、センター装飾体 6 1 、外レール 6 2 および内レール 6 3 によって、遊技領域 6 とそれ以外の領域とに区切られている。また、外レール 6 2 と内レール 6 3 とで囲まれた領域は、発射された遊技球が遊技領域 6 へ向かうために通過可能な発射領域 7 を形成している。

【 0 0 2 2 】

遊技領域 6 は、ハンドル 7 2 k の操作によって発射された遊技球が流下可能な領域であり、パチンコ遊技機 PY 1 で遊技を行うために設けられている。なお、遊技領域 6 には、多数の遊技用くぎ（図示なし）が突設されている。遊技用くぎは、遊技領域 6 に進入して遊技領域 6 を流下する遊技球を、一般入賞口 1 0 、第 1 始動口 1 1 、第 2 始動口 1 2 、ゲ

50

ート 1 3、および大入賞口 1 4 などに適度に誘導する経路を構成している。

【 0 0 2 3 】

遊技領域 6 の所定位置に一般入賞装置 1 0 D が設けられている。一般入賞装置 1 0 D には、一般入賞口 1 0 が遊技球の入球が可能に形成されている。遊技球が一般入賞口 1 0 へ入球すると、所定個数（第 1 実施形態では、3 個）の遊技球が賞球として払い出される。なお、一般入賞口 1 0 に入球した遊技球はそのまま遊技領域 6 の外部へ排出される。

【 0 0 2 4 】

また、遊技領域 6 におけるセンター装飾体 6 1 の中央直下には第 1 始動入賞装置 1 1 D が設けられている。第 1 始動入賞装置 1 1 D には、第 1 始動口 1 1 が遊技球の入球が可能に形成されている。第 1 始動入賞装置 1 1 D は作動しない非作動構造からなる。そのため、第 1 始動口 1 1 は、遊技球の入球のし易さが変化せずに一定（不变）である。遊技球が第 1 始動口 1 1 へ入球すると、所定個数（第 1 実施形態では、4 個）の遊技球が賞球として払い出される。なお、第 1 始動口 1 1 に入球した遊技球はそのまま遊技領域 6 の外部へ排出される。

10

【 0 0 2 5 】

なお、センター装飾体 6 1 の左側部から下端部にかけて、遊技球を内部に通すワープ部 6 1 w が形成されている。ワープ部 6 1 w への入口はセンター装飾体 6 1 の左側部に形成されている。ワープ部 6 1 w に入った遊技球はワープ部 6 1 w の内部を通って出口から出る。ワープ部 6 1 w の出口付近であってセンター装飾体 6 1 の下端部上面には、遊技球が転動可能なステージ 6 1 S が設けられている。ステージ 6 1 S の先端には、遊技球を下方に導く下方誘導部 6 1 y が設けられている。この下方誘導部 6 1 y の直下には第 1 始動口 1 1 が設けられている。

20

【 0 0 2 6 】

遊技領域 6 における第 1 始動口 1 1 の直下には、第 2 始動入賞装置（所謂「電チュー」）1 2 D が設けられている。電チュー 1 2 D には、遊技球が入球不可能な閉態様と入球可能な開態様とに変化可能な第 2 始動口 1 2 が形成されている。第 2 始動口 1 2 は、電チュー 1 2 D が具備する電チュー開閉部材 1 2 k によって閉態様と開態様とをとる。すなわち、電チュー開閉部材 1 2 k の作動によって第 2 始動口 1 2 が開閉する。

【 0 0 2 7 】

電チュー開閉部材 1 2 k は正面視略 L 字状部材からなり、通常は第 2 始動口 1 2 を閉鎖している。電チュー開閉部材 1 2 k は、前方先端面が遊技領域 6 と面一状態になる退避状態から前方に突出することができる。電チュー開閉部材 1 2 k が前方に突出すると、電チュー開閉部材 1 2 k が遊技領域 6 に垂直に突出した状態になり、第 2 始動口 1 2 が入球可能に開放する。具体的には、電チュー開閉部材 1 2 k の水平部の左端に立設された垂直部分が遊技球を受けとめられ、水平部から第 2 始動口 1 2 へと導かれる。このように、電チュー開閉部材 1 2 k が開状態であるときだけ遊技球の第 2 始動口 1 2 への入球が可能となる。遊技球が第 2 始動口 1 2 へ入球すると、所定個数（第 1 実施形態では、4 個）の遊技球が賞球として払い出される。なお、第 2 始動口 1 2 に入球した遊技球はそのまま遊技領域 6 の外部へ排出される。

30

【 0 0 2 8 】

また、センター装飾体 6 1 の右側にゲート 1 3 が設けられている。ゲート 1 3 は、遊技球が通過可能に構成されている。遊技球がゲート 1 3 を通過しても賞球が払い出されない。なお、ゲート 1 3 を通過した遊技球はそのまま遊技領域 6 を流下する。

40

【 0 0 2 9 】

遊技領域 6 における第 1 始動入賞装置 1 1 D の右側でゲート 1 3 の下流側には、大入賞装置 1 4 D が設けられている。大入賞装置 1 4 D には、遊技球が入球不可能な閉態様と入球可能な開態様とに変化可能な大入賞口 1 4 が形成されている。大入賞口 1 4 は、大入賞装置 1 4 D が具備する A T 開閉部材 1 4 k によって閉態様と開態様とをとる。すなわち、A T 開閉部材 1 4 k の作動によって大入賞口 1 4 が開閉する。

【 0 0 3 0 】

50

A T 開閉部材 1 4 k は正面視略横長矩形状の平板からなる可動部材であり、通常は大入賞口 1 4 を閉鎖している。A T 開閉部材 1 4 k の下端部には、水平な回転軸が設けられている。A T 開閉部材 1 4 k はその回転軸を中心に、上端が前方へ倒れるように約 90 度回転することができる。A T 開閉部材 1 4 k が回転すると、A T 開閉部材 1 4 k が遊技領域 6 に垂直に突出した状態になり、大入賞口 1 4 が入球可能に開放する。このように、A T 開閉部材 1 4 k が開状態であるときだけ遊技球の大入賞口 1 4 への入球が可能となる。遊技球が大入賞口 1 4 へ入球すると、所定個数（第 1 実施形態では、14 個）の遊技球が賞球として払い出される。なお、大入賞口 1 4 に入球した遊技球はそのまま遊技領域 6 の外部へ排出される。

【0031】

また、遊技領域 6 における大入賞装置 1 4 D の下方には、その上面が左斜め下方に形成され、遊技球を第 2 始動口 1 2 へ誘導する誘導経路 6 4 が遊技領域 6（遊技盤 1 の前面）から前方に突出して設けられている。なお、誘導経路 6 4 の上面を転動する遊技球は、第 2 始動口 1 2 の方へ向かって流下可能であるが、基本的には第 1 始動口 1 1 へ入球することはできない。

【0032】

なお、第 1 始動口 1 1 、第 2 始動口 1 2 、大入賞口 1 4 、および一般入賞口 1 0 への遊技球の入球や、遊技球のゲート 1 3 の通過をまとめて、第 1 始動口 1 1 、第 2 始動口 1 2 、大入賞口 1 4 、一般入賞口 1 0 、およびゲート 1 3 への「入賞」と総称する。

【0033】

ところで、遊技球が流下可能な遊技領域 6 は、左右方向の中央より左側の左遊技領域 6 A と、右側の右遊技領域 6 B と、に分けることができる。遊技球が左遊技領域 6 A を流下するように遊技球を発射させるハンドル 7 2 k の操作態様を「左打ち」という。一方、遊技球が右遊技領域 6 B を流下するように遊技球を発射させるハンドル 7 2 k の操作態様を「右打ち」という。遊技領域 6 において、左打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第 1 流路 R 1 といい、右打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第 2 流路 R 2 という。第 1 流路 R 1 および第 2 流路 R 2 には、不図示の多数の遊技用くぎなども構成されている。

【0034】

第 1 流路 R 1 上には、第 1 始動口 1 1 と、2 つの一般入賞口 1 0 と、が設けられている。よって、遊技者は、左打ちにより第 1 流路 R 1 を流下するように遊技球を発射させることで、第 1 始動口 1 1 、または、一般入賞口 1 0 への入賞を狙うことができる。一方、第 2 流路 R 2 上には、第 2 始動口 1 2 と、ゲート 1 3 と、大入賞口 1 4 と、が設けられている。よって、遊技者は、右打ちにより第 2 流路 R 2 を流下するように遊技球を発射させることで、ゲート 1 3 、第 2 始動口 1 2 、または大入賞口 1 4 への入賞を狙うことができる。

【0035】

なお、遊技領域 6 の略最下部には、遊技領域 6 へ打ち込まれたもののいずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技領域 6 の外部へ排出する 2 つのアウトロ 1 9 が設けられている。また、各入賞口への入賞による賞球数は、適宜に設定することが可能である。

【0036】

次に、遊技盤 1 の背面に取り付けられた盤用演出ユニット E U について説明する。盤用演出ユニット E U は、主に演出を行う複数の装置をユニット化したものである。盤用演出ユニット E U には、画像表示装置 5 0 、および盤可動装置 5 5 が取り付けられている。

【0037】

画像表示装置 5 0 は、20 インチの 3D 液晶ディスプレイで構成されており、3D 画像を表示可能な表示部 5 0 a を具備する。

【0038】

盤可動装置 5 5 は、動作可能な盤可動体 5 5 k を備える。盤可動体 5 5 k は、水平状態を保持された横長で板状の昇降部材 5 5 k 2 と、昇降部材 5 5 k 2 の左右方向中央に設けられた略橿円形状の回転部材 5 5 k 1 と、を有する。盤可動体 5 5 k は、初期位置に配さ

10

20

30

40

50

れている待機状態では、遊技盤1と画像表示装置50との間で隠れている。待機状態において、盤可動体55kの下端部分、具体的に回転部材55k1の下端部分が、遊技盤1の開口部1Aの上端から少しだけ下方に位置している。よって、回転部材55k1の下端部の一部のみが遊技者から視認できるよう配されている（図3（A）参照）。そして、盤可動体55kは、全体的に初期位置から所定の作動位置まで下降し、その作動位置から上昇して初期位置に戻ることができる（図3（B）参照）。所定の作動位置としては、正面視で盤可動体55kが開口部1Aの略中央につく位置である。ここで、所定の作業位置は適宜に設定可能であり、正面視で盤可動体55kが開口部1Aの略中央より上方側におかれる位置であっても下方側におかれる位置であってもよい。

【0039】

10

また、回転部材55k1は、中心に設けられた回転軸を中心に回転運動することが可能である（図3（C）参照）。なお、回転部材55k1の回転運動は、盤可動体55kが待機位置から作動位置に移動するとき、作動位置に保持されているとき、および作動位置から待機位置に移動するときに実行可能である。

【0040】

なお、遊技盤ユニットYUに設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0041】

20

次に、遊技盤1の前面に形成された遊技領域6の上下方向略中央の右隣（遊技領域6以外の部分）に配置されている表示器類8について説明する。図4に示すように、表示器類には、第1特別図柄（以下、「特図1」という）を可変表示する特図1表示器81a、第2特別図柄（以下、「特図2」という）を可変表示する特図2表示器81b、及び、普通図柄（以下、「普図」という）を可変表示する普図表示器82が含まれている。また、表示器類には、後述する特図1保留数を表示する特図1保留表示器83a、および後述する特図2保留数を表示する特図2保留表示器83bが含まれている。

【0042】

30

特図1の可変表示は、遊技球の第1始動口11への入賞を契機とした特図1抽選が行われると実行される。また、特図2の可変表示は、遊技球の第2始動口12への入賞を契機とした特図2抽選が行われると実行される。特図1抽選、および特図2抽選については後述する。なお、以下の説明では、特図1、および特図2を総称して「特図」といい、特図1抽選、および特図2抽選を総称して「特図抽選」という。また、特図1表示器81a、および特図2表示器81bを総称して「特図表示器81」という。さらに、特図1保留表示器83a、および特図2保留表示器83bを総称して「特図保留表示器83」という。

【0043】

特図の可変表示は、特図抽選の結果を報知する。特図の可変表示では、特図が変動表示した後に停止表示する。停止表示された特図（停止特図）は、可変表示の表示結果として導出された特図抽選の結果を表す識別情報である。停止表示された特図が予め定めた特定の特図である場合には、大入賞口14の開放を伴う大当たり遊技が行われる。

【0044】

40

特図1表示器81a、および特図2表示器81bはそれぞれ、横並びに配された8個のLEDから構成されている。特図1表示器81a、および特図2表示器81bの点灯様様は、特図抽選の結果に応じた特図、すなわち特図抽選の結果を表す。例えば特図抽選の結果が大当たりである場合には、最終的に「」（：点灯、：消灯）というように左から1, 2, 5, 6番目にあるLEDが点灯する。この点灯様様が大当たり図柄であり、大当たりを表す。また、特図抽選の結果がハズレである場合には、最終的に「」というように一番右にあるLEDのみが点灯する。この点灯様様がハズレ図柄であり、ハズレを表す。なお、特図抽選の結果に対応するLEDの点灯様様は限定されず、適宜に設定することができる。よって、例えば、ハズレ図柄として全てのLEDを消灯させてもよい。

【0045】

50

また、特図の可変表示において、特図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって特図の変動表示がなされる。特図の変動表示の態様は、例えば左から右へ光が繰り返し流れるように各 L E D が点灯する態様である。なお、変動表示の態様は、特に限定されず、各 L E D が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全 L E D が一斉に点滅するなど適宜に設定してよい。

【 0 0 4 6 】

ところで、パチンコ遊技機 P Y 1 では、遊技球が第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 へ入賞してもすぐに特図抽選および特図の可変表示が行われない場合がある。具体的には、特図の可変表示の実行中や大当たり遊技の実行中に遊技球の第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 への入賞があった場合である。この場合、所定個数を上限として、その入賞に基づいて特図抽選および特図の可変表示を実行する権利が留保される。この留保された権利のことを「特図保留」という。

【 0 0 4 7 】

特図保留には、第 1 始動口 1 1 への入賞に基づいて留保された特図 1 抽選、および特図 1 の可変表示を実行する権利を表す「特図 1 保留」と、第 2 始動口 1 2 への入賞に基づいて留保された特図 2 抽選、および特図 2 の可変表示を実行する権利を表す「特図 2 保留」と、がある。そして、特図 1 保留の数、すなわち留保されている特図 1 抽選および特図 1 の可変表示を実行する権利の数を特図 1 保留表示器 8 3 a が表示する。一方、特図 2 保留の数、すなわち留保されている特図 2 抽選、および特図 2 の可変表示を実行する権利の数を特図 2 保留表示器 8 3 b が表示する。

【 0 0 4 8 】

特図 1 保留表示器 8 3 a および特図 2 保留表示器 8 3 b のそれぞれは、4 個の L E D で構成されており、特図 1 保留および特図 2 保留の数の分だけ L E D を点灯させることにより特図 1 保留および特図 2 保留の数を表示する。なお、以下において、特図 1 保留の数を「特図 1 保留数（U 1）」といい、特図 2 保留数の数を「特図 2 保留数（U 2）」という。また、「特図 1 保留数」や「特図 2 保留数」を総称して「特図保留数」という。さらに、「特図 1 保留表示器 8 3 a」と「特図 2 保留表示器 8 3 b」とを総称して「特図保留表示器 8 3」という。

【 0 0 4 9 】

また、普図の可変表示は、遊技球のゲート 1 3 の通過を契機とした普図抽選が行われると実行される。そして、普図の可変表示は、普図抽選の結果を報知する。普図の可変表示では、普図が変動表示した後に停止表示する。停止表示された普図（停止普図）は、可変表示の表示結果として導出された普図抽選の結果を表す識別情報である。停止表示された普図が予め定めた特定の普図である場合には、第 2 始動口 1 2 の開放を伴う補助遊技が行われる。

【 0 0 5 0 】

普図表示器 8 2 は、例えば 2 個の L E D から構成されている。普図表示器 8 2 の点灯態様は、普図抽選の結果に応じた普図、すなわち普図抽選の結果を表す。普図抽選の結果が当たりである場合には、最終的には、「 」（ ：点灯、 ：消灯）というように両 L E D が点灯する。この点灯態様が当たり図柄であり、当たりを表す。また普図抽選の結果がハズレである場合には、最終的には、「 」というように右の L E D のみが点灯する。この点灯態様がハズレ図柄であり、ハズレを表す。なお、普図抽選の結果に対応する L E D の点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。例えば、ハズレ図柄として全ての L E D を消灯させる態様を採用してもよい。

【 0 0 5 1 】

また、普図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって普図の変動表示が行われる。普図の変動表示の態様は、第 1 実施形態では、両 L E D が交互に点灯するという態様である。なお、普図の変動表示の態様は、特に限定されず、各 L E D が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全 L E D が一斉に点滅するなど適宜に設定してもよい。

【0052】

2. 遊技機の電気的構成

次に、図5～図6に基づいて、パチンコ遊技機PY1の電気的な構成を説明する。パチンコ遊技機PY1は、遊技利益を得ることが可能な遊技に関する制御（遊技の進行）を行う遊技制御基板100、遊技制御基板100による遊技の進行に応じた演出に関する制御を行う演出制御基板120、および、遊技球の払い出しに関する制御などを行う払出制御基板170等を備えている。遊技制御基板100、演出制御基板120、および払出制御基板170等は、ユニット化されて盤用演出ユニットEUの背面側に設置されている。

【0053】

なお、遊技制御基板100の制御対象となる遊技利益を獲得可能な遊技には、特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、後述する遊技状態の設定、普図抽選、普図の可変表示、補助遊技などが含まれる。また、演出制御基板120の制御対象となる演出には、遊技演出（特図変動演出、保留演出、大当たり遊技演出など）、客待ち演出、第1演出ボタン40kや第2演出ボタン41kの操作が有効な期間（操作有効期間）において操作を促す操作促進演出などが含まれている。10

【0054】

また、遊技制御基板100は、遊技の制御を行う遊技制御部と位置づけることができる。一方、演出制御基板120は、後述する画像制御基板140、音声制御回路161、およびサブドライブ基板162と共に、演出の制御を行う演出制御部と位置づけることができる。なお、演出制御部は、少なくとも演出制御基板120を備え、演出装置（画像表示装置50、スピーカ52、枠ランプ53、および盤可動体55k等）を用いた遊技演出、客待ち演出、および操作促進演出などを制御可能であればよい。20

【0055】

また、パチンコ遊技機PY1は、電源基板190を備えている。電源基板190は、遊技制御基板100、演出制御基板120、及び払出制御基板170に対して電力を供給するとともに、これらの基板を介してその他の機器に対して必要な電力を供給する。電源基板190には、電源スイッチ191が接続されている。電源スイッチ191のONOFF操作により、電源の投入／遮断が切り換えられる。

【0056】

図5に示すように、遊技制御基板100には、プログラムに従ってパチンコ遊技機PY1の遊技の進行を制御する遊技制御用ワンチップマイコン（以下「遊技制御用マイコン」）101が実装されている。遊技制御用マイコン101には、遊技の進行を制御するためのプログラムやテーブル等を記憶した遊技用ROM（Read Only Memory）103、ワークメモリとして使用される遊技用RAM（Random Access Memory）104、遊技用ROM103に記憶されたプログラムを実行する遊技用CPU（Central Processing Unit）102が含まれている。30

【0057】

遊技用ROM103には、後述する遊技制御メイン処理や遊技制御側タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。また、遊技用ROM103には、後述する大当たり判定テーブル、大当たり図柄種別判定テーブル、リーチ判定テーブル、特図変動パターン判定テーブル、先読み判定テーブル、大当たり遊技制御テーブル、遊技状態設定テーブル、当たり判定テーブル、補助遊技制御テーブルなどが格納されている。なお、遊技用ROM103は外付けであってもよい。40

【0058】

また、遊技用RAM104には、特図保留記憶部105が設けられている。ここで、特図保留記憶部105について説明する。前述の通り、遊技球の第1始動口11または第2始動口12への入賞があると、特図保留が発生可能であるが、特図保留が可能な場合、すなわち、特図保留数が上限値に達していないときには、この入賞に基づいて、特図抽選などをを行うための各種乱数からなる判定情報が取得される。そして、この判定情報は、特図保留として特図保留記憶部105に一旦記憶される。なお、以下において、遊技球の第150

始動口 1 1 への入賞により取得される判定情報を「特図 1 関連判定情報」といい、遊技球の第 2 始動口 1 2 への入賞により取得される判定情報を「特図 2 関連判定情報」という。また、特図 1 関連判定情報と特図 2 関連判定情報を総称して「特図関連判定情報」という。

【 0 0 5 9 】

そして、特図 1 関連判定情報は、特図 1 保留として、特図保留記憶部 1 0 5 の中の特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶される。一方、特図 2 関連判定情報は、特図 2 保留として、特図保留記憶部 1 0 5 の中の特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶される。特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶可能な特図 1 関連判定情報の数、すなわち、特図 1 保留数の上限数は「4」に設定されている。また、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶可能な特図 2 関連判定情報の数、すなわち、特図 2 保留数の上限数は「4」に設定されている。なお、特図 1 保留数の上限数および特図 2 保留数の上限数は適宜に設定しても良い。また特図 1 保留数の上限数および特図 2 保留数の上限数を設けなくても良い。

【 0 0 6 0 】

また、遊技制御基板 1 0 0 には、所定の中継基板（図示なし）を介して各種センサ類やソレノイド類が接続されている。そのため、遊技制御基板 1 0 0 には、各種センサ類が出力した信号が入力する。また、遊技制御基板 1 0 0 は、各種アクチュエータ類に信号を出力する。

【 0 0 6 1 】

遊技制御基板 1 0 0 に接続されている各種センサ類には、一般入賞口センサ 1 0 a、第 1 始動口センサ 1 1 a、第 2 始動口センサ 1 2 a、ゲートセンサ 1 3 a、および大入賞口センサ 1 4 a が含まれている。

【 0 0 6 2 】

一般入賞口センサ 1 0 a は、一般入賞口 1 0 に入賞した遊技球を検知する。第 1 始動口センサ 1 1 a は、第 1 始動口 1 1 に入賞した遊技球を検知する。第 2 始動口センサ 1 2 a は、第 2 始動口 1 2 に入賞した遊技球を検知する。ゲートセンサ 1 3 a は、ゲート 1 3 を通過した遊技球を検知する。大入賞口センサ 1 4 a は、大入賞口 1 4 に入賞した遊技球を検知する。

【 0 0 6 3 】

また、遊技制御基板 1 0 0 に接続されている各種アクチュエータ類には、電チューソレノイド 1 2 s、および A T ソレノイド 1 4 s が含まれている。電チューソレノイド 1 2 s は、電チュー 1 2 D の電チュー開閉部材 1 2 k を駆動する。A T ソレノイド 1 4 s は、大入賞装置 1 4 D の A T 開閉部材 1 4 k を駆動する。

【 0 0 6 4 】

なお、遊技制御基板 1 0 0 に接続されるセンサの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。また、遊技制御基板 1 0 0 に接続されるアクチュエータの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 6 5 】

さらに遊技制御基板 1 0 0 には、表示器類 8（特図表示器 8 1、普図表示器 8 2、および、特図保留表示器 8 3）が接続されている。これらの表示器類 8 の表示制御は、遊技制御用マイコン 1 0 1 によりなされる。

【 0 0 6 6 】

また遊技制御基板 1 0 0 は、払出手制御基板 1 7 0 に各種コマンドを送信するとともに、払い出し監視のために払出手制御基板 1 7 0 から信号を受信する。払出手制御基板 1 7 0 には、カードユニット C U、および払出手装置 7 3 が接続されているとともに、発射装置 7 2 が接続されている。また、カードユニット C U は、パチンコ遊技機 P Y 1 に隣接して設置され、挿入されているプリペイドカード等の情報に基づいて球貸しを可能にする装置である。

【 0 0 6 7 】

払出手制御基板 1 7 0 は、遊技制御用マイコン 1 0 1 からの信号や、接続されたカードユニット C U からの信号に基づいて、払出手装置 7 3 の払出手モータ 7 3 m を駆動して賞球や貸

10

20

30

40

50

球の払い出しを行う。払い出される賞球や貸球は、その計数のための払出センサ 73a により検知される。

【0068】

また、発射装置 72 は遊技球を発射する装置である。ハンドル 72k が、発射装置 72 に遊技球を発射させるための操作を受け付ける操作部または入力部を構成しており、発射装置 72 に含まれる。ハンドル 72k には、遊技者などの人のハンドル 72k への接触を検知可能なタッチスイッチ 72a が設けられている。遊技者によるハンドル 72k の操作があった場合には、タッチスイッチ 72a が遊技者のハンドル 72k への接触を検知し、発射制御回路 175 を介して検知信号を払出制御基板 170 に出力する。

【0069】

さらに、ハンドル 72k には、ハンドル 72k の回転角度（操作量）を検出可能な発射ボリュームのつまみ 72b が接続されている。発射装置 72 は、発射ボリュームのつまみ 72b が検出したハンドル 72k の回転角度に応じた強さで遊技球が発射されるよう発射モータ 72m を駆動させる。なお、パチンコ遊技機 PY1においては、ハンドル 72k への回転操作が維持されている状態では、約 0.6 秒毎に 1 球の遊技球が発射されるようになっている。

【0070】

また遊技制御基板 100 は、遊技の進行に応じて、演出制御基板 120 に対し、遊技に関する情報を含んだ各種コマンドを送信する。演出制御基板 120 は、遊技制御基板 100 から送られてきた各種コマンドに基づいて、遊技制御基板 100 による遊技の進行状況（遊技の制御内容）を把握することができる。なお、遊技制御基板 100 と演出制御基板 120との接続は、遊技制御基板 100 から演出制御基板 120 への信号の送信のみが可能な单方向通信接続となっている。すなわち、遊技制御基板 100 と演出制御基板 120 との間には、通信方向規制手段としての図示しない单方向性回路（例えばダイオードを用いた回路）が介在している。

【0071】

図 6 に示すように、演出制御基板 120 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 PY1 の演出を制御する演出制御用ワンチップマイコン（以下「演出制御用マイコン」）121 が実装されている。演出制御用マイコン 121 には、遊技制御基板 100 による遊技の進行に伴って演出を制御するためのプログラム等を記憶した演出用 ROM 123、ワークメモリとして使用される演出用 RAM 124、演出用 ROM 123 に記憶されたプログラムを実行する演出用 CPU 122 が含まれている。

【0072】

また、演出用 ROM 123 には、後述する演出制御メイン処理、受信割り込み処理、1ms タイマ割り込み処理、および、10ms タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。なお、演出用 ROM 123 は外付けであってもよい。また、演出用 RAM 124 には、始動入賞コマンドを記憶する始動入賞コマンド保留記憶部 125 が設けられている。

【0073】

演出制御基板 120 には、画像制御基板 140 が接続されている。演出制御基板 120 の演出制御用マイコン 121 は、遊技制御基板 100 から受信したコマンドに基づいて、すなわち、遊技制御基板 100 による遊技の進行に応じて、画像制御基板 140 の画像用 CPU 141 に画像表示装置 50 の表示制御を行わせる。なお、演出制御基板 120 と画像制御基板 140 との接続は、演出制御基板 120 から画像制御基板 140 への信号の送信と、画像制御基板 140 から演出制御基板 120 への信号の送信の双方が可能な双方向通信接続となっている。

【0074】

画像制御基板 140 は、画像制御のためのプログラム等を記憶した画像用 ROM 142、ワークメモリとして使用される画像用 RAM 143、及び、画像用 ROM 142 に記憶されたプログラムを実行する画像用 CPU 141 を備えている。また、画像制御基板 14

10

20

30

40

50

0は、画像表示装置50に表示される画像のデータを記憶したC G R O M (C h a r a c t e r G e n e r a t o r R e a d O n l y M e m o r y) 1 4 5、C G R O M 1 4 5に記憶されている画像データの展開等に使用されるV R A M (V i d e o R a n d o m A c c e s s M e m o r y) 1 4 6、及び、V D P (V i d e o D i s p l a y P r o c e s s o r) 1 4 4を備えている。勿論、これらの電子部品の全部又は一部がワンチップで構成されていてもよい。C G R O M 1 4 5には、例えば、画像表示装置50に表示される画像を表示するための画像データ（静止画データや動画データ、具体的にはキャラクタ、アイテム、図柄、図形、文字、数字および記号等（演出図柄を含む）や背景画像等の画像データ）が格納されている。

【 0 0 7 5 】

V D P 1 4 4は、演出制御用マイコン121からの指令に基づき画像用C P U 1 4 1によって作成されるディスプレイリストに従って、C G R O M 1 4 5から画像データを読み出してV R A M 1 4 6内の展開領域に展開する。そして、展開した画像データを適宜合成してV R A M 1 4 6内のフレームバッファに画像を描画する。そしてフレームバッファに描画した画像をR G B信号として画像表示装置50に出力する。これにより、種々の演出画像が表示部50aに表示される。

【 0 0 7 6 】

なお、ディスプレイリストは、フレーム単位で描画の実行を指示するためのコマンド群で構成されている。ディスプレイリストには、描画する画像の種類、画像を描画する位置、表示の優先順位、表示倍率、画像の透過率等の種々のパラメータの情報が含まれている。

【 0 0 7 7 】

演出制御用マイコン121は、遊技制御基板100から受信したコマンドに基づいて、すなわち、遊技制御基板100による遊技の進行に応じて、音声制御回路161を介してスピーカ52から音声、楽曲、効果音等を出力する。

【 0 0 7 8 】

スピーカ52から出力する音声等の音声データは、演出制御基板120の演出用R O M 1 2 3に格納されている。なお、音声制御回路161を、基板にしてC P Uを実装してもよい。この場合、そのC P Uに音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板にR O Mを実装し、そのR O Mに音声データを格納してもよい。また、スピーカ52を画像制御基板140に接続し、画像制御基板140の画像用C P U 1 4 1に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、画像制御基板140の画像用R O M 1 4 2に音声データを格納してもよい。

【 0 0 7 9 】

また、演出制御基板120には、所定の中継基板（図示なし）を介して、入力部となる各種センサ類や駆動源となる各種アクチュエータ類が接続されている。演出制御基板120には、各種センサ類が出力した信号が入力する。また、演出制御基板120は、各種アクチュエータ類に信号を出力する。

【 0 0 8 0 】

演出制御基板120に接続されている各種スイッチ類には、第1演出ボタン検知センサ40a、および第2演出ボタン検知センサ41aが含まれている。第1演出ボタン検知センサ40aは、第1演出ボタン40kが押下操作されたことを検出する。第2演出ボタン検知センサ41aは、第2演出ボタン41kが押下操作されたことを検出する。第1演出ボタン検知センサ40a、および第2演出ボタン検知センサ41aは、それぞれが操作されたことを検知すると、その検出内容に応じた信号を演出制御基板120に出力する。

【 0 0 8 1 】

なお、演出制御基板120に接続されるスイッチの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。また、演出制御基板120に接続されるアクチュエータの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 8 2 】

演出制御基板120に接続された各種アクチュエータ類には、回転部材用モータ55m

10

20

30

40

50

1、および昇降部材用モータ 55m2 が含まれている。回転部材用モータ 55m1 は、回転部材 55k1 を駆動して、回転部材 55k1 を回転させることが可能である。昇降部材用モータ 55m2 は、昇降部材 55k2 を上昇または下降させることが可能である。詳細には、演出制御用マイコン 121 は、回転部材 55k1 や昇降部材 55k2 の動作態様を決める動作パターンデータを作成し、サブドライブ基板 162 を介して、回転部材 55k1 や昇降部材 55k2 の動作を制御する。なお、以下において、「回転部材 55k1 や昇降部材 55k2」の動作を「盤可動体 55k の動作」と総称することもある。また、回転部材 55k1 を回転させることや昇降部材 55k2 を下降または上昇させることについて「盤可動体 55k を回転させる、または下降もしくは上昇させる」ともいう。

【0083】

10

また、演出制御用マイコン 121 は、遊技制御基板 100 から受信したコマンドなどに基づいて、サブドライブ基板 162 を介して枠ランプ 53 などの点灯制御を行う。詳細には演出制御用マイコン 121 は、枠ランプ 53 の発光態様を決める発光パターンデータ（点灯/消灯や発光色等を決めるデータ、ランプデータともいう）を作成し、発光パターンデータに従って枠ランプ 53 の発光を制御する。なお、発光パターンデータの作成には演出制御基板 120 の演出用 ROM 123 に格納されているデータを用いる。

【0084】

20

なお、サブドライブ基板 162 を基板にして CPU を実装してもよい。この場合、その CPU に、枠ランプ 53 等の点灯制御、および、盤可動体 55k の動作制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板に ROM を実装して、その ROM に発光パターンや動作パターンに関するデータを格納してもよい。

【0085】

3. 遊技機による主な遊技

次に、パチンコ遊技機 PY1 により行われる主な遊技について、図 7～図 14 を用いて説明する。

【0086】

30

3-1. 普図に関わる遊技

最初に、普図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 PY1 は、発射された遊技球がゲート 13 を通過すると、普図抽選を実行することができる。普図抽選を行うと、普図表示器 82 において、普図の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行う。ここで、停止表示される普図には、当たり図柄とハズレ図柄とがある。なお、普図のハズレ図柄については、後述する特図のハズレ図柄と区別をするために「ハズレ普図」ともいう。当たり図柄が停止表示されると補助遊技が実行されて、当該ゲート 13 の通過に係る遊技が終了する。一方、ハズレ普図が停止表示されると、補助遊技は行われず、当該ゲート 13 の通過に係る遊技が終了する。また、以下において、普図の可変表示または補助遊技が行われていないときに遊技球がゲート 13 を通過することを「普図変動始動条件の成立」という。

【0087】

40

パチンコ遊技機 PY1 は、このような一連の遊技（普図抽選、普図の可変表示、補助遊技）を行うにあたり、普図変動始動条件の成立により、普図関連判定情報を取得する。取得する普図関連判定情報には、図 7 (A) に示すように、普通図柄乱数がある。普通図柄乱数は当たり判定を行うための乱数（判定情報）である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。

【0088】

3-1-1. 当たり判定

当たり判定は、例えば図 8 (A) に示すような当たり判定テーブルを用いて、当たりか否か（補助遊技を実行するか否か）を決定するための判定である。当たり判定テーブルは、後述する遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、当たり判定テーブルには、非時短状態で用いる当たり判定テーブル（非時短用当たり判定テーブル）と、時短状態で用いる当たり判定テーブル（時短用当たり判定テーブル）と、がある。各当たり判定テ

50

ープルでは、当たり判定の結果である当たりとハズレに、普通図柄乱数の判定値（普通図柄乱数判定値）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した普通図柄乱数を当たり判定テーブルに照合して、当たりかハズレかの当たり判定を行う。当たり判定の結果が当たりであると、基本的には、普図の可変表示で当たり図柄が停止表示される。一方、当たり判定の結果がハズレであると、基本的には、普図の可変表示でハズレ普図が停止表示される。なお、当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

【 0 0 8 9 】

3 - 1 - 2 . 普図変動パターン判定・普図可変表示

普図変動パターン判定は、例えば図 8 (B) に示すような普図変動パターン判定テーブルを用いて、普図変動パターンを決定するための判定である。普図変動パターンとは、普図変動時間などの普図の可変表示に関する所定事項に関する識別情報である。

10

【 0 0 9 0 】

普図変動パターン判定テーブルは、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に関連付けることが可能である。すなわち、普図変動パターン判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（非時短普図変動パターン判定テーブル）と時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（時短普図変動パターン判定テーブル）とがある。

【 0 0 9 1 】

各普図変動パターン判定テーブルには、普図変動パターン判定の結果である普図変動パターンが、停止される普図毎に 1 つ格納されている。すなわち、パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態と時短状態とで、普図変動時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態においては、ハズレの普図（ハズレ普図）を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 30 秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 30 秒となる普図変動パターンに決定する。また、時短状態においては、ハズレ普図を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 5 秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 5 秒となる普図変動パターンに決定する。なお、これら普図変動時間については、適宜に変更することが可能である。

20

【 0 0 9 2 】

そして、普図変動パターン判定で決定された普図変動パターンに対応付けられた普図変動時間の普図の可変表示が、普図表示器 8 2 で行われる。このように、当たり判定、および、普図変動パターン判定が行われることによって、普図表示器 8 2 において普図の可変表示が行われる。

30

【 0 0 9 3 】

3 - 1 - 3 . 補助遊技

補助遊技は、普図の可変表示で、表示結果（普図抽選の結果）として、当たり図柄が停止表示（導出）されると実行される。

40

【 0 0 9 4 】

補助遊技を構成する要素（補助遊技構成要素）、すなわち、電チュー 1 2 D が開放する回数、および各開放についての開放時間などの様々な要素が含まれている。そして、これらの各要素は、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に対応付けることが可能である。パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に基づいて、例えば図 8 (C) に示すような補助遊技制御テーブルを用いて補助遊技を制御する。補助遊技制御テーブルは、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に対応付けられている。各補助遊技制御テーブルには、補助遊技構成要素が格納されている。なお、開放回数や開放時間などの各要素については、適宜に変更することが可能である。

【 0 0 9 5 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態における補助遊技と時短状態における補助遊技と

50

で、電チュー 1 2 D の開放時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態における補助遊技では、0 . 2 秒などの遊技球を電チュー 1 2 D に入賞させるのが困難な第 1 の開放時間だけ電チュー 1 2 D が開放する。一方、時短状態における補助遊技では、例えば、1 . 0 秒のインターバル（閉鎖）を挟んだ 2 . 5 秒の 2 回開放などの第 1 の開放時間よりも長く、遊技球を電チュー 1 2 D に入賞させるのが容易な第 2 の開放時間だけ電チュー 1 2 D が開放する。

【 0 0 9 6 】

なお、以下において、非時短状態における補助遊技のことを「ショート開放補助遊技」ともいう。一方、時短状態における補助遊技のことを「ロング開放補助遊技」ともいう。また、各補助遊技における開放時間は、その補助遊技での合計時間であり、例えば、一度開放した後に一旦閉鎖するインターバルを挟んで再度開放するなど、1 回の補助遊技の中で複数回開放するように構成しても良い。

10

【 0 0 9 7 】

3 - 2 . 特図に関わる遊技

次に、特図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 PY 1 は、発射された遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、特図 1 抽選を実行することができる。特図 1 抽選が行われると、特図 1 表示器 8 1 a において、特図 1 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 1 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 1 には、大当たり図柄、およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 1 抽選の結果には大当たり、およびハズレがある。

20

【 0 0 9 8 】

大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。また、ハズレ図柄が停止表示されると、大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 0 9 9 】

同様に、パチンコ遊技機 PY 1 は、発射された遊技球が第 2 始動口 1 2 に入賞すると、特図 2 抽選を実行することができる。特図 2 抽選が行われると、特図 2 表示器 8 1 b において、特図 2 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 2 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 2 には、大当たり図柄、およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 2 抽選の結果には、大当たり、およびハズレがある。

30

【 0 1 0 0 】

大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。さらに、ハズレ図柄が停止表示されると大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 1 0 1 】

また、以下において、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞することを「第 1 始動条件の成立」といい、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞することを「第 2 始動条件の成立」という。また、「第 1 始動条件の成立」と「第 2 始動条件の成立」をまとめて「始動条件の成立」と総称する。また、特別図柄のハズレ図柄については、前述の普図のハズレ図柄と区別するために「ハズレ特図」ともいう。

40

【 0 1 0 2 】

パチンコ遊技機 PY 1 は、このような一連の遊技（特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、および遊技状態の設定）を行うために、始動条件の成立により、特図関連判定情報を取得し、当該特図関連判定情報について種々の判定を行う。取得する特図関連判定情報には、図 7 (B) に示すように、特別図柄乱数、大当たり図柄種別乱数、リーチ乱数および特図変動パターン乱数がある。特別図柄乱数は大当たり判定を行うための乱数（判定情報）である。大当たり図柄種別乱数は大当たり図柄種別判定を行うための乱数（判定情報）である。リーチ乱数はリーチ判定を行うための乱数（判定情報）である。特図変動パターン乱数は特別図柄の変動パターン判定を行うための乱数（判定情報）である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。次に、特図関連判定情報を用いて行われる各判定に

50

について説明する。

【0103】

3 - 2 - 1 . 大当たり判定

大当たり判定は、例えば図9(A)、図9(B)に示すような大当たり判定テーブルを用いて、大当たりか否か(大当たり遊技を実行するか否か)、言い換えると、大当たり、またはハズレの何れかを決定することである。大当たり判定テーブルは、第1始動口11への入賞に基づく大当たり判定で用いる大当たり判定テーブル(以下、「第1大当たり判定テーブル」という)と、第2始動口12への入賞に基づく大当たり判定で用いる大当たり判定テーブル(以下、「第2大当たり判定テーブル」という)と、がある。そして、始動口の種別に関連付けられた大当たり判定テーブルのそれには、さらに通常確率状態で用いる大当たり判定テーブル(通常確率用第1大当たり判定テーブル、通常確率用第2大当たり判定テーブル)と、高確率状態で用いる大当たり判定テーブル(高確率用第1大当たり判定テーブル、高確率用第2大当たり判定テーブル)と、がある。

10

【0104】

なお、パチンコ遊技機PY1では、第1始動口11に入賞すると特図1の可変表示が実行され、第2始動口12に入賞すると特図2の可変表示が実行される。よって、第1大当たり判定テーブルは特図1用の大当たり判定テーブル、第2大当たり判定テーブルは特図2用の大当たり判定テーブルということができる。

【0105】

遊技状態に関連付けられた各第1大当たり判定テーブルでは、大当たり判定の結果である大当たり、およびハズレに、特別図柄乱数の判定値(特別図柄乱数判定値)が振り分けられている。パチンコ遊技機PY1は、取得した特別図柄乱数を第1大当たり判定テーブルに照合して、大当たり、またはハズレの何れであるかを判定する。図9(A)に示すように、高確率用第1大当たり判定テーブルの方が、通常確率用第1大当たり判定テーブルよりも、大当たりと判定される特別図柄乱数判定値が多く設定されている。

20

【0106】

また、遊技状態に関連付けられた各第2大当たり判定テーブルでは、大当たり判定の結果である大当たり、およびハズレに、特別図柄乱数の判定値(特別図柄乱数判定値)が振り分けられている。パチンコ遊技機PY1は、取得した特別図柄乱数を第2大当たり判定テーブルに照合して、大当たり、またはハズレの何れであるかを判定する。図9(B)に示すように、高確率用第2大当たり判定テーブルの方が、通常確率用第2大当たり判定テーブルよりも、大当たりと判定される特別図柄乱数判定値が多く設定されている。

30

【0107】

なお、大当たりの当選確率や各種大当たり判定の判定結果に対する特別図柄乱数判定値の振り分け方については、適宜に変更することが可能である。

【0108】

3 - 2 - 2 . 大当たり図柄種別判定

大当たり図柄種別判定は、大当たり判定の結果が大当たりである場合に、例えば図9(C)に示すような大当たり図柄種別判定テーブルを用いて大当たり図柄の種別(大当たり図柄種別)を決定することである。大当たり図柄の種別に、大当たりの内容、換言すれば、遊技者に付与される遊技特典などで構成される大当たりの構成要素(遊技者に有利な内容)を対応付けることが可能である。

40

【0109】

大当たり図柄種別判定テーブルは、可変表示される特別図柄の種別(特図1/特図2)、言い換えれば、当該大当たり図柄種別判定が起因する(当該大当たり図柄種別判定を発生させた)入賞が行われた始動口の種別(第1始動口11/第2始動口12)に関連付けられている。すなわち、大当たり図柄種別判定テーブルには、特図1の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル(第1大当たり図柄種別判定テーブル)と特図2の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル(第2大当たり図柄種別判定テーブル)とがある。

50

【 0 1 1 0 】

大当たり図柄は複数種類設定可能である。各大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別判定の結果である大当たり図柄種別に、大当たり図柄種別乱数の判定値（大当たり図柄種別乱数判定値）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 PY1 は、取得した大当たり図柄種別乱数を大当たり図柄種別判定テーブルに照合して、大当たり図柄の種別を判定する。そして、第1大当たり図柄種別判定テーブルおよび第2大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別乱数判定値が各種大当たり図柄に適宜に振り分けられている。

【 0 1 1 1 】

特図1の大当たり図柄、および特図2の大当たり図柄の種類は適宜に設定することができるが、例えば、図9(C)に示す大当たり図柄種別判定テーブルのように、特図1の大当たり図柄として、大当たり図柄A、大当たり図柄B、および大当たり図柄Cの3種類の大当たり図柄を設け、特図2の大当たり図柄として、大当たり図柄D、大当たり図柄E、および大当たり図柄Fの3種類の大当たり図柄を設けることができる。そして、図9(C)に示す大当たり図柄種別判定テーブルのように、第1大当たり図柄種別判定テーブルおよび第2大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別乱数判定値が各種大当たり図柄に適宜に振り分けられている。なお、大当たり図柄種別の振分率については、適宜に変更することが可能である。また、大当たり図柄の種別については、適宜に増加したり減少したりすることが可能である。

10

【 0 1 1 2 】**3 - 2 - 3 . リーチ判定**

リーチ判定は、大当たり判定の結果がハズレである場合に、例えば図9(D)に示すようなリーチ判定テーブルを用いて、後述する特図変動演出でリーチを発生させるか否かを決定することである。

20

【 0 1 1 3 】

リーチ判定テーブルは、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に関連付けることが可能である。すなわち、リーチ判定テーブルには、非時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル（非時短用リーチ判定テーブル）と時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル（時短用リーチ判定テーブル）とがある。

30

【 0 1 1 4 】

各リーチ判定テーブルでは、リーチ判定の結果である「リーチ有り（リーチを発生させる）」と「リーチ無し（リーチを発生させない）」に、リーチ乱数の判定値（リーチ乱数判定値）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 PY1 は、取得したリーチ乱数をリーチ判定テーブルに照合して、リーチ有りかリーチ無しか（リーチを発生させる否か）を判定する。

【 0 1 1 5 】

図9(D)に示すように、非時短用リーチ判定テーブルと時短用リーチ判定テーブルとで、「リーチ有り（リーチを発生させる）」と判定されるリーチ乱数判定値の数を異なれることが可能である。なお、以下において、大当たり判定の結果が「ハズレ」であることを前提に行われるリーチ判定の結果「リーチ有り（リーチを発生させる）」のことを「リーチ有りハズレ」といい、「リーチ無し（リーチを発生させない）」のことを「リーチ無しハズレ」ということもある。

40

【 0 1 1 6 】**3 - 2 - 4 . 特図変動パターン判定・特図可変表示**

特図変動パターン判定は、大当たり判定の結果が大当たり、およびハズレの何れの場合にも、例えば図10～図11に示すような特別図柄の変動パターン判定テーブル（特図変動パターン判定テーブル）を用いて、特図の可変表示の変動パターン（特図変動パターン）を決定することである。

【 0 1 1 7 】

特図変動パターンとは、特図変動時間や後述する特図変動演出の演出フロー（演出内容

50

)などに関する所定事項を識別するための識別情報である。なお、特図変動パターンには、特図変動時間や特図変動演出の演出フロー（演出内容）の他、大当たり判定の結果とリーチ判定の結果に関する識別情報を含ませることが可能である。特図変動パターンとして、それぞれ識別情報が異なる複数種類の特図変動パターンを用いることが可能であり、その数は適宜に変更することが可能である。

【0118】

特図変動パターン判定テーブルは、判定対象となる可変表示を行う特別図柄の種別（特図1／特図2）、言い換えれば、当該特図変動パターン判定が起因する入賞が行われた始動口の種別（第1始動口11／第2始動口12）に関連付けることが可能である。すなわち、特図変動パターン判定テーブルには、特図1の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル（特図1変動パターン判定テーブル：図10）と、特図2の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル（特図2変動パターン判定テーブル：図11）とがある。

10

【0119】

そして、各特図変動パターン判定テーブルは、遊技状態（非時短状態／時短状態）に関連付けることが可能である。すなわち、特図1変動パターン判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる特図1変動パターン判定テーブル（非時短用特図1変動パターン判定テーブル）と時短状態のときに用いられる特図1変動パターン判定テーブル（時短用特図1変動パターン判定テーブル）とがある。一方、特図2変動パターン判定テーブルについても同様に、非時短状態のときに用いられる特図2変動パターン判定テーブル（非時短用特図2変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる特図2変動パターン判定テーブル（時短用特図2変動パターン判定テーブル）と、がある。

20

【0120】

また、遊技状態（非時短状態／時短状態）に関連付けられた各特図変動パターン判定テーブルは、さらに、大当たり判定結果、大当たり種別判定結果、およびリーチ判定結果にも関連付けることが可能である。すなわち、非時短用特図1変動パターン判定テーブルおよび時短用特図1変動パターン判定テーブルにはそれぞれ、大当たり図柄A用、大当たり図柄B，C用、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用がある。同様に、非時短用特図2変動パターン判定テーブルおよび時短用特図2変動パターン判定テーブルにもそれぞれ、大当たり図柄D用、大当たり図柄E，F用、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用がある。

30

【0121】

さらに、遊技状態に関連付けられた各リーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルは、特図1保留数にも関連付けることが可能である。例えば、特図1保留数（U1）が0～2のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルと、特図1保留数（U1）が3～4のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルと、がある。また、同様に、遊技状態に関連付けられた各リーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルも、特図2保留数にも関連付けることが可能である。具体的には、特図2保留数（U2）が0～2のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルと、特図2保留数（U2）が3～4のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルと、がある。

40

【0122】

そして、各特図変動パターン判定で決定された特図変動パターンに応じた特図変動時間の特図の可変表示が、特図表示器81で行われる。そして、特図の可変表示で、表示結果（特別図柄抽選の結果）として、大当たり図柄が停止表示されると、即座に次の特図の可変表示が行われず、引き続いて、大当たり遊技が実行される。

【0123】

また、各特図変動パターンに、図10～図11の表の右から3番目の欄に示すような特図変動演出の演出フローを関連付けることが可能である。ここで、特図変動パターンに関連づけられた特図変動演出の演出フローを構成する代表的な演出について説明する。

50

【 0 1 2 4 】

特図変動演出の演出フローを構成する演出として、通常変動、リーチ、ノーマルリーチ（Nリーチ）、ロングリーチ（Lリーチ）、およびスペシャルリーチ（SPリーチ）、バトル演出、がある。

【 0 1 2 5 】

通常変動は、停止表示していた演出図柄が変動を開始し、各演出図柄を構成する1つ1つが認識困難な程度に高速で変動表示して特図の可変表示が開始されたことを示唆する演出である。そして、リーチ無しハズレ変動に係る特図変動演出（演出図柄の変動開始から変動停止までの部分）、および、リーチが発生する特図変動演出におけるリーチが成立（確定）するまでの部分が通常変動で構成されることがある。

10

【 0 1 2 6 】

Nリーチは、通常変動を経てリーチが成立（確定）した直後に、例えば当該リーチを構成する演出図柄が仮停止したその位置で所定時間（例えば、10秒）維持された状態で、残り1つの演出図柄が減速していき、通常変動より低速で変動する演出である。Nリーチが示唆する大当たりの期待度は、通常変動より高く、後述するLリーチおよびSPリーチよりも低い。Nリーチで特図変動演出が終了する場合、その低速で変動する残りの1つの演出図柄が停止する。ハズレの場合、残りの1つの演出図柄は、リーチを構成する演出図柄とは異なる演出図柄で停止する。Nリーチで特図変動演出が終了しない場合、残りの1つの演出図柄が再び高速で変動し、リーチが維持されたままNリーチからLリーチまたはSPリーチに発展する（切り替わる）。

20

【 0 1 2 7 】

Lリーチは、Nリーチの後に実行可能な演出であり、Nリーチよりも長時間行われ、Nリーチよりも大当たり期待度が高いことを示唆する。Lリーチでも、成立したリーチが維持されるが、当該リーチを構成する演出図柄が縮小されると共に、Nリーチのときよりも背景画像の支障にならない所定位置（例えば、後述する左演出図柄EZ1が表示部50aの左上で、右演出図柄EZ3が表示部50aの右上）に移動した状態で、Lリーチ専用の背景画像に切り替わる（Lリーチ専用の映像が流れる）。なお、Lリーチでは、主に表示部50aにおいて2DCGによるアニメーション画像が表示される。Lリーチの演出内容としては、主人公キャラクタが必殺技を習得するために特訓を行うシーンが表示される（特訓する映像が表示部50aで流れる）。

30

【 0 1 2 8 】

SPリーチは、Nリーチの後に実行可能な演出であり、Lリーチよりも長時間行われ、Lリーチよりも大当たり期待度が高いことを示唆する。SPリーチでも、成立したリーチが維持されるが、当該リーチを構成する演出図柄が縮小されると共に、Nリーチのときよりも背景画像の支障にならない所定位置（例えば、後述する左演出図柄EZ1が表示部50aの左上で、右演出図柄EZ3が表示部50aの右上）に移動した状態で、SPリーチ専用の背景画像に切り替わる（SPリーチ専用の映像が流れる）。なお、SPリーチでは、主に表示部50aにおいて3DCG画像が表示される。そして、SPリーチの演出内容としては、主人公キャラクタが所属するAチームと、主人公キャラクタのライバルが所属するBチームとが試合を行うシーンが表示される（試合する映像が表示部50aで流れる）。

40

【 0 1 2 9 】

バトル演出は、時短状態においてリーチ後に実行可能な演出であり、通常変動よりも大当たり期待度が高いことを示唆する演出である。バトル演出でも、成立したリーチが維持されるが、当該リーチを構成する演出図柄が縮小されると共に所定位置（例えば、左演出図柄EZ1が表示部50aの左上で、右演出図柄EZ3が表示部50aの右上）に移動した状態で、バトル演出専用の背景画像に切り替わる（バトル演出専用の映像が流れる）。また、バトル演出では、主に表示部50aにおいて3DCG画像が表示される。そして、SPリーチの演出内容としては、主人公キャラクタが所属するAチームと、主人公キャラクタのライバルが所属するBチームとが試合を行うシーンが表示される（試合する映像が

50

表示部 50a で流れる)。

【0130】

なお、N リーチ、L リーチ、S P リーチ、およびバトル演出における「リーチが維持された状態」には、当該 N リーチ、L リーチ、S P リーチ、およびバトル演出においてリーチを構成する演出図柄が表示部 50a で視認可能である状態だけではなく、例えば、専用の背景画像との関係で所定期間、当該リーチを構成する演出図柄が表示部 50a から視認困難または視認不可能な状態も含むものとする。また、通常変動、N リーチ、L リーチ、S P リーチ、およびバトル演出の演出内容は適宜に変更可能である。さらに、特図変動演出を構成する演出は、これらに限られず、適宜に加え、あるいは減らすことが可能である。

【0131】

また、図 10～図 11 の表の右から 2 番目の欄に示すように、特図変動パターンについて、特図(大当たり判定結果)および特図変動演出の演出内容などに関連付けて名称を付すことがある。そして、大当たりに係る特図変動パターンのことを「大当たり変動」、ハズレに係る特図変動パターンのことを「ハズレ変動」と総称することもある。

【0132】

さらに、大当たり判定結果に関わらず S P リーチが行われる特図変動パターンのことを「S P リーチ変動」、L リーチが行われる特図変動パターンのことを「L リーチ変動」、N リーチで特図変動演出が終わる特図変動パターンのことを「N リーチ変動」と総称することもある。また、リーチ有りのハズレ変動のことを「リーチ有りハズレ変動」といい、リーチ無しのハズレ変動のことを「通常ハズレ変動」と総称することもある。

【0133】

3 - 2 - 5 . 先読み判定

パチンコ遊技機 PY1 は、大当たり判定を行う前に、取得した特図関連判定情報に基づいて、例えば図 12～図 13 に示すような先読み判定テーブルを用いて先読み判定を行う。先読み判定テーブルは、その始動入賞に係る始動口の種別(第 1 始動口 11 / 第 2 始動口 12)、言い換えると、その始動入賞によって可変表示される特図の種類(特図 1 / 特図 2)に関連付けることができる。すなわち、先読み判定テーブルには、第 1 始動口 11 に入賞し、特図 1 の可変表示が行われる場合の第 1 先読み判定テーブル(図 12)と、第 2 始動口 12 に入賞し、特図 2 の可変表示が行われる場合の第 2 先読み判定テーブル(図 13)と、がある。なお、第 1 先読み判定テーブルに基づいて行う先読み判定を「第 1 先読み判定」、第 2 先読み判定テーブルに基づいて行う先読み判定を「第 2 先読み判定」という。

【0134】

また、先読み判定テーブルは、後述する遊技状態(通常遊技状態 / 高確率高ベース遊技状態 / 低確率高ベース遊技状態)にも関連付けることができる。すなわち、先読み判定テーブルには、通常遊技状態のときに用いられる先読み判定テーブル(通常遊技状態用先読み判定テーブル)と、高確率高ベース遊技状態のときに用いられる先読み判定テーブル(高確率高ベース遊技状態用先読み判定テーブル)と、低確率高ベース遊技状態のときに用いられる先読み判定テーブル(低確率高ベース遊技状態用先読み判定テーブル)と、がある。

【0135】

つまり、先読み判定テーブルには、通常遊技状態のときに用いられる第 1 先読み判定テーブルと、高確率高ベース遊技状態のときに用いられる第 1 先読み判定テーブルと、低確率高ベース遊技状態のときに用いられる第 1 先読み判定テーブルと、通常遊技状態のときに用いられる第 2 先読み判定テーブルと、高確率高ベース遊技状態のときに用いられる第 2 先読み判定テーブルと、低確率高ベース遊技状態のときに用いられる第 2 先読み判定テーブルと、がある。

【0136】

なお、図 12～図 13 に示す先読み判定テーブルを用いる先読み判定によって、当該始動入賞によって行われる特図の可変表示に係る特図変動パターンが特定される。すなわち

10

20

30

40

50

、当該入賞に基づく特図の可変表示が行われるよりも前にその特図の可変表示に係る特図変動パターンが先読み判定結果として特定される。そして、その特図変動パターンに関する情報が含まれる先読み判定結果は始動入賞コマンドに対応付けられている。なお、先読み判定結果としてどのような情報を特定させるかは適宜に変更可能である。

【0137】

以上のように、大当たり判定、大当たり図柄種別判定、リーチ判定、および特図変動パターン判定が行われることによって、特図表示器81において特図の可変表示が行われる。そして、特図の可変表示で、表示結果（特別図柄抽選の結果）として、大当たり図柄が停止表示されると、次の特図の可変表示が行われず、引き続いて、大当たり遊技が実行される。次に、大当たり遊技について説明する。

10

【0138】

3 - 3 . 大当たり遊技

【0139】

大当たり遊技は、大入賞口14の開閉を伴う複数回のラウンド遊技と、大当たり遊技が開始してから初回のラウンド遊技が開始されるまでのオープニング（OPとも表記する）と、最終回のラウンド遊技が終了してから大当たり遊技が終了するまでのエンディング（EDとも表記する）とを含んでいる。各ラウンド遊技は、オープニングの終了又は前のラウンド遊技の終了によって開始し、次のラウンド遊技の開始又はエンディングの開始によって終了する。

20

【0140】

なお、OPやEDを設けないようすることが可能である。また、以下において、所定回数（所定の順番）のラウンド遊技を、単に「ラウンド」という。例えば、初回（1回目）のラウンド遊技のことを「1ラウンド（1R）」ともいい、10回目のラウンド遊技のことを「10ラウンド（10R）」ともいう。

【0141】

そして、パチンコ遊技機PY1は、大当たり遊技制御テーブルを用いて大当たり遊技を制御する。大当たり遊技は1種類、または複数種類設定可能であり、大当たり遊技の種別毎に大当たり遊技制御テーブルが設定されている。

【0142】

大当たり遊技制御テーブルには、大当たり遊技を構成する要素（大当たり遊技構成要素）が格納されている。大当たり遊技構成要素には、ラウンド遊技の回数、各回のラウンド遊技における大入賞口14の開放回数、各開放が行われる大入賞口の種別および開放時間（開放パターン）、次回の開放まで閉鎖させる時間（閉鎖時間）、オープニングの時間（オープニング時間）、およびエンディングの時間（エンディング時間）などが含まれている。そして、パチンコ遊技機PY1は、例えば図14（A）に示すような大当たり遊技制御テーブルを用いて大当たり遊技を制御することが可能である。すなわち、図14（A）に示すような大当たり遊技の種別および各大当たり遊技に対する大当たり遊技構成要素を設定することが可能である。ここで、図14（A）で設定されている大当たり遊技について説明する。

30

【0143】

大当たり図柄Aに対応付けられた大当たり遊技（以下、「第1大当たり遊技」ともいう）では、ラウンド遊技が8回行われる。そして、1Rから10Rまでの各ラウンド遊技では、1回のラウンド遊技あたり最大で29.5秒にわたって大入賞口14が開放する。また、第1大当たり遊技が開始されてから最初のラウンド遊技が開始されるまでの間、10.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたオープニングがある。さらに、最後のラウンド遊技が終了してから第1大当たり遊技が終了するまでの間、15.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたエンディングがある。

40

【0144】

大当たり図柄B,Cに対応付けられた大当たり遊技（以下、「第2大当たり遊技」ともいう）では、ラウンド遊技が5回行われる。そして、1Rから5Rまでの各ラウンド遊技

50

では、1回のラウンド遊技あたり最大で29.5秒にわたって大入賞口14が開放する。また、第1大当たり遊技が開始されてから最初のラウンド遊技が開始されるまでの間、10.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたオープニングがある。さらに、最後のラウンド遊技が終了してから第1大当たり遊技が終了するまでの間、15.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたエンディングがある。

【0145】

大当たり図柄Dに対応付けられた大当たり遊技（以下、「第3大当たり遊技」ともいう）では、ラウンド遊技が16回行われる。そして、1Rから16Rまでの各ラウンド遊技では、1回のラウンド遊技あたり最大で29.5秒にわたって大入賞口14が開放する。また、第1大当たり遊技が開始されてから最初のラウンド遊技が開始されるまでの間、10.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたオープニングがある。さらに、最後のラウンド遊技が終了してから第1大当たり遊技が終了するまでの間、15.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたエンディングがある。

10

【0146】

大当たり図柄E,Fに対応付けられた大当たり遊技（以下、「第4大当たり遊技」ともいう）では、ラウンド遊技が5回行われる。そして、1Rから5Rまでの各ラウンド遊技では、1回のラウンド遊技あたり最大で29.5秒にわたって大入賞口14が開放する。また、第1大当たり遊技が開始されてから最初のラウンド遊技が開始されるまでの間、10.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたオープニングがある。さらに、最後のラウンド遊技が終了してから第4大当たり遊技が終了するまでの間、15.0秒間にわたり大入賞口14の閉鎖状態が保持されたエンディングがある。

20

【0147】

なお、各ラウンド遊技では、予め定めた所定個数（例えば10個）の遊技球が大入賞口センサ14aによって検出されると、大入賞口14の最大開放時間が経過する前であっても、大入賞口14を閉鎖してラウンド遊技が終了する。また、大当たり遊技構成要素の種類や具体的な内容については、適宜に変更することが可能である。

【0148】

さらに、何れの種類の大当たり遊技が実行されるかは、例えば大当たり図柄の種類によって決定されるようにしても良い。また、例えば、遊技領域6に2つの入賞口に振分け可能な装置を設け、一方の入賞口に入賞すると所定数のラウンド遊技からなる大当たり遊技のみが実行される一方、他方の入賞口に入賞すると、所定数より多いラウンド遊技からなる大当たり遊技と所定数より少ないラウンド遊技からなる大当たり遊技の何れかが抽選などによって所定の確率で実行されるようにしても良い。

30

【0149】

3-4. 遊技状態

次に、パチンコ遊技機PY1が制御可能な遊技状態について説明する。パチンコ遊技機PY1は、大入賞口14の開放を伴う大当たり遊技が実行されている状態である大当たり遊技状態と、大当たり遊技が実行されていない非大当たり遊技状態がある。非大当たり遊技状態には、基本的なベースとなる遊技状態である通常遊技状態と、通常遊技状態よりも遊技者に有利な特定遊技状態と、がある。この特定遊技状態に係る「遊技者に有利」となる要素には大当たり当選確率と、第2始動口12の開放の容易性とがある。すなわち、特定遊技状態に大当たり当選確率と、第2始動口12の開放の容易性を関連付けることができる。

40

【0150】

大当たり当選確率について遊技者に有利とは、通常遊技状態よりも大当たり当選確率が高くなり、大当たり当選し易くなるということである。また、第2始動口12の開放の容易性について遊技者に有利とは、通常遊技状態よりも第2始動口12の開放の容易性が高くなり、単位時間あたりの第2始動口12の開放時間が長くなるということである。

【0151】

そして、特定遊技状態としては、大当たり当選確率および第2始動口12の単位時間あ

50

たりの開放時間の何れもが遊技者に有利な第1特定遊技状態と、大当たり当選確率のみが遊技者に有利な第2特定遊技状態と、第2始動口12の単位時間あたりの開放時間のみが遊技者に有利な第3特定遊技状態の3種類を設定可能である。なお、これらの3種類の特定遊技状態の全てをパチンコ遊技機PY1に搭載せずに、3種類の特定遊技状態の中の一部を搭載することができる。

【0152】

ここで、大当たり当選確率に注目した局所的な遊技状態として、大当たり当選確率が通常遊技状態よりも高くなり、大当たり当選確率について遊技者に有利な状態を「高確率状態」という。これに対して、大当たり当選確率が通常遊技状態での通常確率であり、大当たり当選確率について遊技者に有利ではない状態を「通常確率状態」という。

10

【0153】

また、単位時間あたりの第2始動口12の開放時間に注目した局所的な遊技状態として、単位時間あたりの第2始動口12の開放時間が通常遊技状態よりも長く、第2始動口12の開放の容易性が遊技者に有利な状態を「時短状態」という。これに対して、単位時間あたりの第2始動口12の開放時間が通常遊技状態での開放時間であり、第2始動口12の開放の容易性が遊技者に有利ではない状態を「非時短状態」という。

【0154】

ここで、非時短状態と時短状態について詳細に説明する。前述のように、時短状態は、非時短状態に比べて、単位時間当たりの電チューラー12Dの開放時間が長くなる。すなわち、時短状態は非時短状態よりも第2始動口12に入賞させ易い状態である。ここで、非時短状態よりも時短状態で第2始動口12に入賞させ易くするための具体的な方法について説明する。

20

【0155】

例えば、時短状態を、非時短状態に比べて普図変動時間が短くなり易い状態にすることで、時短状態では第2始動口12に入賞させ易くすることができる。例えば、前述の通り、当たり判定の結果に関わらず、時短状態においては、非時短状態において決定される普図変動時間(30.0秒)よりも短い普図変動時間(5.0秒)が決定されるようになる。その結果、時短状態の方が、単位時間当たりにおける普図抽選の実行回数が多くなる。この場合、非時短状態と時短状態の違いに関わらず、当たり判定で当たりに当選する確率と1回の補助遊技における電チューラー12Dの開放時間が同一であると、単位時間あたりにおける普図抽選の実行回数が多い分、単位時間あたりの電チューラー12Dの開放時間が長くなる。

30

【0156】

また、時短状態を、非時短状態に比べて1回の補助遊技における電チューラー12Dの開放時間が長くなり易い状態にすることで、時短状態では第2始動口12に入賞させ易くすることができる。例えば、前述の通り、非時短状態では、1回の補助遊技で電チューラー12Dが0.2秒開放するのに対し、時短状態では、1回の補助遊技で電チューラー12Dが合計で5.0秒開放するようになる。この場合、非時短状態と時短状態の違いに関わらず、当たり判定で当たりに当選する確率と普図変動時間が同一であると、単位時間あたりの補助遊技の実行回数が等しくなるため、1回の補助遊技での電チューラー12Dの開放時間が長い分、単位時間あたりの電チューラー12Dの開放時間が長くなる。

40

【0157】

さらに、時短状態を、非時短状態に比べて当たり判定で当たりと判定され易い状態にすることで、時短状態では第2始動口12に入賞させ易くすることができる。例えば、前述の通り、非時短状態では、当たり判定において6600/65536の確率で当たりと判定されるのに対し、時短状態では、当たり判定において59936/65536の確率で当たりと判定されるようになる。この場合、非時短状態と時短状態の違いに関わらず、1回の補助遊技における電チューラー12Dの開放時間と普図変動時間が同一であると、当たり判定で当たりと判定される確率が高い分、単位時間あたりの当たり判定の回数が多くなるため、単位時間あたりの電チューラー12Dの開放時間が長くなる。

50

【 0 1 5 8 】

このように、時短状態においては非時短状態よりも当たりに当選し易いこと、普図変動時間が短くなり易いこと、および1回の補助遊技における電チューリングの開放時間が長くなり易いことからなる3つの条件が成立することによって、時短状態では、非時短状態に比べて、単位時間あたりの電チューリングの開放時間が長くなり、第2始動口12への入賞を容易にすることができます。この結果、発射球数に対する賞球数の割合である所謂「ベース」が高くなる。そのため、ベースの高い時短状態では、通常遊技状態に比べて所持する遊技球を大きく減らすことなく大当たり当選を狙うことができる。すなわち、時短状態の方が非時短状態よりも遊技者にとって有利であるといえる。

【 0 1 5 9 】

なお、時短状態においては、第2始動口12の単位時間あたりの開放時間が長くなるための3つの条件が全て揃わずに一部の条件のみが揃うようにしても良い。最終的に、時短状態では、非時短状態に比べて、単位時間当たりの電チューリングの開放時間が長くなり、第2始動口12への入賞が容易になればよい。

【 0 1 6 0 】

また、時短状態では、非時短状態に比べて特図変動時間の短い特図変動パターンが選択され易くなるようにするなどして、単位時間あたりにおける特図可変表示の実行回数が少ない、または特図変動時間の平均が低くなるようにしても良い。その結果、時短状態では、特図保留が消化されるペースが速くなり、始動口への有効な入賞（特図保留として記憶され得る入賞）が発生しやすくなる。そのため、スムーズな遊技の進行のもとで大当たりを狙うことができる。

【 0 1 6 1 】

なお、以下において、各特定遊技状態について遊技者に対する有利性の内容に関連付けて、第1特定遊技状態のことを「高確率高ベース遊技状態」、第2特定遊技状態のことを「高確率低ベース遊技状態」、および第3特定遊技状態のことを「低確率高ベース遊技状態」ともいう。さらに、通常遊技状態のことを「低確率低ベース遊技状態」ともいう。

【 0 1 6 2 】

よって、低確率低ベース遊技状態は、通常確率状態且つ非時短状態で制御されている遊技状態といえる。同様に、低確率高ベース遊技状態は通常確率状態且つ時短状態、高確率低ベース遊技状態は高確率状態且つ非時短状態、および高確率高ベース遊技状態は高確率状態且つ時短状態で制御されている遊技状態といえる。

【 0 1 6 3 】

このように、パチンコ遊技機PY1は、低確率低ベース遊技状態、低確率高ベース遊技状態、高確率低ベース遊技状態、高確率高ベース遊技状態、および大当たり遊技状態で制御可能である。なお、大当たり遊技状態では、大入賞口14が長時間開放し、遊技球を大量に獲得することができるので、大当たり遊技状態も遊技者に有利な遊技状態ということができる。よって、大当たり遊技状態と、特定遊技状態は、通常遊技状態よりも遊技者に有利な「有利遊技状態」ということもできる。

【 0 1 6 4 】

なお、高確率高ベース遊技状態、および高確率低ベース遊技状態は、大当たり当選確率が通常確率状態よりも高確率となっている点で低確率低ベース遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態である。また、高確率高ベース遊技状態、および低確率高ベース遊技状態は、第2始動口12への入賞容易性が非時短状態よりも高い点で低確率低ベース遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態である。さらには、大当たり遊技状態では、1回の入賞による賞球数が第1始動口11、および第2始動口12よりも多い大入賞口14が開放するので、大当たり遊技状態は低確率低ベース遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態である。

【 0 1 6 5 】

また、パチンコ遊技機PY1の電源が投入されると最初に通常遊技状態が設定される。また、大当たり遊技状態は、大当たり図柄の停止表示が行われることによって設定される。一方、特定遊技状態は、大当たり当選して大当たり遊技が実行されることによって設定

10

20

30

40

50

される。次に、特定遊技状態の設定について説明する。

【0166】

3 - 5 . 特定遊技状態の設定

パチンコ遊技機 PY1は、大当たり遊技の終了に伴って、新たに特定遊技状態を設定することができる。すなわち、大当たり遊技の後に、特定遊技状態にて遊技を制御・進行させることができる。この特定遊技状態の継続期間は適宜に設定可能である。例えば、特定遊技状態を次回大当たり当選するまで継続させることができる。また、特定遊技状態が継続できる期間を制限することもできる。

【0167】

特定遊技状態の継続期間を制限させる場合は、継続期間に対する終了条件が成立することを契機に特定遊技状態を終了させることができる。そして、特定遊技状態が終了すると通常遊技状態が設定されるようにすることができる。また、高確率高ベース遊技状態については、終了条件が成立すると、低確率高ベース遊技状態または高確率低ベース遊技状態が設定されるようにすることもできる。この場合、新たに設定された低確率高ベース遊技状態または高確率低ベース遊技状態は次回大当たり当選するまで継続するようにしても良い。また、新たに設定された低確率高ベース遊技状態または高確率低ベース遊技状態についても同一または異なる終了条件を設け、当該終了条件が成立すると通常遊技状態が設定されるようにしても良い。

10

【0168】

また、特定遊技状態の継続期間に対する終了条件は適宜に設定することができる。終了条件として、例えば特図可変表示の実行回数を設定することができる。また、特図可変表示の実行回数に限らず、大当たり遊技後の経過時間、大当たり遊技後の遊技球の発射球数、大当たり遊技後のゲート13への通過回数、または特定遊技状態を終了させるか否かの抽選において終了させるという結果の導出などを終了条件に設定することができる。さらには、これらの要素を単独で終了条件に設定しても良く、また複合的に設定しても良い。

20

【0169】

なお、これらの終了条件は、大当たり遊技後に設定可能な全ての特定遊技状態に対して同一に設定しても良く、また設定可能な特定遊技状態の中の一部の特定遊技状態に対して設定しても良い。さらに、特定遊技状態毎に終了条件を異ならせてても良い。

【0170】

30

また、大当たり遊技の後に制御される特定遊技状態、終了条件の有無、および終了条件の内容は、その大当たり遊技に係る大当たり図柄種別に対応付けることができる。例えば、前述のように大当たり図柄種別が設定されている場合、図14(B)に示すように、大当たり図柄A、大当たり図柄B、大当たり図柄D、または大当たり図柄Eに係る大当たり遊技の終了後に高確率高ベース遊技状態で遊技が制御されるようにもしても良い。ここで、この高確率高ベース遊技状態については終了条件を設けずに、大当たり当選するまで継続可能にすることができる。さらに、大当たり図柄C、および大当たり図柄Fに係る大当たり遊技の終了後に低確率高ベース遊技状態で遊技が制御されるようにも良い。ここで、この低確率高ベース遊技状態については終了条件を設け、終了条件として100回の特図可変表示に設定することができる。なお、この大当たり種別図柄と大当たり遊技の後に制御される特定遊技状態、終了条件の有無、および終了条件の内容との関係は一例であつて、これに限られない。

40

【0171】

なお、大当たりの遊技利益に着目し、大当たり遊技後に高確率状態で遊技が進行する大当たりのことを「高確率大当たり」ともいう。さらに、大当たり遊技後に高確率状態且つ時短状態で遊技が進行する大当たりのことを「確変大当たり」ともいう。加えて、大当たり遊技後に通常確率状態且つ時短状態で遊技が進行する大当たりのことを「時短大当たり」ともいう。

【0172】

4 . 遊技機による主な演出

50

次に、パチンコ遊技機 PY1により行われる主な演出について、図15～図28を用いて説明する。

【0173】

4-1. 演出モード

最初に、演出モードについて説明する。演出モードは、演出の区分（あるいは、上位概念的な属性）のことである。パチンコ遊技機PY1は、演出モードとして、客待ち演出モード、通常演出モードと、確変演出モード、時短演出モードおよび大当たり演出モードを設定することが可能である。

【0174】

客待ち演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」および「高確率高ベース遊技状態」において特図可変表示が行われていないときに設定可能であり、特図可変表示が行われていない待機状態であることを示す演出モードである。客待ち演出モードが設定されているときに客待ち演出が行われる。客待ち演出では、例えば、図15(A)に示すように、表示部50aにおいてパチンコ遊技機PY1を紹介する客待ちデモ動画G100が表示される。また、客待ちデモ動画G100が表示されているときに第1演出ボタン40kが操作されると、図15(B)に示すように、パチンコ遊技機PY1の演出に関する設定を行うための設定画面G101が表示される。演出に関する設定には、スピーカ52から出力される音の音量設定、表示部50aの輝度設定、および実行される演出の頻度設定などがある。なお、演出に関する設定の項目は適宜に設定することができる。また、客待ちデモ動画G100から遊技者の操作によって設定画面G101が表示されないようにすることもできる。

10

20

30

【0175】

通常演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」において設定可能であり、通常遊技状態であることを示す演出モードである。そして、さらに通常演出モードに属する下位の演出モードを複数設けることができる。例えば、通常演出モードに属する下位の階層の演出モードとして、表示部50aにおいて街の景色を表す背景画像（図16(A)：第1通常用背景画像G111）が表示される第1通常演出モード、表示部50aにおいて野球場のグラウンドを表す背景画像（図16(B)：第2通常用背景画像G112）が表示される第2通常演出モード、および表示部50aにおいて飲食店内を表す背景画像（図16(C)：第3通常用背景画像G113）が表示される第3通常演出モードなどを設けることができる。なお、以下において、演出モードに属する下位の階層の演出モードを「演出ステージ」ともいう。

【0176】

このように通常演出モードに属する複数の演出ステージを設けた場合、所定の切替条件が成立すると演出ステージを順番に繰り返して切り替えていくことができる。切替条件は適宜に設定可能であるが、例えば、切替条件として、大当たりに当選することなく1回または複数回の特図可変演出が行われることに設定することができる。さらに、切替条件として、SPリーチ変動に基づく特図変動演出など、特定の演出が実行されることに設定することもできる。

30

【0177】

また、後述するように特図変動演出においてリーチが発生することがあるが、特図変動演出を、リーチが発生しない場合の特図変動演出の全区間、およびリーチが発生する場合のリーチが成立する前の前段部分と、リーチが発生する場合のリーチが成立した後の後段部分と、に分けることができる。なお、前段部分は、前述の「通常変動」で構成される。

40

【0178】

そして、通常演出モードが設定されているとき、第1通常用背景画像G111、第2通常用背景画像G112、および第3通常用背景画像G113は前段部分において表示される。一方、後段部分においては、第1通常用背景画像G111、第2通常用背景画像G112および第3通常用背景画像G113が表示されず、通常演出モードにおけるリーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

50

【 0 1 7 9 】

なお、通常演出モードにおけるリーチの種類に応じた専用の背景画像は、演出ステージの種別に関係なく通常演出モードに共通の背景画像としても良く、また、演出ステージ毎に異なる背景画像としても良い。

【 0 1 8 0 】

また、「高確率低ベース遊技状態」においても通常演出モードを設定可能にし、通常演出モードは非時短状態であることを示す演出モードにしても良い。あるいは「高確率低ベース遊技状態」においてのみ設定され、通常演出モードとは異なる所定の演出モードを設けても良い。さらに、ある条件で発生した低確率低ベース遊技状態、および高確率低ベース遊技状態において、通常演出モードと異なる所定の演出モードを設定しても良い。

10

【 0 1 8 1 】

確変演出モードは、「高確率高ベース遊技状態」において設定可能であり、高確率高ベース遊技状態であることを示す演出モードである。確変演出モードでは、例えば、図16(D)に示すように、表示部50aにおいて宇宙を表す背景画像(確変用背景画像G120)が表示され、確変用BGMがスピーカ52から出力される。さらに、確変演出モードでも通常演出モードと同様に、確変用背景画像G120は特図変動演出の前段部分において表示される。そして、特図変動演出の後段部分では、確変演出モードにおけるリーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

【 0 1 8 2 】

時短演出モードは、「低確率高ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定可能であり、低確率高ベース遊技状態、または高確率高ベース遊技状態の何れかであり、少なくとも時短状態であることを示す演出モードである。時短演出モードでは、例えば、図16(E)に示すように、表示部50aにおいて空を表す背景画像(時短用背景画像G130)が表示され、時短用BGMがスピーカ52から出力される。さらに、時短演出モードでも通常演出モードと同様に、時短用背景画像G130は特図変動演出の前段部分において、表示される。そして、特図変動演出の後段部分においては、時短演出モードにおけるリーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

20

【 0 1 8 3 】

なお、時短演出モードは、低確率高ベース遊技状態においてのみ設定され、低確率高ベース遊技状態であることを示す演出モードにすることもできる。

30

【 0 1 8 4 】

また、確変演出モードおよび時短演出モードの何れもまたは何れか一方について、通常演出モードと同様に、さらにその演出モード用の演出ステージを複数設け、所定の切替条件が成立すると、演出ステージが切り替わるようにしても良い。

【 0 1 8 5 】

大当たり演出モードは、「大当たり遊技状態」において大当たり遊技が行われているときに設定可能な演出モードであり、大当たり遊技が行われていることを示す演出モードである。大当たり演出モードでは、例えば、大当たり遊技におけるオープニング中に、図17(A)に示すように、表示部50aにおいて、大当たり遊技の開始を示唆するオープニング画像G1や「右打ち」を促す右打ち画像G2が表示される大当たりオープニング演出が行われる。また、大当たり遊技におけるラウンド遊技中には、図17(B)に示すように、表示部50aにおいて、ラウンド数を示すラウンド画像G3や払い出された賞球数を示唆する賞球数画像G4が表示されるラウンド演出が行われる。さらに、大当たり遊技におけるエンディング中には、図17(C)に示すように、表示部50aにおいて、大当たり遊技後に設定される演出モードを示唆するエンディング画像G5や払い出された総賞球数を示唆する総賞球数画像G6が表示される大当たりエンディング演出が行われる。

40

【 0 1 8 6 】

なお、以下において、大当たりオープニング演出、ラウンド演出、および大当たりエンディング演出を合わせて、大当たり遊技において実行される演出として「大当たり遊技演出」ともいう。すなわち、大当たり演出モードにおいて大当たり遊技演出が行われる。

50

【 0 1 8 7 】**4 - 2 . 特図変動演出**

次に、特図変動演出について説明する。パチンコ遊技機 PY 1 は、特図の可変表示が開始されると、特図の可変表示に係る特図変動パターンおよび特図抽選結果（大当たり判定結果、大当たり図柄種別判定結果、リーチ判定結果、および、特図変動パターン判定結果）などに基づいて、特図変動演出を実行する。

【 0 1 8 8 】

特図変動演出では、表示部 50 aにおいて、所定の背景画像に重畠的に、演出図柄の変動表示が行われる。演出図柄の変動表示では、演出図柄が変動した後に停止する。すなわち、特図変動時間、演出図柄の変動表示が行われた後に、当該変動が停止して、演出図柄の停止表示が行われる。そして、演出図柄の停止表示によって特図抽選の結果が報知される。

10

【 0 1 8 9 】

なお、表示部 50 aで行われる特図変動演出では、演出図柄の変動表示以外の画像を用いることも可能である。さらに、表示部 50 aを含む画像表示装置 50 以外に、スピーカ 52、枠ランプ 53、盤可動装置 55、第1演出ボタン装置 40、および第2演出ボタン装置 41などの様々な演出装置を用いた特図変動演出を行うことが可能である。

【 0 1 9 0 】

最初に、特図可変表示に応じて実行される特図変動演出において表示部 50 aに表示される演出図柄、および演出図柄を表示するための演出図柄表示領域について説明する。演出図柄の具体的な構成は適宜に設定可能である。例えば、画像表示装置 50 の表示部 50 aを、演出図柄を表示する領域として、図 18 (A) に示すように、表示部 50 aを水平方向に略均等に 3 つに分けた左側、中央および右側それぞれに、左演出図柄領域 50 b 1、中演出図柄領域 50 b 2、および右演出図柄領域 50 b 3を設ける。左演出図柄領域 50 b 1は、主に特図変動演出における演出図柄の停止表示のときに、左演出図柄 EZ 1を表示する領域である。同様に、中演出図柄領域 50 b 2 および右演出図柄領域 50 b 3は、主に中演出図柄 EZ 2 および右演出図柄 EZ 3を表示する領域である。このように、特図変動演出において表示部 50 aに表示する演出図柄を、3つの演出図柄 EZ 1 ~ EZ 3で構成することができる。

20

【 0 1 9 1 】

また、図 18 (A) に示すように、表示部 50 aの下端部の左端（左下隅）の一区画に、小図柄領域 50 cを設けることが可能である。そして、特図の可変表示が行われているときに小図柄領域 50 cにおいて、特図の可変表示に応じて小図柄 KZ 1 ~ KZ 3を可変表示させることができる。

30

【 0 1 9 2 】

なお、図 18 (A)において、左演出図柄領域 50 b 1、中演出図柄領域 50 b 2、右演出図柄領域 50 b 3、および小図柄領域 50 cは一点鎖線で明示されているが、これは左演出図柄領域 50 b 1、中演出図柄領域 50 b 2、右演出図柄領域 50 b 3、および小図柄領域 50 cの範囲を表すために記載したものであり、実際には表示されていない。

40

【 0 1 9 3 】

また、前述したように、特図変動演出の演出フローを構成する演出として、通常変動、Nリーチ、Lリーチ、SPリーチ、およびバトル演出がある。ここで、これらの一部について説明する。

【 0 1 9 4 】**4 - 2 - 1 . 通常変動**

パチンコ遊技機 PY 1 は、特図変動演出において、先ず通常変動を行うことが可能である。通常変動は、特図の可変表示が開始されたことを示唆する演出として機能する。次に、通常変動を具体的に説明する。

【 0 1 9 5 】

例えば、図 18 (A) に示すように、表示部 50 aにおいて、左演出図柄 EZ 1、中演

50

出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 が停止表示されていると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 が停止表示されており、特図の可変表示が行われておらず、特図の可変表示を待機している状態から、特図の可変表示が開始されると、図 18 (B) に示すように、その開始に伴って特図変動演出が開始される。具体的には、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の変動表示が開始されると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 の変動表示が開始される。

【 0 1 9 6 】

そして、この特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ無しハズレの特図変動パターン（例えば、通常ハズレ変動）であると、リーチが発生することなく、特図の可変表示の終了（特図の停止表示）に伴って、リーチ無しハズレに特有なハズレ目（所謂「バラケ目」）で演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の停止表示が行われる。10

【 0 1 9 7 】

演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の停止表示に向けて、例えば、最初に図 18 (C) に示すように、左演出図柄 E Z 1 が上下方向略中央位置で仮停止し、次に図 18 (D) に示すように、右演出図柄 E Z 3 が上下方向略中央位置で仮停止し、さらに、図 18 (E) に示すように、中演出図柄 E Z 2 が上下方向略中央位置で仮停止する。

【 0 1 9 8 】

そして、最後に、上下方向略中央位置で水平方向に並んだ状態で仮停止している演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 が、図 18 (F) に示すように、そのまま一斉に完全に停止し、停止が確定する（演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の停止表示が行われる）。仮停止していた演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 がバラケ目で完全に停止するとき、すなわち、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の停止表示が行われるとき、3つの小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 が、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 と同一のバラケ目で一斉に停止し、小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 の停止表示も行われる。20

【 0 1 9 9 】

なお、図 18 の例では、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の停止表示が行われる際に、左演出図柄 E Z 1 右演出図柄 E Z 3 中演出図柄 E Z 2 の順で演出図柄が仮停止したが、仮停止する様はこれに限られず、適宜に設定することができる。

【 0 2 0 0 】

一方、特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン（例えば、Nハズレ変動）であると、前述のリーチ無しの場合と同様に、表示部 50a において、図 19 (A) に示すように、左演出図柄 E Z 1、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 が停止表示されていると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 が停止表示されている状態から、特図の可変表示が開始されて、図 19 (B) に示すように、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 の変動表示が開始すると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 の変動表示が開始するとする。30

【 0 2 0 1 】

そして、例えば図 19 (C) に示すように、数字「5」からなる左演出図柄 E Z 1 が上下方向略中央位置で仮停止し、次に、図 19 (D) に示すように、同一の数字「5」からなる右演出図柄 E Z 3 が上下方向略中央位置で水平方向に並んで仮停止して、リーチになる（リーチが発生または成立する）。演出図柄でリーチが成立しても、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 の変動表示は継続して行われている。40

【 0 2 0 2 】

なお、図 19 の例では、リーチが成立する際に、左演出図柄 E Z 1 右演出図柄 E Z 3 の順で演出図柄が仮停止したが、仮停止する様はこれに限られず、適宜に設定することができる。また、リーチを構成する演出図柄の数字も「5」に限られない。また、仮停止する位置も上下方向略中央位置に限られない。また、リーチを構成する演出図柄が並ぶ方向も水平方向に限られず斜め方向など他の方向であってもよい。

【 0 2 0 3 】

このように、リーチ無しハズレである場合の特図変動演出の全期間と、リーチが発生する場合の特図変動演出の開始時からリーチ成立時までの区間が通常変動となる。50

【 0 2 0 4 】**4 - 2 - 2 . N リーチ**

パチンコ遊技機 PY1は、通常変動の後にリーチが成立するとNリーチを行うことが可能である。Nリーチは、特図抽選の抽選結果が「大当たり」であった可能性があることを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。次に、Nリーチを具体的に説明する。

【 0 2 0 5 】

リーチが成立すると、例えば、図19(D)に示すように、その時点からNリーチが行われる。Nリーチでは、図20(A)に示すように、リーチが成立した状態が所定時間(例えば、10秒)維持される。Nリーチが開始されると、図20(B)に示すように、通常態様の高速で変動表示(スクロール)をしている中演出図柄EZ2が徐々に減速していく。

10

【 0 2 0 6 】

特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン(例えば、Nハズレ変動)であると、リーチが成立した状態から、中演出図柄EZ2が上下方向略中央位置で仮停止してハズレを示す演出図柄の停止表示が行われる。このとき、リーチが成立しているので、図20(C)に示すように、リーチを構成する数字とは異なる数字(図20(C)において「4」)からなる中演出図柄EZ2が仮停止する。そして、特図の可変表示の終了(特図の停止表示)に伴って、図20(D)に示すように、仮停止状態が完全な停止状態になり、リーチ有りハズレに特有なハズレ目で左演出図柄EZ1、中演出図柄EZ2および右演出図柄EZ3の停止表示が行われる。

20

【 0 2 0 7 】

また、仮停止していた演出図柄EZ1～EZ3がリーチ有りハズレに特有なハズレ目で完全に停止するとき、すなわち、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われるとき、3つの小図柄KZ1～KZ3が、演出図柄EZ1～EZ3と同一のリーチ有りハズレに特有なハズレ目で一斉に停止し、小図柄KZ1～KZ3の停止表示も行われる。なお、Nリーチの内容は、適宜に変更または追加することが可能である。

30

【 0 2 0 8 】

Nリーチで特図変動演出が終了しない場合、残りの1つの演出図柄が再び高速で変動し、リーチが維持されたままNリーチからLリーチまたはSPリーチに発展する(切り替わる)。

【 0 2 0 9 】**4 - 2 - 3 . SP リーチ**

パチンコ遊技機PY1は、Nリーチの後にSPリーチを行うことが可能である。SPリーチは、特図抽選の抽選結果が「大当たり」であった可能性が、NリーチおよびLリーチよりも高いことを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。なお、SPリーチでも、成立したリーチが維持されるが、例えば、図21(A)に示すように、SPリーチ開始時に、当該リーチを構成する演出図柄が縮小されると共に、表示部50aにおける小図柄領域50cに重複しない所定位置(例えば、左演出図柄EZ1は表示部50aの左上で、右演出図柄EZ3は表示部50aの右上)に移動する。

40

【 0 2 1 0 】

また、SPリーチ開始時に、例えば、図21(A)に示すように、表示部50aにSPリーチ専用の背景画像(SPリーチ用背景画像G115)が表示され、敵キャラクタが出現し、続いて、図21(B)に示すように、表示部50aの中央にSPリーチが開始されたことを表す画像(SPリーチ開始タイトル画像)G10が表示される。SPリーチ開始タイトル画像G10は、SPリーチのタイトルを表すタイトル画像G10a「図21(B)において「敵バッター を打ち取れ！」」と、タイトル画像G10aを引き立てるエフェクト画像G10bとで構成される。

【 0 2 1 1 】

次に、図21(C)に示すように、主人公キャラクタと主人公キャラクタのライバルで

50

ある敵キャラクタが対峙しているシーンが表示される。S P リーチの内容は野球のピッチャーとバッターの対決シーンで構成される。ここでは、主人公キャラクタがピッチャーであり、敵キャラクタがバッターである。

【 0 2 1 2 】

その後、S P リーチ用背景画像 G 1 1 5 にて、図 2 2 (A) に示すように、主人公キャラクタがボールを投げ、図 2 2 (B) に示すように、ボールが敵キャラクタに向かって進み、図 2 2 (C) に示すように、敵キャラクタ A がバットを振り始める。続いて、図 2 2 (D) に示すように、ボールとバットとが接近し、主人公キャラクタと敵キャラクタとの対決に決着がつこうとする場面を迎える。この場面は、ピッチャーとバッターの対決で主人公キャラクタが勝利するか敗北するかの分岐点（勝敗分岐点）を構成する。

10

【 0 2 1 3 】

この勝敗分岐点後、特図の可変表示の特図変動パターンが大当たりの特図変動パターン（例えば、S P 大当たり変動）であると、図 2 3 (A - 1) に示すように、表示部 5 0 a に、敵キャラクタ A が空振りをして対決に勝利した後、図 2 3 (B - 1) に示すように、敵キャラクタ A を三振に取ってマウンド上で雄叫びを上げる主人公キャラクタが表示されると共に、スピーカ 5 2 から所定の効果音が出力される。このとき、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 は大当たりを示す態様で仮停止表示している。

【 0 2 1 4 】

このように、対決に勝利して雄叫びを上げている主人公キャラクタの表示と、所定の効果音の出力とが、大当たりを報知する演出（大当たり報知演出）を構成する。その後、図 2 3 (C - 1) に示すように、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 の停止表示が行われる。

20

【 0 2 1 5 】

一方、勝敗分岐点後、特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン（例えば、S P ハズレ変動）であると、大当たり報知演出が行われることなく、S P リーチ用背景画像 G 1 1 5 にて、図 2 3 (A - 2) に示すように、敵キャラクタ A がホームランを打って対決に敗北し、図 2 3 (B - 2) に示すように、主人公キャラクタがマウンド上で落胆する映像が流れるハズレ報知演出が行われる。

【 0 2 1 6 】

その後、図 2 3 (C - 2) に示すように、ハズレ目で演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 の停止表示が行われる。なお、S P リーチの内容は、キャラクタ同士が野球で対決する内容に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

30

【 0 2 1 7 】

次に、特図変動演出において行われる可動体演出と操作演出について説明する。可動体演出と操作演出は、前述の S P リーチや N リーチ、さらには大当たり遊技演出などに組み込まれる形でこれらの演出の一部として行われる場合と、これらの演出とは独立して行われる場合とがある。最初に可動体演出について説明する。

【 0 2 1 8 】

なお、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 が高速で変動表示されている間は、演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 は、基本的に背景画像 G 1 1 ~ G 1 1 5 などのその背景側の画像が視認容易な透明性を持って表示される。

40

【 0 2 1 9 】

4 - 3 . 可動体演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図変動演出や大当たり遊技演出などの所定の演出における所定のタイミングで可動体の動作を伴う可動体演出を行うことが可能である。可動体演出は、例えば盤可動装置 5 5 などの可動装置を用いた演出であり、大当たり期待度や S P リーチへの発展を示唆する演出として機能する。

【 0 2 2 0 】

例えば、図 2 4 (A) に示すように、特図変動演出において、N リーチから S P リーチに発展する際に、まずは図 2 4 (B) に示すように、盤可動装置 5 5 が作動し、盤可動体

50

55kが正面視で作動位置まで下降し、所定時間その位置で保持される。そして、図24(C)に示すように、盤可動体55kが待機位置まで上昇して、盤可動装置55が通常の待機状態に戻る。盤可動装置55が通常の待機状態に戻ると、主人公キャラクタが表示部50aに大きく表示されているシーンが表示され、SPリーチに発展する。なお、可動体演出における可動装置の作動内容は、適宜に変更または追加することが可能である。

【0221】

4-4. 操作演出

次に操作演出について説明する。パチンコ遊技機PY1は、特図変動演出や大当たり遊技演出などの所定の演出における所定のタイミングで、第1演出ボタン40kや第2演出ボタン41k等の操作手段を用いた操作促進演出および操作手段の操作に応じた操作結果演出を含む操作演出を行うことが可能である。操作促進演出は、遊技者に操作手段の操作を促す演出であり、操作結果演出は、操作促進演出における操作手段の操作に応じて行われる演出であり、それぞれ遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

10

【0222】

例えば、前述のように、SPリーチにおいて勝敗分岐点に達すると、第1演出ボタン40kの押下操作が有効な期間（第1演出ボタン操作有効期間）が発生し、この第1演出ボタン操作有効期間の発生に伴って、図25(A)に示すように、第1演出ボタン40kの操作を促す演出（第1演出ボタン操作促進演出）が行われる。

【0223】

第1演出ボタン操作促進演出において、表示部50aに、第1演出ボタン操作促進画像G11が表示される。第1演出ボタン操作促進画像G11は、第1演出ボタン40kを表す画像（第1演出ボタン画像）G11aと、第1演出ボタン40kの操作態様（すなわち、押下操作）を表す画像（押下操作画像）G11bと、第1演出ボタン40kの操作に係る操作有効期間（第1演出ボタン操作有効期間）の残り時間を表す画像（第1演出ボタン操作有効期間残り時間画像）G11cと、を含む。

20

【0224】

なお、第1演出ボタン操作有効期間残り時間画像G11cは、おおむね曲線状のプログレスバーからなり、時間の経過に伴って、遊技者が第1演出ボタン操作有効期間の残り時間を容易に理解できるように変化する。なお、図25(B)は、第1演出ボタン操作有効期間が発生して、第1演出ボタン操作有効時間の1/3の時間が経過した様子を表している。

30

【0225】

そして、特図の可変表示の特図変動パターンが大当たりの特図変動パターン（例えば、SP大当たり変動）であると、第1演出ボタン操作有効期間において第1演出ボタン40kが押下操作された後、または、第1演出ボタン操作有効期間において第1演出ボタン40kが操作されることなく第1演出ボタン操作有効期間の残り時間がなくなった後、操作結果演出が行われる。

【0226】

操作結果演出としては、例えば図25(C)に示すように、盤可動装置55が作動して、盤可動体55kが作動位置まで下降し、所定時間その位置で保持されると共に、回転部材55k1が所定時間回転する。すなわち、操作結果演出に可動体演出も含まれている。さらに、このとき、操作結果演出として盤可動体55kの動作に伴うエフェクト画像G12も表示される。そして、図25(D)に示すように、エフェクト画像G12が消去され、回転部材55k1の回転が止まり、盤可動体55kが上昇することによって操作結果演出が終了する。操作結果演出が終了すると大当たり報知演出が行われる。

40

【0227】

一方、特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン（例えば、SPハズレ変動）であると、第2演出ボタン操作有効期間において第2演出ボタン41kが押下操作されても、または、第2演出ボタン41kが押下操作されることなく演出ボタン操作有効期間の残り時間がなくなっても、操作結果演出が行われることがなく、

50

ハズレ報知演出が行われる。

【0228】

なお、操作結果演出は、盤可動装置55の作動やエフェクト画像G12の表示に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。また、操作演出は特図変動演出に限らず大当たり演出においても実行可能である。

【0229】

4 - 5 . 先読み演出

次に、特図保留の対象となる特図可変表示が実行される前に実行可能な先読み演出について説明する。パチンコ遊技機PY1は、特図変動演出の任意のタイミングで、先読み判定の結果に基づいて、特図抽選が行われていない特図1保留または特図2保留に対する先読み演出を行うことが可能である。先読み演出は、特図1保留または特図2保留に対する大当たり期待度を示唆する演出であり、その保留に対応する特図の可変表示の前から大当たりを期待させる演出として機能する。先読み演出の一例として、特図保留を表す保留演出を用いた保留アイコン変化予告がある。ここで、通常演出モードにおいて行われる保留演出、および保留アイコン変化予告について説明する。

10

【0230】

保留演出は、図26(A)に示すように、表示部50aの下端部における略中央の一区画において横長矩形状に形成された保留表示領域50dにおいて行われる。保留表示領域50dは、保留表示領域50dを左右方向に略均等に4つに分割した第1領域50d1、第2領域50d2、第3領域50d3、および、第4領域50d4で構成されている。すなわち、保留表示領域50dにおいて、第1領域50d1～第4領域50d4が左端から右端に向けて順に並んで設けられている。

20

【0231】

第1領域50d1には、保留されている特図1保留の中で最も先に発生し、その特図1保留に対応する特図1関係乱数に基づいて最も先に特図1可変表示が行われる特図1保留を表す保留アイコンが表示される。同様に、第2領域50d2～第4領域50d4には、保留されている特図1保留の中で2～4番目に発生し、その特図1保留に対応する特図1関係乱数に基づいて2～4番目に特図1可変表示が行われる特図1保留を表す保留アイコンが表示される。

30

【0232】

なお、以下において、第1領域50d1に表示される保留アイコンに対応する特図1保留のことを「保留順1の特図1保留」と称する。同様に、第2領域50d2、第3領域50d3、および第4領域50d4に表示される保留アイコンに対応する特図1保留のことを「保留順2の特図1保留」、「保留順3の特図1保留」、および「保留順4の特図1保留」と称する。すなわち、存在している特図1保留について、発生した順に「保留順1」～「保留順4」と称する。

【0233】

また、保留表示領域50dの左隣には、当該変動表示領域50eが形成されている。当該変動表示領域50eには、現在実行中の特図1変動表示を表す変動アイコンが表示される。よって、当該変動表示領域50eに表示される変動アイコンが示す対象は、保留表示領域50dに表示される保留アイコンが示す対象と異なり、厳密には、特図1保留に応じた「保留演出」には含まれないが、保留アイコンの表示と変動アイコンの表示とは関連性を有しているので、以下においては、保留アイコンの表示と変動アイコンの表示とをまとめて、「保留演出」とする。また、保留アイコンと変動アイコンとをまとめて、「アイコン」と称する。

40

【0234】

なお、図26(A)において保留表示領域50dおよび当該変動表示領域50eは一点鎖線で明示され、第1領域50d1～第4領域50d4は破線で明示されているが、これは保留表示領域50d、第1領域50d1～第4領域50d4、および当該変動表示領域50eの範囲を表すために記載したものであり、実際には表示されていない。

50

【0235】

次に、保留演出の具体例について説明する。なお、以降の説明では、小図柄K Z 1～K Z 3の表示は省略する。前提として、特図1変動表示中（特図変動演出中）であり、特図1保留数（U1）が「2」であるとする。この状況下において、図26（B）に示すように、前述した不図示の第1領域50d1において、現在保留されている特図1保留の中で最も先に発生した特図1保留（保留順1の特図1保留）を表した保留アイコンH A 2が表示され、前述した不図示の第2領域50d2において、保留アイコンH A 2が表す特図1保留の次に発生した特図1保留（保留順2の特図1保留）を表した保留アイコンH A 3が表示されている。また、前述した不図示の当該変動表示領域50eには、現在実行中の特図1変動表示を表す変動アイコンH A 1が表示されている。なお、図26（B）で表示されているアイコンH A 1～H A 3の表示態様は通常態様である。

10

【0236】

このように、保留演出においては、特図1保留が発生した順に保留表示領域50dの左端から右に並んで表示される。すなわち、保留されている特別図柄の可変表示、言い換えるれば、特図保留記憶部105に記憶されている特図関連判定情報に基づく未実行の特別図柄の可変表示は、個別に保留アイコンで表示される。

【0237】

そして、図26（C）に示すように、演出図柄E Z 1～E Z 3の停止表示が行われると、その直前まで実行中の特図変動表示を表していた変動アイコンH A 1が消去される。続けて、保留アイコンH A 2を表す特図1保留に基づいて特別図柄の可変表示（特図変動演出）が開始されると、保留アイコンH A 2と保留アイコンH A 3がシフトする。具体的には、不図示の第1領域50d1に表示されていた保留アイコンH A 2は不図示の当該変動表示領域50eに移動し、不図示の第2領域50d2に表示されていた保留アイコンH A 3は不図示の第1領域50d1に移動する。すなわち、表示されていた保留アイコンH A 2および保留アイコンH A 3がそれぞれ1つずつ左にシフトする。これは、保留アイコンH A 2に対応する特別図柄の可変表示が開始され、保留アイコンH A 3が表す特図1保留が、現在保留されている特図1保留の中で最も先に発生した特図1保留になり、次に開始される特図可変表示になったことに応じて、保留アイコンH A 2および保留アイコンH A 3をその状況に適応させるためである。

20

【0238】

また、当該変動表示領域50eに表示されている保留アイコンH A 2は、実行中の特図1変動表示を表しているので、当該変動表示領域50eに表示される際に変動アイコンH A 2となる。すなわち、「アイコン」の前に付く言葉として、保留表示領域50dに表示されているアイコンについては「保留」とし、当該変動表示領域50eに表示されているアイコンについては「変動」とする。換言すれば、保留アイコンが表示されているときに、該保留アイコンが示す特図保留に対して特別図柄の変動表示の開始条件が成立すると、該開始条件の成立に係る特別図柄の変動表示に対応する保留アイコンが変動アイコンとして表示される。また、保留アイコンから変動アイコンになる際に、言い換えると、アイコンは保留表示領域50dから当該変動表示領域50eに移動する際に、約2倍に拡大する。

30

【0239】

そして、この状況から第1始動口11に遊技球が入賞して、特図1保留が発生すると、図26（E）に示すように、当該特図1保留の発生に応じて、新たな保留アイコンH A 4が前述した不図示の第2領域50d2に表示される。

40

【0240】

ところで、前述のとおり、始動入賞コマンドには当否情報および特図変動パターン情報が含まれている。そして、パチンコ遊技機PY1は、この当否情報および特図変動パターン情報に基づいて、保留アイコンを通常態様、または特別態様で表示することができる。この保留アイコンを特別態様で表示することを「保留アイコン変化予告」という。

【0241】

保留アイコンの表示態様が特別態様である、すなわち保留アイコン変化予告が行われる

50

と、遊技者は、その保留アイコンに対応した特別図柄の可変表示で大当たりに当選できるかもしれないという期待を持つことができる。次に、保留アイコン変化予告の具体例について説明する。保留アイコン変化予告の具体例として、図26(E)に示す保留アイコンHA4の表示態様が特別態様になるとする。

【0242】

保留アイコン変化予告の1つの種別として、保留アイコンが表示された直後に特別態様になる、言い換えれば、特図1保留の発生時(第1始動口11への入賞時)に保留アイコン変化予告が行われる保留アイコン変化予告種別がある。例えば、図27(A)に示すように、保留アイコンHA4が表示される前の状況(図26(D)の状況)から、第1始動口11に遊技球が入賞して、特図1保留が発生すると、図26(E)の場合と同様に、当該特図1保留の発生に応じて、通常態様の保留アイコンHA4が前述した不図示の第2領域50d2に表示される。

10

【0243】

そして、その直後に、図27(B)に示すように、保留アイコンHA4の表示態様が通常態様から特別態様(図27(B)において灰色)に変化する(保留アイコン変化予告が行われる)。なお、図27の例では保留アイコンHA4は表示直後に一瞬通常態様で表示されるが、特別態様で表示されるようにし、通常態様で表示される期間をなくしてもよい。

【0244】

別の保留アイコン変化予告の種別として、保留アイコンが移動する際に特別態様になる、言い換えれば、特図1保留のシフト時に保留アイコン変化予告が行われる保留アイコン変化予告種別がある。例えば、図28(A)に示すように、保留アイコンHA4が表示される前の状況(図26(D)の状況)から、第1始動口11に遊技球が入賞して、特図1保留が発生すると、図28(B)に示すように、当該特図1保留の発生に応じて、通常態様(図28(B)において白色)の保留アイコンHA4が前述した不図示の第2領域50d2に表示される。

20

【0245】

そして、図28(C)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われると、その直前まで実行中の特図変動表示を表していた変動アイコンHA2が消去される。続けて、保留アイコンHA3が表す特図1保留に基づいて特別図柄の可変表示(特図変動演出)が開始されると、図28(D)に示すように、第1領域50d1に表示されていた保留アイコンHA3は不図示の当該変動表示領域50eに移動し、第2領域50d2に表示されていた保留アイコンHA4は不図示の第1領域50d1に移動する。ここで、保留アイコンHA4が第2領域50d2から第1領域50d1に移動する際に、その表示態様が通常態様から特別態様(図28(D)において灰色)に変化する(保留アイコン変化予告が行われる)。

30

【0246】

また、保留アイコン変化予告に係る特別態様を複数種類設けて、特別態様の種類によって大当たり期待度が異なるようにすることができます。例えば、保留アイコンの表示態様を、保留アイコンの色に関連付け、保留アイコンの表示態様として白色、青色、赤色、および金色が設定されているとする。ここで、白色が通常態様であり、青色、赤色、および金色が特別態様とする。そして、保留アイコンの表示態様が示す大当たり期待度は、白色＜青色＜赤色＜金色の順で高くなるように設定することができる。

40

【0247】

なお、先読み演出は、特図1保留および特図2保留の両方または一方に対して行うことが可能である。また、先読み演出は、保留アイコンHAの表示態様に限られず、例えば背景画像などの表示部50aにおける保留アイコンHA以外の画像や、スピーカ52から出力される音、枠ランプ53による発光、および盤可動装置55による動作などの画像表示装置50以外の演出装置を用いて実行することが可能である。さらには、先読み演出の演出態様として、保留アイコンHAによる保留アイコン変化予告などのように実行されてから特図変動表示が開始されるまで途切れることなく継続する演出態様の他に、演出図柄の

50

停止表示が行われる度または演出図柄の変動表示が開始される度など、断続的且つ連続的に実行する演出態様にしても良い。

【0248】

5. 遊技制御用マイコン101による遊技の制御

[遊技制御メイン処理]

次に図29～図38に基づいて遊技制御用マイコン101による遊技の制御について説明する。なお、以下に説明する遊技を制御するためのフローチャートは、一例である。そして、フローチャートにおける複数の処理については、処理内容に矛盾が生じない範囲で、適宜に実行順序を変更し、または並列に実行することができる。

【0249】

また、以下において説明する遊技制御用マイコン101による遊技の制御において登場するカウンタ、タイマ、フラグ、ステータス、バッファ等は、遊技用RAM104に設けられている。また、カウンタの初期値は「0」であり、フラグの初期値は「0」つまり「OFF」であり、ステータスの初期値は「1」である。

【0250】

遊技制御基板100に備えられた遊技制御用マイコン101は、パチンコ遊技機PY1が電源投入されると、遊技用ROM103から図29に示した遊技制御メイン処理のプログラムを読み出して実行する。同図に示すように、遊技制御メイン処理では、まず、電源投入時処理(S001)を行う。電源投入時処理では、遊技用RAM104へのアクセスの許可設定、遊技用CPU102の設定、SIO(System Input/Output)、PIO(Parallel Input/Output)、CTC(Counter/Timer Circuit:割り込み時間の管理のための回路)の設定等が行われる。

【0251】

電源投入時処理に次いで、割り込みを禁止し(S002)、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)を実行する。この普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)では、普図関連判定情報および特図関連判定情報に係る種々の乱数のカウンタ値を1加算して更新する。各乱数のカウンタ値は上限値に達すると「0」に戻って再び加算される。なお各乱数のカウンタの初期値は「0」以外の値であってもよく、ランダムに変更されるものであってもよい。また各乱数のうちの少なくとも一部は、カウンタIC等からなる公知の乱数生成回路を利用して生成される所謂ハードウェア乱数であってもよい。

【0252】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)が終了すると、割り込みを許可する(S004)。割り込み許可中は、遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)の実行が可能となる。遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)は、例えば4 msec周期で遊技用CPU102に繰り返し入力される割り込みパルスに基づいて実行される。すなわち、遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)は4 msec周期で実行される。そして、遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)が終了してから、次に遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)が開始されるまでの間に、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理(S003)による種々の乱数のカウンタ値の更新処理が繰り返し実行される。なお、割り込み禁止状態のときには遊技用CPU102に割り込みパルスが入力された場合は、遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)はすぐには開始されず、割り込み許可(S004)がされてから開始される。

【0253】

[遊技制御側タイマ割り込み処理]

次に、遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)について説明する。図30に示すように、遊技制御側タイマ割り込み処理(S005)では、まず出力処理(S101)を実行する。出力処理(S101)では、以下に説明する各処理において遊技制御基板100の遊技用RAM104に設けられた出力バッファにセットされたコマンド等を、演出制御基板120や払出手制御基板170等に出力する。

10

20

30

40

50

【 0 2 5 4 】

出力処理 (S 1 0 1) に次いで行われる入力処理 (S 1 0 2) では、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、余剰球貯留穴 3 5 A の満杯を検出する下皿満杯スイッチからの検出信号を取り込み、下皿満杯データとして遊技用 RAM 1 0 4 の出力バッファに記憶する。

【 0 2 5 5 】

次に行われる普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 1 0 3) は、図 2 9 の主制御メイン処理で行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) と同じである。即ち、普図関連判定情報および特図関連判定情報に係る各種乱数のカウンタ値の更新処理は、遊技制御側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の実行期間と、それ以外の期間 (メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の終了後、次の遊技制御側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が開始されるまでの期間)との両方で行われている。10

【 0 2 5 6 】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 1 0 3) に次いで、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、センサ検出処理 (S 1 0 4) を行い、続いて普通動作処理 (S 1 0 5) を行い、さらに特別動作処理 (S 1 0 6) を行う。センサ検出処理、普通動作処理および特別動作処理については後述する。

【 0 2 5 7 】

次に、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、その他の処理 (S 1 0 7) を実行して、遊技制御側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) を終了する。その他の処理 (S 1 0 7) としては、電源が断たれる際の電源断監視処理、遊技用 RAM 1 0 4 に設けられているタイマの更新などが行われる。また、その他の処理 (S 1 0 7) として、遊技者に賞球を払い出す払出手御処理が行われる。払出手御処理では、第 1 始動口 1 1 用の賞球カウンタ、第 2 始動口 1 2 用の賞球カウンタ、大入賞口 1 4 用の賞球カウンタ、及び、一般入賞口 1 0 用の賞球カウンタが「0」を超えてか否かのチェックを行い、「0」を超えていると、賞球要求信号を払出手御基板 1 7 0 に送信する。そして、賞球信号を送信するとき、その信号に係る賞球カウンタを「1」減算する更新処理を行う。20

【 0 2 5 8 】

そして、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、次に遊技用 CPU 1 0 2 に割り込みパルスが入力されるまでは遊技制御メイン処理のステップ S 0 0 2 ~ S 0 0 4 の処理を繰り返し実行し、割り込みパルスが入力されると (約 4 msec 後)、再び遊技制御側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) を実行する。遊技制御用マイコン 1 0 1 は、再び実行された遊技制御側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の出力処理 (S 1 0 1) において、前回の遊技制御側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) にて遊技用 RAM 1 0 4 の出力バッファにセットされたコマンド等を出力する。30

【 0 2 5 9 】**[センサ検出処理]**

次に、図 3 1 ~ 図 3 2 を用いてセンサ検出処理について説明する。センサ検出処理 (S 1 0 4) ではまず、一般入賞口 1 0 に遊技球が入賞したか否か、即ち、一般入賞口センサ 1 0 a によって遊技球が検出されたか否か判定する (S 2 0 1)。一般入賞口 1 0 に遊技球が入賞していない場合 (S 2 0 1 で NO) にはステップ S 2 0 3 に進み、一般入賞口 1 0 に遊技球が入賞した場合には (S 2 0 1 で YES)、遊技球に所定個数の賞球を払い出すための一般入賞口賞球処理を行う (S 2 0 2)。一般入賞口賞球処理では、一般入賞口 1 0 用の賞球カウンタに、一般入賞口 1 0 への入賞に応じた賞球個数 (第 1 実施形態において「3」) を加算する。40

【 0 2 6 0 】

ステップ S 2 0 3 では、遊技球がゲート 1 3 を通過したか否か、即ち、ゲートセンサ 1 3 a によって遊技球が検出されたか否か判定する。遊技球がゲート 1 3 を通過していなければ (S 2 0 3 で NO)、ステップ S 2 0 7 に進む。一方、遊技球がゲート 1 3 を通過していれば (S 2 0 3 で YES)、後述する普通動作ステータス = 1 であるか否か、言い換えれば、普図可変表示または補助遊技の何れも行われていないか否かを判定する (S 2 0 50)

4）。普通動作ステータス = 1 でない場合には（S 2 0 4 で N O）、ステップ S 2 0 7 に進み、普通動作ステータス = 1 である場合（S 2 0 4 で Y E S）には、普通図柄乱数カウンタ（ラベル - T R N D - F）のカウンタ値が示す普通図柄乱数を普図関連判定情報として取得し（S 2 0 5）、取得した普図関連判定情報を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた普図保留記憶部 8 6 に記憶して（S 2 0 6）、ステップ S 2 0 7 に進む。

【0 2 6 1】

ステップ S 2 0 7 では、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞したか否か、即ち、第 2 始動口センサ 1 2 a によって遊技球が検出されたか否か判定する。第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞していない場合（S 2 0 7 で N O）にはステップ S 2 1 4 に進み、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞した場合には（S 2 0 7 で Y E S）、遊技球に所定個数の賞球を払い出すための第 2 始動口賞球処理を行う（S 2 0 8）。第 2 始動口賞球処理では、第 2 始動口 1 2 用の賞球カウンタに、第 2 始動口 1 2 への入賞に応じた賞球個数（第 1 実施形態において「4」）を加算する。10

【0 2 6 2】

次に、特図 2 保留数（具体的には遊技用 R A M 1 0 4 に設けた特図 2 保留数をカウントするカウンタ（特図 2 保留数カウンタ）の数値）が「4」（上限記憶数）以上であるか否か判定する（S 2 0 9）。特図 2 保留数が「4」以上である場合（S 2 0 9 で Y E S）には、ステップ S 2 1 4 に進むが、特図 2 保留数が「4」以上でない（「4」未満である）場合には（S 2 0 9 で N O）、特図 2 保留数加算処理を行う（S 2 1 0）。特図 2 保留数加算処理では、特図 2 保留数カウンタを「1」加算し、特図 2 保留表示器 8 3 b が示す特図 2 保留数を「1」増加させる。20

【0 2 6 3】

続いて、特別図柄乱数カウンタ（ラベル - T R N D - T）、大当たり図柄種別乱数カウンタ（ラベル - T R N D - O S）、リーチ乱数カウンタ（ラベル - T R N D - R C）及び特図変動パターン乱数カウンタ（ラベル - T R N D - H P）からなる特図 2 関連判定情報を取得し、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた特図関連判定情報用バッファに記憶する（S 2 1 1）。

【0 2 6 4】

次に、第 2 先読み判定処理を行う（S 2 1 2）。第 2 先読み判定処理では、図 1 3 に示す第 2 先読み判定テーブルに、現在の遊技状態とステップ S 2 1 1 で取得した特図 2 関連判定情報を照合して第 2 始動入賞コマンドを特定し、特定した第 2 始動入賞コマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。30

【0 2 6 5】

続いて、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、ステップ S 2 1 1 で取得した特図 2 関連判定情報を特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶する（S 2 1 3）。

【0 2 6 6】

続いて、ステップ S 2 1 4 では、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞したか否か、即ち、第 1 始動口センサ 1 1 a によって遊技球が検出されたか否か判定する。第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞していない場合（S 2 1 4 で N O）にはステップ S 2 2 1 に進み、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞した場合には（S 2 1 4 で Y E S）、遊技球に所定個数の賞球を払い出すための第 1 始動口賞球処理を行う（S 2 1 5）。第 1 始動口賞球処理では、第 1 始動口 1 1 用の賞球カウンタに、第 1 始動口 1 1 への入賞に応じた賞球個数（第 1 実施形態において「4」）を加算する。40

【0 2 6 7】

次に、特図 1 保留数（具体的には遊技用 R A M 1 0 4 に設けた特図 1 保留の数をカウントするカウンタ（特図 1 保留数カウンタ）の数値）が「4」（上限記憶数）以上であるか否か判定する（S 2 1 6）。特図 1 保留数が「4」以上である場合（S 2 1 6 で Y E S）には、ステップ S 2 2 1 に進むが、特図 1 保留数が「4」以上でない（未満である）場合には（S 2 1 6 で N O）、特図 1 保留数加算処理を行う（S 2 1 7）。特図 1 保留数加算処理では、特図 1 保留数カウンタを「1」加算し、特図 1 保留表示器 8 3 a が示す特図 1

保留数を「1」増加させる。

【0268】

続いて、特別図柄乱数カウンタ（ラベル - T R N D - T）、大当たり図柄種別乱数カウンタ（ラベル - T R N D - O S）、リーチ乱数カウンタ（ラベル - T R N D - R C）及び特図変動パターン乱数カウンタ（ラベル - T R N D - H P）からなる特図1関連判定情報を取得し、遊技用RAM104に設けられた特図関連判定情報用バッファに記憶する（S218）。

【0269】

次に、第1先読み判定処理を行う（S219）。第1先読み判定処理では、図12に示す第1先読み判定テーブルに、現在の遊技状態とステップS218で取得した特図1関連判定情報を照合して第1始動入賞コマンドを特定し、特定した第1始動入賞コマンドを遊技用RAM104の出力バッファにセットする。10

【0270】

続いて、遊技制御用マイコン101は、ステップS218で取得した特図1関連判定情報を特図1保留記憶部105aのうち現在の特図1保留数に応じた記憶領域に記憶する（S220）。

【0271】

ステップS221では、大入賞口14に遊技球が入賞したか否か、即ち、大入賞口センサ14aによって遊技球が検出されたか否か判定する。大入賞口14に遊技球が入賞していない場合（S221でNO）にはセンサ検出処理を終了し、大入賞口14に遊技球が入賞した場合には（S221でYES）、遊技用RAM104に設けられた大入賞口入賞カウンタのカウンタ値が「9」以上であるか否かを判定する（S222）。大入賞口入賞カウンタは、大当たり遊技の1回のラウンド遊技において大入賞口14に入賞した個数を計数するためのカウンタである。なお、大入賞口入賞カウンタは各ラウンド遊技が終了するたびにクリアされる。第1実施形態では、入賞規定個数は「8」に設定されている。よって、ステップS222の処理が行われる。20

【0272】

大入賞口入賞カウンタのカウンタ値が「9」以上であると（S222でYES）、センサ検出処理を終了し、大入賞口入賞カウンタのカウンタ値が「9」以上でない、すなわち、「9」未満であると（S222でNO）、大入賞口入賞カウンタのカウンタ値を「1」加算し（S223）、遊技者に所定個数の賞球を払い出すための大入賞口賞球処理を行い（S224）、センサ検出処理を終了する。なお、大入賞口賞球処理では、大入賞口14用の賞球カウンタに、大入賞口14への入賞に応じた賞球個数（第1実施形態において「14」）を加算する。30

【0273】

[普通動作処理]

次に、普図表示器82および電チューランプ12Dの制御に関する普通動作処理について説明する。図33に示すように、普図表示器82および電チューランプ12Dに関する処理が4つのステータス（段階）に分けられている。そして、それらの各ステータスに「普通動作ステータス=1, 2, 3, 4」が割り当てられている。遊技制御用マイコン101は、普通動作処理（S105）において、最初に、「普通動作ステータス」を確認する（S1101）。「普通動作ステータス」が「1」である場合には、普通図柄待機処理（S1102）を行い、「普通動作ステータス」が「2」である場合には、普通図柄変動処理（S1103）を行い、「普通動作ステータス」が「3」である場合には、普通図柄確定処理（S1104）を行い、「普通動作ステータス」が「4」である場合には、補助遊技制御処理（S1105）を行う。なお「普通動作ステータス」は初期設定で「1」に設定される。40

【0274】

普通図柄待機処理（S1102）は、普図の可変表示および補助遊技が行われていない待機中に行われる処理である。普通図柄待機処理（S1102）では、普図保留記憶部86に記憶された普通図柄乱数に基づいて当たり判定を行う。さらに、現在の遊技状態に基

づいて普図変動パターン判定を行って普図変動パターンを決定し、決定した普図変動パターンに応じた普図変動時間の普図の変動表示を普図表示器 8 2 に開始させて、普通動作ステータスを「2」に変更する。また、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、普図の変動表示の開始時に、普図変動パターン判定結果に応じた普図変動開始コマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 2 7 5 】

普通図柄変動処理 (S 1 1 0 3) は、普図が変動表示しているときに行われる処理である。普通図柄変動処理 (S 1 1 0 3) では、実行中の普図の変動表示が開始してから普図変動時間が経過したか否か (普図の変動表示を終了させるか否か) を判定し、普図変動時間が経過したと判定されれば、当たり判定結果に基づいて普図の停止表示を行って、普通動作ステータスを「3」に変更する。また、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、普図の変動表示の開始時に、普図変動停止コマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

10

【 0 2 7 6 】

普通図柄確定処理 (S 1 1 0 4) は、普図が停止表示しているときに行われる処理である。普通図柄確定処理 (S 1 1 0 4) では、実行中の普図の停止表示が開始してから所定の停止時間 (例えば、0.8秒) が経過したか否か (普図の停止表示を終了させるか否か) を判定し、所定の停止時間が経過したと判定されれば、停止表示している普図が当たり図柄であるか否かを判定する。当たり図柄でなければ (停止表示している普図がハズレ図柄であれば) 、普通動作ステータスを「1」に変更する。一方、当たり図柄が停止表示していれば、普通動作ステータスを「4」に変更して、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を開始させる。さらに、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、補助遊技の開始時に、補助遊技開始コマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

20

【 0 2 7 7 】

補助遊技制御処理 (S 1 1 0 5) は、補助遊技が行われているときに行われる処理である。補助遊技制御処理 (S 1 1 0 5) では、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を制御する。そして、補助遊技が終了すれば、普通動作ステータスを「1」に変更する。

【 0 2 7 8 】

[特別動作処理]

次に、特図表示器 8 1 、特図保留表示器 8 3 および大入賞装置 1 4 D の制御に関する特別動作処理について説明する。図 3 4 に示すように、特図表示器 8 1 、特図保留表示器 8 3 および大入賞装置 1 4 D に関する処理は、6つのステータス (段階) に分けられている。そして、それらの各ステータスに「特別動作ステータス = 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 」が割り当てられている。遊技制御用マイコン 1 0 1 は、最初に「特別動作ステータス」を確認する (S 1 5 0 1) 。

30

【 0 2 7 9 】

遊技制御用マイコン 1 0 1 は、「特別動作ステータス」が「1」である場合には、特別図柄待機処理 (S 1 5 0 2) を行い、「特別動作ステータス」が「2」である場合には、特別図柄変動処理 (S 1 5 0 3) を行い、「特別動作ステータス」が「3」である場合には、特別図柄確定処理 (S 1 5 0 4) を行い、「特別動作ステータス」が「4」である場合には、大当たり遊技制御処理 (S 1 5 0 5) を行い、「特別動作ステータス」が「5」である場合には、遊技状態設定処理 (S 1 5 0 6) を行う。なお「特別動作ステータス」は初期設定で「1」に設定される。

40

【 0 2 8 0 】

特別図柄待機処理 (S 1 5 0 2) は、特別図柄の可変表示、大当たり遊技が行われていない待機中に行われる処理である。特別図柄待機処理については後に詳述する。

【 0 2 8 1 】

特別図柄変動処理 (S 1 5 0 3) は、特別図柄が変動表示しているときに行われる処理である。特別図柄変動処理については後に詳述する。

50

【 0 2 8 2 】

特別図柄確定処理 (S 1 5 0 4) は、特別図柄が停止表示しているときに行われる処理である。特別図柄確定処理については後に詳述する。

【 0 2 8 3 】

大当たり遊技制御処理 (S 1 5 0 5) は、大当たり遊技において行われる処理である。遊技制御用マイコン 1 0 1 が、大当たり遊技制御処理を行うことによって、大当たり遊技制御テーブルに応じた大当たり遊技を行う。大当たり遊技が終了する際に特別動作ステータスを「 5 」に変更する。なお、各ラウンド遊技が開始される際には、そのラウンド数を示すラウンド数指定コマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。また、全てのラウンド遊技が終了してエンディングが開始される際には、当該大当たり遊技に係る大当たり図柄に応じたエンディングを示すエンディングコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

10

【 0 2 8 4 】

遊技状態設定処理 (S 1 5 0 6) は、大当たり遊技が終了する際に、大当たり遊技後に制御する遊技状態を設定する処理である。例えば、大当たり遊技後に高確率状態で制御する場合は、高確率フラグを遊技用 R A M 1 0 4 の高確率フラグ領域に O N して高確率状態を設定する。さらにこのときに、高確率状態の継続期間を制限する場合、継続期間も併せて設定する。例えば、高確率状態の終了条件が特図可変表示の実行回数である場合、その回数（以下において、「高確率規定回数」という）を遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた高確率残り回数カウンタにセットする。また、大当たり遊技後に時短状態で制御する場合は、時短フラグを遊技用 R A M 1 0 4 の時短フラグ領域に O N して時短状態を設定する。さらにこのときに、時短状態の継続期間を制限する場合、継続期間も併せて設定する。例えば、時短状態の終了条件が特図可変表示の実行回数である場合、その回数（以下において、「時短規定回数」という）を遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた時短残り回数カウンタにセットする。

20

【 0 2 8 5 】

また、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、遊技状態設定処理において、大当たり遊技後の遊技状態を示す遊技状態コマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 2 8 6 】**[特別図柄待機処理]**

次に図 3 5 を用いて特別図柄待機処理について説明する。特別図柄待機処理 (S 1 5 0 2) ではまず、特図 2 保留数が「 0 」であるか否かを判定する (S 1 6 0 1)。特図 2 保留数が「 0 」である場合 (S 1 6 0 1 で Y E S)、即ち、第 2 始動口 1 2 への入賞に起因して取得した特図 2 関連判定情報の記憶がない場合には、特図 1 保留数が「 0 」であるか否かを判定する (S 1 6 0 8)。そして、特図 1 保留数も「 0 」である場合 (S 1 6 0 8 で Y E S)、即ち、第 1 始動口 1 1 への入賞に起因して取得した特図 1 関連判定情報の記憶もない場合には、客待ちフラグが O N か否かを判定する (S 1 6 1 8)。ここで、客待ちフラグが O N であれば (S 1 6 1 8 で Y E S)、特別図柄待機処理を終え、客待ちフラグが O N でなければ (S 1 6 1 8 で N O)、客待ちコマンドを出力バッファにセットし (S 1 6 1 9)、客待ちフラグを O N にし (S 1 6 2 0)、特別図柄待機処理を終える。

30

【 0 2 8 7 】

また、特図 2 保留数が「 0 」であるが特図 1 保留数が「 0 」でない場合 (S 1 6 0 1 で Y E S 且つ S 1 6 0 8 で N O)、即ち、特図 2 関連判定情報はないが、第 1 始動口 1 1 への入賞に起因して取得した特図 1 関連判定情報の記憶が 1 つ以上ある場合には、特図 1 判定処理 (S 1 6 0 9) 及び特図 1 変動パターン判定処理 (S 1 6 1 0) を行う。

【 0 2 8 8 】

特図 1 判定処理 (S 1 6 0 9) では、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特別図柄乱数の中で最も先に記憶されたものを読み出して、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブルに基づいて、大当たり、またはハズレの何れであるかの判定（大当たり判定）を行う。現在、通常確率状態であれば通常確率状態用第 1 大当たり判定テーブルを用い

40

50

て大当たり判定を行い、高確率状態であれば高確率状態用第1大当たり判定テーブルを用いて大当たり判定を行う。

【0289】

ここで、大当たり判定の結果が大当たりであれば、大当たり図柄種別乱数を読み出して第1大当たり図柄種別判定テーブルに基づいて大当たり図柄種別の判定（大当たり図柄種別判定）を行う。そして、大当たり図柄種別を表す大当たり図柄データを遊技用RAM104に設けられた特図バッファにセットすると共に、大当たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを遊技用RAM104に設けられた出力バッファにセットする。

【0290】

また、大当たり判定の結果が「ハズレ」であれば、ハズレを表すハズレ図柄データを特図バッファにセットすると共に、ハズレを表す図柄指定コマンドを出力バッファにセットする。

【0291】

次に、特図1変動パターン判定処理（S1610）について図36を用いて説明する。特図1変動パターン判定処理では、まず、現在非時短状態であるか否かを判定する（S1651）。非時短状態であれば（S1651でYES）、非時短状態用の特図1変動パターン判定テーブルを選択（S1652）してからステップS1654に進み、非時短状態でなければ（S1651でNO）、時短状態用の特図1変動パターン判定テーブルを選択（S1653）してからステップS1654に進む。

【0292】

ステップS1654において、遊技制御用マイコン101は、大当たり判定結果が「大当たり」であるか否かを判定する。大当たりでなければ（S1654でNO）、ステップS1656に進み、大当たりであれば（S1654でYES）、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄A」であるか否かを判定する（S1655）。遊技制御用マイコン101は、大当たり図柄Aであれば（S1655でYES）、ステップS1652またはステップS1653の何れかで選択した特図1変動パターン判定テーブルの中から大当たり図柄A用の特図1変動パターン判定テーブルを選択（S1663）してからステップS1662に進み、大当たり図柄Aでなければ（S1655でNO）、ステップS1652またはステップS1653の何れかで選択した特図1変動パターン判定テーブルの中から大当たり図柄B,C用の特図1変動パターン判定テーブルを選択（S1662）してからステップS1662に進む。

【0293】

ステップS1656において、遊技制御用マイコン101は、リーチ判定を行う。リーチ判定では、リーチ乱数を読み出して、そのリーチ乱数を現在の遊技状態（非時短状態/時短状態）に応じたリーチ判定テーブルに照合して、リーチ有りかリーチ無しかを判定する。

【0294】

遊技制御用マイコン101は、次に、ステップS1656のリーチ判定の結果が「リーチ有り」であるか否かを判定する（S1657）。リーチ有りであれば（S1657でYES）、ステップS1652またはステップS1653の何れかで選択した特図1変動パターン判定テーブルの中からリーチ有りハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルを選択（S1659）してからステップS1662に進み、リーチ有りでなければ（S1657でNO）、現在の特図1保留数を確認して、ステップS1652またはステップS1653の何れかで選択した特図1変動パターン判定テーブルの中から特図1保留数に応じたリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルを選択（S1658）してからステップS1662に進む。

【0295】

遊技制御用マイコン101は、ステップS1662において、特図変動パターン乱数を読み出して、その特図変動パターン乱数をステップS1658～ステップS1661の何れかで選択した特図1変動パターン判定テーブルに照合して、特図1変動パターンを判定

10

20

30

40

50

する特図 1 変動パターン判定を行う。続けて、遊技制御用マイコン 101 は、決定された特図 1 変動パターンを示す特図 1 変動開始コマンドを出力バッファにセットし (S1663)、決定された特図 1 変動パターンに応じた特図変動時間を特別動作用タイマにセットし (S1664)、特図 1 変動パターン判定処理を終了して、特別図柄待機処理に処理を戻す。

【0296】

なお、特別動作用タイマは、遊技制御側タイマ割り込み処理 (S005) におけるその他の処理 (S107) において、4 ms 分、更新される。また、セットされる特図 1 変動開始コマンドには、特別図柄の種別（特図 1 であるということ）に関する情報や特図 1 変動パターン判定処理 (S1610) で行われた特図変動パターン判定の結果に関する情報（リーチの有無や特図変動時間の情報を含む特図変動パターンの情報）が含まれている。10

【0297】

続いて、遊技制御用マイコン 101 は、ステップ S1610 で決定された特図 1 変動パターンに応じた特図変動時間に基づいて特図 1 表示器 81a に特図 1 の変動表示を開始させる (S1611)。20

【0298】

次に、遊技制御用マイコン 101 は、特図 1 保留記憶部 105a における各種カウンタ値の格納場所（記憶領域）を現在の位置から読み出される側に一つシフトするとともに、特図 1 保留記憶部 105a における保留 1 個目に対応する記憶領域（読み出される側から最も遠い記憶領域）をクリアする特図 1 保留記憶部シフト処理を行う (S1612)。このようにして、特図 1 保留が保留された順に消化される。20

【0299】

次に、遊技制御用マイコン 101 は、特図 1 保留数カウンタを「1」減算し (S1613)、特図 1 保留表示器 83a が示す特図 1 保留数を「1」減少させて変更し (S1614)、特別動作ステータスを「2」に変更する (S1615)。

【0300】

遊技制御用マイコン 101 は、続いて、客待ちフラグが ON か否かを判定し (S1616)、ON であれば (S1616 で YES)、客待ちフラグを OFF して (S1617)、特別図柄待機処理を終え、ON でなければ (S1616 で NO)、ステップ S1617 を実行することなく特別図柄待機処理を終える。30

【0301】

また、ステップ S1601 において特図 2 保留数が「0」でない場合 (S1601 で NO)、即ち、第 2 始動口 12 への入賞に起因して取得した特図 2 関連判定情報の記憶が 1 つ以上ある場合には、特図 2 判定処理 (S1602) 及び特図 2 変動パターン判定処理 (S1603) を行う。特図 2 判定処理 (S1602) 及び特図 2 変動パターン判定処理 (S1603) は、特図 1 判定処理 (S1609) および特図 1 変動パターン判定処理 (S1610) と基本的には同じ処理内容である。40

【0302】

特図 2 判定処理 (S1602) は、大当たり判定で用いるテーブルが第 2 大当たり判定テーブルであること、および大当たり図柄種別判定で用いるテーブルが第 2 大当たり図柄種別判定テーブルであることを除いて、基本的には特図 1 判定処理 (S1609) と同様の処理であるため説明を省略する。また、特図 2 変動パターン判定処理 (S1603) も、基本的には、特図 2 変動パターン判定で用いるテーブルが特図 2 変動パターン判定テーブルであることを除いて特図 1 変動パターン判定処理 (S1610) と同様の処理であるため説明を省略する。

【0303】

次に、遊技制御用マイコン 101 は、ステップ S1603 で決定された特図変動パターンに応じた特図変動時間に基づいて特図 2 表示器 81b に特図 2 の変動表示を開始させる (S1604)。50

【0304】

次に、遊技制御用マイコン101は、特図2保留記憶部105bにおける各種カウンタ値の格納場所（記憶領域）を現在の位置から読み出される側に一つシフトするとともに、特図2保留記憶部105bにおける保留4個目に対応する記憶領域（読み出される側から最も遠い記憶領域）をクリアする特図2保留記憶部シフト処理を行う（S1605）。このようにして、特図2保留が保留された順に消化される。

【0305】

続いて遊技制御用マイコン101は、特図2保留数カウンタを「1」減算し（S1606）、特図2保留表示器83bが示す特図2保留数を「1」減少させて変更し（S1607）、特別動作ステータスを「2」に変更し（S1615）、ステップS1616に進む。

【0306】

上記のように第1実施形態では、特図1保留に基づく特別図柄の変動表示は、特図2保留が「0」の場合（S1601でYESの場合）に限って行われる。すなわち特図2保留の消化は、特図1保留の消化に優先して実行される。そして第1実施形態では、特図2保留に基づく抽選の方が、特図1保留に基づく抽選よりも、遊技者にとって利益の大きい大当たり図柄に当選しやすくなっている。なお、特図1保留の消化を特図2保留の消化に優先して実行されるようにしても良い。また、特図1保留の消化と特図2保留の消化を、特図の種別に関わらず保留が発生した順に行っても良い。

【0307】

[特別図柄変動処理]

次に図37を用いて特別図柄変動処理について説明する。遊技制御用マイコン101は、特別図柄変動処理（S1503）ではまず、特別図柄の変動表示を終了させるか否か、即ち、ステップS1603又はステップS1610で特別動作用タイマにセットした特図変動時間が経過した（特別動作カウンタ=0）か否かを判定する（S1701）。特別図柄の変動表示を終了させない場合（S1701でNO）、特別図柄変動処理を終了し、特別図柄の変動表示を終了させるとともに、ステップS1602又はステップS1609で特図バッファにセットした図柄データ（大当たり図柄データ、またはハズレ特図データ）に応じた特別図柄の停止表示をさせる（S1702）。

【0308】

続いて、予め設定された特図確定時間（例えば、0.8秒）を特別動作用タイマにセットし（S1703）、特別図柄の変動表示が終了することを示す特図変動停止コマンドを出力バッファにセットし（S1704）、特別動作ステータスを「3」に変更し（S1705）、特別図柄変動処理を終了する。

【0309】

[特別図柄確定処理]

次に図38を用いて特別図柄確定処理について説明する。遊技制御用マイコン101は、特別図柄確定処理（S1504）ではまず、特別図柄の停止表示を終了させるか否か、即ち、ステップS1703で特別動作用タイマにセットした特図確定時間が経過した（特別動作カウンタ=0）か否かを判定する（S1751）。特別図柄の停止表示を終了させない場合（S1751でNO）、特別図柄確定処理を終了し、特別図柄の停止表示を終了させる場合（S1751でYES）、現在、通常確率状態（高確率フラグがOFF）であるか否かを判定する（S1752）。

【0310】

遊技制御用マイコン101は、現在、通常確率状態でなければ（S1752でNO）、ステップS1757に進み、現在、通常確率状態であれば（S1752でYES）、時短状態（時短フラグがON）であるか否かを判定する（S1753）。遊技制御用マイコン101は、時短状態でなければ（S1753でNO）、ステップS1757に進み、現在、時短状態であれば（S1753でYES）、時短状態で実行可能な特別図柄の可変表示の残りの回数（時短残り回数）を計測する時短残り回数カウンタの値を「1」減算し（S1754）、時短残り回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定する（S1755）。

10

20

30

40

50

。時短残り回数カウンタの値（時短残り回数）が「0」でなければ（S1755でNO）、ステップS1757に進み、時短残り回数カウンタの値（時短残り回数）が「0」であれば（S1755でYES）、時短状態から非時短状態に移行させて（時短フラグをOFFする）（S1756）、ステップS1757に進む。

【0311】

次に、遊技制御用マイコン101は、現在の遊技状態を確認し、その遊技状態を示した遊技状態コマンドを出力バッファにセットし（S1757）、現在停止表示している特別図柄が大当たり図柄か否かを判定する（S1758）。大当たり図柄でなければ（S1758でNO）、特別動作ステータスを「1」に変更して（S1762）、特別図柄確定処理を終え、大当たり図柄であれば（S1758でYES）、遊技状態をリセットする（通常遊技状態を設定する。具体的には、高確率フラグおよび時短フラグをOFFし、高確率残り回数カウンタおよび時短残り回数カウンタの値を「0」にする）（S1759）。

【0312】

続いて、遊技制御用マイコン101は、大当たり遊技準備処理を行い（S1760）、特別動作ステータスを「4」に変更し（S1761）、特別図柄確定処理を終了する。遊技制御用マイコン101は、大当たり遊技準備処理において、大当たり図柄の種別に応じた大当たり遊技制御テーブルを遊技用RAM104の所定領域にセットする。また、停止表示している大当たり図柄に応じたオープニング中であることを示す大当たりオープニングフラグを遊技用RAM104の所定領域にONし、大当たり図柄の種別に応じて、所定のオープニング時間（大当たり遊技が開始されてから1ラウンドを開始するまでの時間）を特別動作用タイマにセットする。さらには、大当たり図柄の種別に応じ、大当たり図柄の種別を示すオープニングコマンドを遊技用RAM104の出力バッファにセットする。大当たり図柄の種別に応じたオープニングコマンドは、その停止表示した大当たり図柄の種別に応じた大当たり遊技（大当たり遊技のオープニング）が開始されることを表す。

【0313】

6. 演出制御基板120による演出の制御

[演出制御メイン処理]

次に図39のフローチャートを用いて、演出制御基板120による演出の制御について説明する。なお、以下に説明する演出を制御するためのフローチャートは、一例である。そして、フローチャートにおける複数の処理については、処理内容に矛盾が生じない範囲で、適宜に実行順序を変更し、または並列に実行することができる。

【0314】

また、以下の演出制御基板120による演出の制御の説明において登場するカウンタ、タイマー、フラグ、バッファ等は、演出用RAM124に設けられている。演出制御基板120に備えられた演出制御用マイコン121は、パチンコ遊技機PY1が電源投入されると、図39に示したサブ制御メイン処理のプログラムを演出用ROM123から読み出して実行する。

【0315】

同図に示すように、サブ制御メイン処理では、最初に、電源投入に応じた電源投入時処理を行う（S4001）。電源投入時処理では、例えば、演出用CPU122の設定、SIO、PIO、CTC（割り込み時間の管理のための回路）等の設定等を行う。

【0316】

次に、割り込みを禁止し（S4002）、乱数シード更新処理を実行する（S4003）。乱数シード更新処理（S4003）では、種々の演出に関する判定を行うための種々の演出判定用乱数カウンタの値を更新する。なお、演出判定用乱数には、後述する特図変動演出パターン判定用乱数、SPリーチ種別判定用乱数、発展演出種別判定用乱数、最終パネル判定用乱数、昇格シナリオ判定用乱数、および昇格演出態様判定用乱数等の演出内容を決定するための様々な乱数がある。

【0317】

種々の演出についての判定用乱数カウンタの更新方法は、一例として、前述の遊技制御

10

20

30

40

50

基板 100 が行う乱数更新処理と同様の方法をとることができる。更新に際して乱数値を 1 ずつ加算するのではなく、2 ずつ加算するなどしてもよい。これは、前述の遊技制御基板 100 が行う乱数更新処理においても同様である。

【0318】

乱数シード更新処理が終了すると、コマンド送信処理を実行する (S4004)。コマンド送信処理では、演出制御基板 120 の演出用 RAM124 内の出力バッファに格納されている各種のコマンド（例えば、後述する特図変動演出開始コマンド、客待ち開始コマンド、オープニング演出開始コマンド、ラウンド演出開始コマンド、およびエンディング演出開始コマンドなど）を、画像制御基板 140 に送信する。

【0319】

コマンドを受信した画像制御基板 140 は、受信したコマンドに従って、表示部 50a に画像を表示する（画像による種々の演出を実行する）。また、演出制御基板 120 は、画像制御基板 140 によって行われる種々の演出とともに、音声制御回路 161 を介してスピーカ 52 から音声を出力させたり（音声による種々の演出を実行したり）、サブドライブ基板 162 を介して枠ランプ 53 を発光させたり（発光による種々の演出を実行したり）、盤可動体 55k を作動させたり（動作による種々の演出を実行したり）する。なお、種々の演出としては、特図変動演出、大当たり遊技演出（大当たりオープニング演出、ラウンド演出、大当たりエンディング演出）、客待ち演出、操作演出、および先読み演出等がある。

【0320】

演出制御用マイコン 121 は続いて、割り込みを許可する (S4005)。以降、ステップ S4002 ~ ステップ S4005 をループさせる。割り込み許可中においては、受信割り込み処理 (S4010)、1ms タイマ割り込み処理 (S4011)、および 10ms タイマ割り込み処理 (S4012) の実行が可能となる。1ms タイマ割り込み処理 (S4011)、および 10ms タイマ割り込み処理 (S4012) については後述する。

【0321】

受信割り込み処理 (S4010) は、ストローブ信号、すなわち、遊技制御基板 100 から送られた各種のコマンドが演出制御用マイコン 121 の外部 INT 入力部に入力される度に実行される。受信割り込み処理 (S4010) では、演出制御用マイコン 121 は遊技制御基板 100 の出力処理 (S101) により送信されてきて受信した各種のコマンドを演出用 RAM124 の受信バッファに格納する。この受信割り込み処理は、他の割り込み処理 (S4011、S4012) に優先して実行される。

【0322】

[1ms タイマ割り込み処理]

次に図 40 を用いて 1ms タイマ割り込み処理について説明する。1ms タイマ割り込み処理 (S4011) は、演出制御基板 120 に 1ms sec 周期の割り込みパルスが入力される度に実行される。演出制御用マイコン 121 は、1ms タイマ割り込み処理 (S4011) ではまず、入力処理を行う (S4101)。入力処理では、演出制御用マイコン 121 は、第 1 演出ボタン検知センサ 40a からの検出信号に基づいて第 1 演出ボタンスイッチデータを作成する。演出制御用マイコン 121 は、第 2 演出ボタン検知センサ 41a からの検出信号に基づいて第 2 演出ボタンスイッチデータを作成する。

【0323】

続いて、演出制御用マイコン 121 は、発光データ出力処理を行う (S4102)。発光データ出力処理では、演出制御用マイコン 121 は、画像による演出等に合うタイミングなどで枠ランプ 53 を発光させるべく、後述の 10ms タイマ割り込み処理における発光データ作成処理 (S4207) で作成された発光データをサブドライブ基板 162 に出力する。つまり、演出制御用マイコン 121 は、発光データに従って枠ランプ 53 を所定の発光態様で発光させる。

【0324】

次いで、演出制御用マイコン 121 は、可動装置制御処理を行う (S4103)。可動

10

20

30

40

50

装置制御処理では、演出制御用マイコン 121 は、所定のタイミングで盤可動体 55k を駆動させるべく、駆動データ（盤可動体 55k の駆動のためのデータ）を作成し、または、出力する。つまり、演出制御用マイコン 121 は、駆動データに従って、盤可動体 55k を所定の動作態様で駆動させる。

【0325】

そして、演出制御用マイコン 121 は、ウォッチドッグタイマのリセット設定を行うウォッチドッグタイマ処理を行って（S4104）、1ms タイマ割り込み処理を終える。

【0326】

[10ms タイマ割り込み処理]

次に図 41 を用いて 10ms タイマ割り込み処理について説明する。10ms タイマ割り込み処理（S4012）は、演出制御基板 120 に 10ms sec 周期の割り込みパルスが入力される度に実行される。演出制御用マイコン 121 は、10ms タイマ割り込み処理ではまず、ステップ S4010 で受信バッファに格納したコマンドなどを解析する受信コマンド解析処理を行う（S4201）。受信コマンド解析処理については後述の第 1 実施形態で詳細に説明する。

10

【0327】

次いで、演出制御用マイコン 121 は、音声制御処理を行う（S4202）。音声制御処理では、演出用 RAM124 にセットされる特図変動演出データなどが示す演出内容などに基づいて、音声データ（スピーカ 52 からの音声の出力を制御するデータ）の作成と音声制御回路 161 への出力が行われる。

20

【0328】

次いで、演出制御用マイコン 121 は、発光データ作成処理を行う（S4203）。発光データ作成処理では、演出用 RAM124 にセットされる特図変動演出データなどが示す演出内容などに基づいて、発光データの作成が行われる。

【0329】

< 第 1 実施形態 >

次に、前述の本発明に係る基本的な実施形態に基づいて、本発明の特徴的な構成を表す第 1 実施形態について説明する。

【0330】

前述のように、特図変動演出において SP リーチや LR リーチといった、遊技者に大当たりを期待させることができる、すなわち、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出が行われる。パチンコ遊技機 PY1 では、SP リーチや LR リーチ以外にも大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出が実行可能である。具体的には、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出として、タイマー予告、タイマー発動予告、および、群予告が実行可能である。以下に、各演出について説明する。

30

【0331】

最初に、タイマー予告について説明する。タイマー予告は SP リーチまたは LR リーチの実行前に実行可能な演出である。すなわち、タイマー予告は、SP リーチまたは LR リーチが実行されることを示唆する演出である。よって、結果的には、タイマー予告が実行されると、遊技者に大当たりを期待させることができる。SP リーチおよび LR リーチがハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも実行可能であり、タイマー予告も同様にハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも実行可能であるからである。

40

【0332】

詳細は後述するが、タイマー予告は、表示部 50a において、タイマーを表す画像（以下、タイマー予告画像 G20）が表示されることによって行われる。タイマー予告画像 G20 には時間が表示される。そして、時間の経過に伴って、そのタイマー予告画像 G20 に表示されている時間が減少していく、その時間が「0」になると、すなわちタイムアップすると、SP リーチまたは LR リーチが実行されることがある。つまり、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて SP リーチまたは LR リーチが実行されることがある。このように、タイマー予告は、タイムアップという特定の段階まで進行可能な演出であ

50

る。そして、最初に表示される数字は、タイマー予告が進行可能な長さを表している。

【0333】

タイマー予告を実行するか否かはタイマー予告実行判定によって決定される。タイマー予告実行判定は、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンに関連付けられているタイマー予告実行判定テーブルに基づいてタイマー予告実行判定を行う。図42(A)に示すように、各タイマー予告実行判定テーブルは、タイマー予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【0334】

図42(A)に示すように、同一の大当たり判定結果に対して、Lリーチ変動よりもSリーチ変動のときの方が、「タイマー予告を実行する」と判定する確率が高い。また、同一のリーチ種別に対して、ハズレよりも大当たりのときの方が、「タイマー予告を実行する」と判定する確率が高い。

10

【0335】

また、タイマー予告の演出態様として、タイマー予告態様1と、タイマー予告態様2とが設定されている。タイマー予告の演出態様は、タイマー予告画像G20に関連付けられている。タイマー予告態様1のタイマー予告では、色が赤であり、最初に表示される時間が「15」のタイマー予告画像G20が表示される。一方、タイマー予告態様2のタイマー予告では、色が青であり、最初に表示される時間が「5」のタイマー予告画像G20が表示される。タイマー予告が実行されている間、タイマー予告画像G20に表示されている数字が「0」になるまで、時間の経過に伴って「1」ずつ減少していく。よって、タイマー予告は、数字が「0」になるまで、すなわちタイムアップという特定の段階まで進行可能な演出である。

20

【0336】

タイマー予告の演出態様であるタイマー予告態様を何れにするか否かはタイマー予告態様判定によって決定される。タイマー予告態様判定は、タイマー予告判定でタイマー予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンに関連付けられたタイマー予告態様判定テーブルに基づいてタイマー予告態様判定を行う。図42(B)に示すように、各タイマー予告態様判定テーブルは、複数のタイマー予告態様のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

30

【0337】

図42(B)に示すように、同一の大当たり判定結果に対して、Lリーチ変動よりもSリーチ変動のときの方が、「タイマー予告態様1」の選択率が高い。すなわち、タイマー予告態様1のタイマー予告が実行されると、その後にLリーチよりもS Pリーチの方が高確率で実行される。また、同一のリーチ種別に対して、ハズレよりも大当たりのときの方が、「タイマー予告態様1」の選択率が高い。

【0338】

次に、タイマー発動予告について説明する。タイマー発動予告は、タイマー予告の前に実行可能であり、タイマー予告が実行される可能性があることを示唆する演出である。よって、結果的に、タイマー発動予告が実行されると、遊技者に大当たりを期待させることができる。タイマー予告がハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも実行可能であり、タイマー発動予告も同様にハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも実行可能であるからである。

40

【0339】

タイマー発動予告を実行するか否かはタイマー発動予告実行判定によって決定される。タイマー発動予告実行判定は、タイマー予告実行判定でタイマー予告を実行すると判定された場合に演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンおよびタイマー予告態様に関連付けられたタイマー発動予告実行判定テーブルに基づいてタイマー発動予告実行判定を行う。図43(A)に示すように、各タイ

50

マー発動予告実行判定テーブルは、タイマー発動予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【 0 3 4 0 】

図43(A)に示すように、同一の特図変動パターンに対して、タイマー予告態様2よりもタイマー予告態様1のときの方が、「タイマー発動予告を実行する」と判定する可能性が高い。よって、タイマー発動予告が実行されるとタイマー予告態様1のタイマー予告の方が高確率で実行される。また、同一の大当たり判定結果とタイマー予告態様の組み合わせに対して、Lリーチ変動よりもS Pリーチ変動のときの方が、「タイマー発動予告を実行する」と判定する可能性が高い。

【 0 3 4 1 】

また、タイマー発動予告の演出種別として、タイマー調整中予告と、ドラム予告がある。タイマー発動予告の演出種別の違いによって、全体的な演出構成が異なる。

【 0 3 4 2 】

詳細は後述するが、タイマー調整中予告は、表示部50aにおいて、タイマーを表す画像（以下、タイマー調整中予告画像G21）が表示されることによって行われる。タイマー調整中予告画像G21の時計と、タイマー予告画像G20の時計とは同一に構成されているが、タイマー調整中予告画像G21には、時間が表示されずに「調整中」という文字が表示される。そして、時間の経過に伴って表示内容が変化しない。特図変動表示中、表示部50aにタイマー調整中予告画像G21が表示されているときに、所定のタイミングでタイマー調整中予告画像G21からタイマー予告画像G20に切り替わる。すなわち、タイマー調整中予告から発展的にタイマー予告が実行される。なお、タイマー調整中予告が実行されると必ずタイマー予告が実行される。すなわち、タイマー調整中予告は、タイマー予告が実行されることを示唆している。

10

【 0 3 4 3 】

ドラム予告は、表示部50aにおいて、スロットマシーンを構成する1つのリールのような円柱状の回転体を表す画像（以下、ドラム予告画像G22）が表示されることによって行われ、その後に実行される演出内容や所定事項などを示唆する。ドラム予告画像G22には、回転体の回転方向、具体的には周方向に沿って複数の示唆図柄が配されている。複数の示唆図柄として、タイマー予告の実行を示唆するタイマー示唆図柄と、後述する群予告の実行を示唆する群示唆図柄と、大当たり期待度が高いことを示唆する高期待度示唆図柄と、リーチの成立を示唆するリーチ示唆図柄と、ハズレであることを示唆するハズレ示唆図柄と、がある。

20

【 0 3 4 4 】

ドラム予告では、最初にドラム予告画像G22が出現し、次にドラム予告画像G22が所定時間回転し、最終的に停止する。ドラム予告でドラム予告画像G22が停止する際には、1つの示唆図柄が視認可能に表示される。その視認可能な示唆図柄が、「停止した示唆図柄」となる。すなわち、その視認可能な示唆図柄で停止表示したということになる。そして、その停止表示された示唆図柄が示唆する内容が、当該ドラム予告で導出された結果、すなわち、予告演出の予告内容となる。

30

【 0 3 4 5 】

よって、例えば、ドラム予告でタイマー示唆図柄が停止表示されると、その直後にタイマー予告が実行される。すなわち、タイマー示唆図柄が停止表示するドラム予告がタイマー発動予告を構成する。また、ドラム予告で群示唆図柄が停止表示されると、その直後に群予告が実行される。さらに、ドラム予告でリーチ示唆図柄が停止表示されると、その後にリーチが成立する。加えて、ドラム予告でハズレ示唆図柄が停止表示されると、その後に、ハズレを示す態様で演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われる。なお、高期待度示唆図柄の停止表示はその特図変動表示の大当たり期待度が高いということを示唆しており、他の示唆図柄のように、高期待度示唆図柄の停止表示に連動して演出内容に関連する演出が行われるわけではない。このように、ドラム予告にタイマー発動予告が含まれるが、ドラム予告が実行されるとタイマー発動予告が実行されることがあるので、ドラム

40

50

予告は、タイマー予告が実行される可能性があることを示唆する演出と位置づけることができる。

【0346】

タイマー発動予告の演出種別であるタイマー発動予告種別を何れにするか否かはタイマー発動予告種別判定によって決定される。タイマー発動予告種別判定は、タイマー発動予告判定でタイマー発動予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンおよびタイマー予告態様に関連付けられたタイマー発動予告種別判定テーブルに基づいてタイマー発動予告種別判定を行う。図43(B)に示すように、各タイマー発動予告種別判定テーブルは、複数のタイマー発動予告種別のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

10

【0347】

図43(B)に示すように、同一の特図変動パターンに対して、タイマー予告態様2よりもタイマー予告態様1のときの方が、「タイマー発動予告種別1」の選択率が高い。よって、タイマー発動予告種別1のタイマー発動予告が実行されると、タイマー予告態様1のタイマー予告の方が高確率で実行される。タイマー予告態様1の方がタイマー予告態様2よりもSPリーチが実行され易いことから、タイマー発動予告種別1のタイマー発動予告が実行されるとSPリーチが実行され易いということもできる。

【0348】

さらに、タイマー発動予告を構成するドラム予告(以下、「タイマードラム予告」という)の演出態様として、ドラム予告態様1と、ドラム予告態様2とが設定されている。ドラム予告の演出態様であるドラム予告態様は、ドラム予告画像G22に関連付けられている。ドラム予告態様1およびドラム予告態様2の何れの場合であっても、ドラム予告画像G22に含まれる複数の示唆図柄は文字で構成されているが、ドラム予告態様1の場合はタイマー示唆図柄が他の示唆図柄よりも大きく構成され、ドラム予告態様2の場合はタイマー示唆図柄が他の示唆図柄と大体同じ大きさで構成されている。

20

【0349】

ドラム予告の演出態様を何れにするか否かはドラム予告態様判定によって決定される。ドラム予告態様判定は、タイマー発動予告判定でドラム予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、タイマー予告態様に関連付けられたドラム予告態様判定テーブルに基づいてドラム予告態様判定を行う。図43(C)に示すように、各ドラム予告態様判定テーブルは、複数のドラム予告態様のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

30

【0350】

図43(C)に示すように、タイマー予告態様2よりもタイマー予告態様1のときの方が、「ドラム予告態様1」の選択率が高い。すなわち、ドラム予告態様1のドラム予告が実行されると、その後にタイマー予告態様2よりもタイマー予告態様1の方が高確率で実行される。なお、ドラム予告態様1、およびドラム予告態様2のドラム予告画像G22の展開図を図44に図示する。

【0351】

次に群予告について説明する。群予告は、Nリーチ中に、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆し、遊技者に大当たりを期待させることができる演出である。ハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも群予告が実行可能であるからである。詳細は後述するが、群予告は、表示部50aにおいて、複数の野球のボールの群を表す画像(以下、群予告画像G23)が表示されることによって行われる。群予告画像G23が表示部50aの左端から右端に移動するように出現して消えていく。

40

【0352】

群予告を実行するか否かは群予告実行判定によって決定される。群予告実行判定は、タイマー予告判定でタイマー予告を実行しないと判定された場合に演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンに関連付けられた群予告実行判定テーブルに基づいて群予告実行判定を行う。図45(A)に示すように、

50

各群予告実行判定テーブルは、群予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【 0 3 5 3 】

図 4 5 (A) に示すように、各大当たり判定結果に対して、 L リーチ変動よりも S P リーチ変動のときの方が、「群予告を実行する」と判定する可能性が高い。よって、群予告が実行されると L リーチよりも S P リーチの方が高確率で実行される。また、同一のリーチ種別に対して、ハズレのときよりも大当たりのときの方が、「群予告を実行する」と判定する可能性が高い。

【 0 3 5 4 】

さらに、群予告の演出態様である群予告態様として、群予告態様 1 、群予告態様 2 、および群予告態様 3 が設定されている。群予告態様は、群予告画像 G 2 3 を構成するボールの数に関連付けられている。群予告態様 1 の群予告では、 3 0 個の野球のボールの群を表す群予告画像 G 2 3 が表示される。また、群予告態様 2 の群予告では、 1 5 個の野球のボールの群を表す群予告画像 G 2 3 が表示される。さらに、群予告態様 3 の群予告では、 3 個の野球のボールの群を表す群予告画像 G 2 3 が表示される。

10

【 0 3 5 5 】

群予告の演出態様を何れにするか否かは群予告態様判定によって決定される。群予告態様判定は、群予告判定で群予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンに関連付けられた群予告態様判定テーブルに基づいて群予告態様判定を行う。図 4 5 (B) に示すように、各群予告態様判定テーブルは、複数の群予告態様のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 4 5 (B) に示すように、群予告態様 1 > 群予告態様 2 > 群予告態様 3 の順序で、大当たりおよび S P リーチに対する期待度が高い。

20

【 0 3 5 6 】

また、前述の通り、ドラム予告では、群予告を示唆する群示唆図柄の停止表示が行われることがある。このドラム予告は、群予告が実行される場合に、群予告の前に実行可能である。そして、この群示唆図柄の停止表示を伴うドラム予告（以下、「群ドラム予告」という）を実行するか否かは群ドラム予告実行判定によって決定される。群ドラム予告は、群予告判定で群予告を実行すると判定された場合に演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンに関連付けられた群ドラム予告実行判定テーブルに基づいて群ドラム予告判定を行う。図 4 6 (A) に示すように、各群ドラム予告実行判定テーブルは、群ドラム予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

30

【 0 3 5 7 】

図 4 6 (A) に示すように、各大当たり判定結果に対して、 L リーチ変動よりも S P リーチ変動のときの方が、「群ドラム予告を実行する」と判定する可能性が高い。よって、群ドラム予告が実行されると L リーチよりも S P リーチの方が高確率で実行される。また、同一のリーチ種別に対して、ハズレのときよりも大当たりのときの方が、「群ドラム予告を実行する」と判定する可能性が高い。

【 0 3 5 8 】

また、ドラム予告は、タイマー予告や群予告が実行されない場合にも実行可能である。具体的には、タイマー予告や群予告が実行されない場合に、高期待度示唆図柄、リーチ示唆図柄、または、ハズレ示唆図柄を停止表示させるドラム予告（以下、「非特定ドラム予告」と総称する）を実行可能である。そして、この非特定ドラム予告を実行するか否かは非特定ドラム予告実行判定によって決定される。非特定ドラム予告は、非特定ドラム予告判定で非特定ドラムを実行すると判定された場合に演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンに関連付けられた非特定ドラム予告実行判定テーブルに基づいて非特定ドラム予告実行判定を行う。

40

【 0 3 5 9 】

図 4 6 (B) に示すように、各非特定ドラム予告実行判定テーブルは、高期待度示唆図

50

柄の停止表示が行われる非特定ドラム予告の実行（実行1）、リーチ示唆図柄の停止表示が行われる非特定ドラム予告の実行（実行2）、リーチ示唆図柄の停止表示が行われる非特定ドラム予告の実行（実行3）、および非特定ドラムの不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。よって、非特定ドラム予告実行判定では、非特定ドラム予告を実行すか否かが決定されると共に、実行する場合の非特定ドラム予告の演出内容、すなわち、何れの示唆図柄の停止表示を行うかも決定される。図46（B）に示すように、高期待度示唆図柄を停止表示させる態様>リーチ示唆図柄を停止表示させる態様>ハズレ示唆図柄を停止表示させる態様の順序で、大当たりおよびSPリーチに対する期待度が高い。

【0360】

さらに、第1実施形態のパチンコ遊技機PY1は、タイマー発動予告、およびドラム予告を行わない場合であっても、タイマー調整中予告ガセを実行可能である。タイマー調整中予告ガセは、タイマー調整中予告が開始しそうになるが、開始されない演出である。具体的には、タイマー調整中予告ガセは、タイマー調整中予告画像G21が半分程度出現するが、完全には出現しないまま消える演出である。

【0361】

タイマー調整中予告ガセを実行するか否かはタイマー調整中予告ガセ実行判定によって決定される。タイマー調整中予告ガセ実行判定は、タイマー発動予告、およびドラム予告を実行しないと判定された場合に演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンに関連付けられたタイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルに基づいてタイマー調整中予告ガセ実行判定を行う。図46（C）に示すように、各タイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルは、タイマー調整中予告ガセの実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【0362】

図46（C）に示すように、大当たりのときよりもハズレのときの方がタイマー調整中予告ガセを実行すると判定される確率が高いが、大当たりのときにもタイマー調整中予告ガセを実行すると判定される可能性はあるので、タイマー調整中予告ガセが実行されると大当たりである可能性はある。

【0363】

次に、タイマー予告、タイマー調整中予告、タイマードラム予告、群ドラム予告、非特定ドラム予告、群予告、およびタイマー調整中予告ガセなどの具体例について説明する。なお、以下に説明する具体例は一例であるので、各種演出の演出内容は以下に説明する具体例に限られず適宜に設定可能である。最初に、タイマー調整中予告ガセ、タイマー調整中予告、および、タイマー予告について説明する。

【0364】

例えば、図47（A）に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われている状態から、図47（B）に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始されたとする。それから所定時間（例えば、5秒）が経過すると、図47（C）に示すように、表示部50aの左端から、タイマー調整中予告画像G21が右端側から出現してきてその右半分が現れた状態で止まり、さらに右方に移動して完全に出現しようとするが反対方向から抑えられて完全なる出現が阻止されているような状態になる。このタイマー調整中予告画像G21の状態は、タイマー調整中予告画像G21が完全に出現してタイマー調整中予告が開始されるか、タイマー調整中予告画像G21が完全に出現せずに結果的にタイマー調整中予告ガセとして終了するかの分岐点となる。

【0365】

そして、タイマー調整中予告ガセであれば、図47（D-1）に示すように、タイマー調整中予告画像G21が左方へ移動して表示部50aから消えて、タイマー調整中予告ガセが終了し、引き続き、特図変動演出が行われる。一方、タイマー調整中予告であれば、図47（D-2）に示すように、タイマー調整中予告画像G21がさらに右方に移動し、完全に出現した状態となり、タイマー調整中予告が本格的に開始する。

10

20

30

40

50

【 0 3 6 6 】

続けて、図48(A)に示すように、タイマー調整中予告が継続され、タイマー調整中予告画像G21が表示部50aに表示されているときに、図48(B)に示すように、タイマー調整中予告からタイマー予告に発展し、あるいは切り替わり、タイマー調整中予告画像G21からタイマー予告画像G20に切り替わる。タイマー予告画像G20に切り替わると、タイマー予告画像G20に表示されている時計のカウントダウンが開始する。なお、タイマー予告画像G20は全体的に円形であり、その中央部に時間を表す数字が表示され、図48(B)～図48(C)に示すように、その縁部分がプログレスメーターを構成し、1秒間で1周して最初の状態に戻るように構成されている。よって、プログレスメーターが1周するごとに、数字部分が1ずつ減少していく。

10

【 0 3 6 7 】

そして、例えば、特図変動演出が進行して、図49(A)に示すように、リーチが成立してNリーチに突入する。さらにNリーチが進行して、Nリーチ中もタイマー予告が継続して実行される。この間、図49(B)～図49(C)に示すように、時間の経過に伴って、タイマー予告画像G20に表示されている部分の数字は徐々に減少していく。そこで、図49(D)に示すように、タイマー予告画像G20の数字が「0」になると、タイマー予告が終了してタイマー予告画像G20が消えて、図49(E)に示すように可動体演出が実行されてから、SPリーチまたはLリーチに突入する。

【 0 3 6 8 】

なお、図49に図示するように、タイマー予告画像G20が終了すると可動体演出が実行されてからLリーチまたはSPリーチが実行されるようにしても良いが、可動体演出が実行されずにLリーチやSPリーチに突入するようにしても良い。例えば、タイマー予告画像G20の数字が「0」になって、タイマー予告が終了してタイマー予告画像G20が消えると、例えば、図21(A)に示すような画面に切り替わるようにも良い。

20

【 0 3 6 9 】

次に、タイマードラム予告について説明する。例えば、図50(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われている状態から、図50(B)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始されたとする。それから所定時間(例えば、5秒)が経過すると、ドラム予告が開始され、図50(C)に示すように、表示部50aにドラム予告画像G22が出現し、図50(D)に示すように、回転し始める。このドラム予告画像G22の回転、すなわちドラム予告は所定時間行われる。ドラム予告画像G22の回転によって遊技者に何れの示唆図柄で停止するのかをドキドキさせることができる。また、ドラム予告画像G22の回転は、タイマー予告が実行される可能性があることを示唆する演出でもある。

30

【 0 3 7 0 】

そして、図51(A)に示すように、ドラム予告画像G22の回転が停止してタイマードラム予告の停止表示が行われ、その直後に図51(B)に示すように、停止表示の確定を示す確定示唆画像G24がドラム予告画像G22に重畠的に表示されて、タイマードラム予告が実行されることが示唆されると、図51(C)に示すように、ドラム予告画像G22が消えると共に、タイマー予告が開始して、タイマー予告画像G20が表示される。その後は、タイマー調整中予告後にタイマー予告が実行された具体例の場合と同様に、タイマー予告が進行する。そして、タイマー予告の終了に伴って、SPリーチまたはLリーチが実行される。

40

【 0 3 7 1 】

なお、図48～図51の例示では、タイマー予告の開始時に数字部分が「15」のタイマー予告画像G20が表示されたので、このタイマー予告態様はタイマー予告態様1である。タイマー予告態様2のタイマー予告のタイマー予告画像G20の数字は「5」、言い換えると、タイマー予告態様2のタイマー予告の演出時間は5秒であるから、タイマー予告態様2のタイマー予告の場合は、タイマー予告の開始タイミングを、タイマー予告態様1の場合よりも10秒遅らせることになる。この前にタイマー調整中予告やドラム予告を

50

実行する場合、開始タイミングを遅らせる分、タイマー調整中予告やドラム予告の開始タイミングを遅らせても良い。また、タイマー調整中予告やドラム予告の開始タイミングは変わらないようにする代わりに、タイマー調整中予告やドラム予告の演出時間を長くしてリーチを跨ぐようにしても良い。

【0372】

次に、群ドラム予告について説明する。例えば、図52(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われている状態から、図52(B)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始されたとする。それから所定時間(例えば、10秒)が経過すると、ドラム予告が開始され、図52(C)に示すように表示部50aにドラム予告画像G22が出現して回転し始める。そして、図52(D)に示すように、リーチが成立した後に、図52(E)に示すように、ドラム予告画像G22の回転が停止して群示唆図柄が停止表示され、確定示唆画像G24がドラム予告画像G22に重畠的に表示されて、群ドラム予告が実行されることが示唆されると、ドラム予告が終了してドラム予告画像G22が消えると共に、群予告が開始して、図52(F)～図52(G)に示すように、群予告画像G23が表示部50aの左側から出現して右方に進む。そして、図52(H)に示すように、右側から群予告画像G23が消えていき、群予告が終了する。その後は、図20(C)～図20(D)に示すように、ハズレを示す演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われるか、LリーチまたはSPリーチに発展する。

10

【0373】

次に、非特定ドラム予告の具体例について説明する。例えば、図53(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われている状態から、図53(B)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始されたとする。それから所定時間(例えば、5秒)が経過すると、ドラム予告が開始され、図53(C)に示すように、表示部50aにドラム予告画像G22が出現して回転し始める。そして、例えば、図53(D-1)に示すように、左演出図柄EZ1の仮停止表示が行われるタイミングで、ドラム予告画像G22の回転が停止してハズレ示唆図柄の停止表示が行われて確定示唆画像G24が表示されると、ドラム予告が終了してドラム予告画像G22が消えると共に、図53(E-1)に示すように、ハズレを示す演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われる。

20

【0374】

また、例えば図53(D-2)に示すように、左演出図柄EZ1の仮停止表示が行われるタイミングで、ドラム予告画像G22の回転が停止してリーチ示唆図柄が停止表示され、確定示唆画像G24が表示されると、ドラム予告が終了してドラム予告画像G22が消えると共に、図53(E-2)に示すように、リーチが成立する。

30

【0375】

あるいは、例えば図53(D-3)に示すように、ドラム予告画像G22の回転が停止して高期待度示唆図柄の停止表示が行われて確定示唆画像G24が表示されると、ドラム予告が終了してドラム予告画像G22が消えると共に、図53(E-3)に示すように、リーチが成立し、その直後に図24の可動体演出が実行される。なお、図53(E-2)および図53(E-3)の後は、Nリーチを経由して、LリーチまたはSPリーチに発展する。

40

【0376】

[受信コマンド解析処理]

次に図54～図55を用いて受信コマンド解析処理について説明する。演出制御用マイコン121は、受信コマンド解析処理ではまず、遊技制御基板100から始動入賞コマンド(第1始動入賞コマンド又は第2始動入賞コマンド)を受信したか否か、言い換えれば、始動入賞コマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する(S4301)。演出制御用マイコン121は、始動入賞コマンドを受信していれば(S4301でYES)、ステップS4302に進む一方、始動入賞コマンドを受信していなければ(S4301でNO)、ステップS4303に進む。

【0377】

50

ステップ S 4 3 0 2において、演出制御用マイコン 1 2 1は、第 1 始動口 1 1 や第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞することに応じた始動入賞時処理を行う。始動入賞時処理では、受信した始動入賞コマンドを演出用 RAM 1 2 4 にある始動入賞コマンド保留記憶部 1 2 5 に記憶する。次に、演出制御用マイコン 1 2 1は、その記憶した始動入賞コマンドを解析して、大当たり期待度を示す先読み演出を実行するか否かの判定を行う。先読み演出には、保留演出を特別態様で行う保留アイコン変化予告表示の他に、連続する複数回の特別図柄の変動表示にわたって相互に関連する連続予告演出等がある。これらの先読み演出を実行すると決定した場合には、決定した演出を実行するための先読み演出開始コマンドを演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットする。

【 0 3 7 8 】

演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットされた先読み演出開始コマンドが、コマンド送信処理 (S 4 0 0 4) により画像制御基板 1 4 0 に送信されると、画像制御基板 1 4 0 の画像用 CPU 1 4 1 は、画像用 ROM 1 4 2 から所定の演出画像を読み出して、画像表示装置 5 0 の表示部 5 0 a にて画像による先読み演出を行う。また、演出制御用マイコン 1 2 1 は、画像制御基板 1 4 0 によって行われる画像による先読み演出が行われている間、画像制御基板 1 4 0 に送信された先読み演出開始コマンドが示す先読み演出内容に応じて、音声制御回路 1 6 1 を介してスピーカ 5 2 から音声を出力させ（音声による先読み演出を実行し）、また、サブドライブ基板 1 6 2 を介して粹ランプ 5 3 を発光させ（発光による先読み演出を実行し）、盤可動体 5 5 k を作動させる（動作による先読み演出を実行する）事が可能である。

【 0 3 7 9 】

ステップ S 4 3 0 3において、演出制御用マイコン 1 2 1 は、遊技制御基板 1 0 0 から図柄指定コマンドを受信したか否か、言い換えれば、図柄指定コマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。演出制御用マイコン 1 2 1 は、図柄指定コマンドを受信していないければ (S 4 3 0 3 で NO) 、ステップ S 4 3 0 5 に進む一方、図柄指定コマンドを受信しているれば (S 4 3 0 3 で YES) 、図柄指定コマンドを演出用 RAM 1 2 4 にある図柄指定コマンド記憶部 1 2 6 に記憶する (S 4 3 0 4) 。

【 0 3 8 0 】

ステップ S 4 3 0 5において、演出制御用マイコン 1 2 1 は、遊技制御基板 1 0 0 から特図変動開始コマンドを受信したか否か、言い換えれば、特図変動開始コマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。特図変動開始コマンドを受信していないければ (S 4 3 0 5 で NO) 、ステップ S 4 3 0 7 に進む一方、特図変動開始コマンドを受信しているれば (S 4 3 0 5 で YES) 、特図変動演出の演出内容を決定し、特図変動演出を開始させるための特図変動演出開始処理 (S 4 3 0 6) を行う。

【 0 3 8 1 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動演出開始処理では、まず、特図変動開始コマンドを演出用 RAM 1 2 4 にある特図変動開始コマンド記憶部 1 2 7 に記憶する。次いで、ステップ S 4 3 0 4 で既に記憶した図柄指定コマンドが示す停止特図の内容（大当たり図柄の種別、ハズレ特図）と特図変動開始コマンドが示す特図変動パターンに基づいて、停止演出図柄を判定する停止図柄判定を行うための停止図柄パターン判定テーブルを選択する。停止図柄パターン判定テーブルは、特図および特図変動パターンに関連づけられて複数設けられている。よって、演出制御用マイコン 1 2 1 は、停止特図および特図変動パターンに対応付けられた停止図柄パターン判定テーブルを 1 つ選択する。各停止図柄パターン判定テーブルには、所定の振分率（%）となるように、複数の停止演出図柄に停止図柄パターン判定用乱数の値（停止図柄パターン判定値）が振り分けられている。次に、演出制御用マイコン 1 2 1 は、停止図柄パターン判定用乱数カウンタが示す値を停止図柄パターン判定用乱数として取得し、取得した停止図柄パターン判定用乱数に基づいて停止図柄パターン判定を行う。

【 0 3 8 2 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、停止図柄パターン判定において、選択した停止図柄パ

10

20

30

40

50

ーンテーブルに、取得した停止図柄パターン判定用乱数を照合し、停止演出図柄を決定して、決定した停止演出図柄を表すデータを演出用 R A M 1 2 4 の所定領域にセットする。例えば、特図変動パターンがリーチ無しハズレ変動であれば所謂「バラケ目」となるように演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 、および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 の組み合わせが選択される。また、特図変動パターンがリーチ有りハズレ変動であれば、左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 3 とが同一で、中演出図柄 E Z 2 がそれらと異なるように演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 、および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 の組み合わせが選択される。さらに、特図変動パターンが大当たり変動であれば、演出モードおよび大当たり図柄の種別に応じて所謂「ゾロ目」となるように演出図柄 E Z 1 ~ E Z 3 、および小図柄 K Z 1 ~ K Z 3 の組み合わせが選択される。

10

【 0 3 8 3 】

次に、演出制御用マイコン 1 2 1 は、滞在している演出モードと特図変動開始コマンドが示す特図変動パターンに基づいて、特図変動演出の演出内容である特図変動演出パターンを判定する特図変動演出パターン判定を行うための特図変動演出パターン判定テーブルを選択する。特図変動演出パターン判定テーブルは、演出モードおよび特図変動パターンに関連づけられて複数設けられている。よって、演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンに対応付けられた特図変動演出パターン判定テーブルを 1 つ選択する。各特図変動演出パターン判定テーブルには、所定の振分率(%)となるように、1 又は複数の特図変動演出パターンに特図変動演出パターン判定用乱数の値(特図変動演出パターン判定値)が振り分けられている。続いて、演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動演出パターン判定用乱数カウンタが示す値を特図変動演出パターン判定用乱数として取得し、取得した特図変動演出パターン判定用乱数に基づいて特図変動演出パターン判定を行う。

20

【 0 3 8 4 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動演出パターン判定において、選択した特図変動演出パターンテーブルに、取得した特図変動演出パターン判定用乱数を照合し、特図変動演出パターンを決定して、決定した特図変動演出パターンを表すデータを演出用 R A M 1 2 4 の所定領域にセットする。

【 0 3 8 5 】

また、演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンが L リーチまたは S P リーチ変動であれば、タイマー予告実行判定テーブルに基づいてタイマー予告実行判定を行う。前述の通り、タイマー予告実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各タイマー予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー予告の実行の可否にタイマー予告実行判定用乱数の値(タイマー予告実行判定値)が割り当てられている。

30

【 0 3 8 6 】

よって、演出制御用マイコン 1 2 1 は、まず、特図変動パターンに関連付けられたタイマー予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン 1 2 1 は、タイマー予告実行判定用乱数カウンタが示す値をタイマー予告実行判定用乱数として取得し、取得したタイマー予告実行判定用乱数に基づいてタイマー予告実行判定を行う。演出制御用マイコン 1 2 1 は、タイマー予告実行判定において、選択したタイマー予告実行判定テーブルに、取得したタイマー予告実行判定用乱数を照合し、タイマー予告の実行の可否を決定する。タイマー予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用 R A M 1 2 4 の所定領域にセットする。

40

【 0 3 8 7 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、タイマー予告実行判定でタイマー予告を実行すると判定した場合は、次に、タイマー予告態様判定テーブルに基づいて、タイマー予告態様判定を行う。前述の通り、タイマー予告態様判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各タイマー予告態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー予告態様にタイマー予告態様判定用乱数の値(タイマー予告態様判定値)が割り当てられている。

50

【 0 3 8 8 】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられたタイマー予告態様判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、タイマー予告態様判定用乱数カウンタが示す値をタイマー予告態様判定用乱数として取得し、取得したタイマー予告態様判定用乱数に基づいてタイマー予告態様判定を行う。演出制御用マイコン121は、タイマー予告態様判定において、選択したタイマー予告態様判定テーブルに、取得したタイマー予告態様判定用乱数を照合し、タイマー予告態様を決定して、決定したタイマー予告態様を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

【 0 3 8 9 】

演出制御用マイコン121は、タイマー予告態様判定を行った場合は、さらに、前述のタイマー発動予告実行判定テーブルに基づいてタイマー発動予告実行判定を行う。前述の通り、タイマー発動予告実行判定テーブルは、特図変動パターンとタイマー予告の演出態様に関連付けられている。タイマー発動予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー発動予告の実行の可否にタイマー発動予告実行判定用乱数の値（タイマー発動予告実行判定値）が割り当てられている。

10

【 0 3 9 0 】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンおよびタイマー予告の演出態様に関連付けられたタイマー発動予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、タイマー発動予告実行判定用乱数カウンタが示す値をタイマー発動予告実行判定用乱数として取得し、取得したタイマー発動予告実行判定用乱数に基づいてタイマー発動予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、タイマー発動予告実行判定において、選択したタイマー発動予告実行判定テーブルに、取得したタイマー発動予告実行判定用乱数を照合し、タイマー発動予告の実行の可否を決定する。タイマー発動予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

20

【 0 3 9 1 】

また、演出制御用マイコン121は、タイマー発動予告実行判定でタイマー発動予告を実行すると判定した場合は、続いて、前述のタイマー発動予告種別判定テーブルに基づいて、タイマー発動予告種別判定を行う。前述の通り、タイマー発動予告種別判定テーブルは、特図変動パターンとタイマー予告態様に関連付けられている。そして、各タイマー発動予告種別判定テーブルでは所定の選択率となるように、タイマー発動予告種別にタイマー発動予告種別判定用乱数の値（タイマー発動予告種別判定値）が割り当てられている。

30

【 0 3 9 2 】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンおよびタイマー予告の演出態様に関連付けられたタイマー発動予告種別判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、タイマー発動予告種別判定用乱数カウンタが示す値をタイマー発動予告種別判定用乱数として取得し、取得したタイマー発動予告種別判定用乱数に基づいてタイマー発動予告種別判定を行う。演出制御用マイコン121は、タイマー発動予告種別判定において、選択したタイマー発動予告種別判定テーブルに、取得したタイマー発動予告種別判定用乱数を照合し、タイマー発動予告種別を決定して、決定したタイマー発動予告種別を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

40

【 0 3 9 3 】

演出制御用マイコン121は、タイマー発動予告種別判定でタイマー発動予告の演出種別2、すなわちドラム予告と判定した場合は、次に、前述のドラム予告態様判定テーブルに基づいて、ドラム予告態様判定を行う。前述の通り、ドラム予告態様判定テーブルは、タイマー予告態様に関連付けられている。そして、各ドラム予告態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、ドラム予告態様にドラム予告態様判定用乱数の値（ドラム予告態様判定値）が割り当てられている。

【 0 3 9 4 】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、タイマー予告態様に関連付けられたドラ

50

ム予告態様判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、ドラム予告態様判定用乱数カウンタが示す値をドラム予告態様判定用乱数として取得し、取得したドラム予告態様判定用乱数に基づいてドラム予告態様判定を行う。演出制御用マイコン121は、ドラム予告態様判定において、選択したドラム予告態様判定テーブルに、取得したドラム予告態様判定用乱数を照合し、ドラム予告態様を決定して、決定したドラム予告態様を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

【0395】

また、演出制御用マイコン121は、特図変動パターンが、Nリーチ変動である場合、または、Lリーチ変動、またはS Pリーチ変動であって、タイマー予告を実行しない場合は、群予告実行判定テーブルに基づいて群予告実行判定を行う。前述の通り、群予告実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各群予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、群予告の実行の可否に群予告実行判定用乱数の値（群予告実行判定値）が割り当てられている。10

【0396】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた群予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、群予告実行判定用乱数カウンタが示す値を群予告実行判定用乱数として取得し、取得した群予告実行判定用乱数に基づいて群予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、群予告実行判定において、選択した群予告実行判定テーブルに、取得した群予告実行判定用乱数を照合し、群予告の実行の可否を決定する。群予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。20

【0397】

演出制御用マイコン121は、群予告実行判定で群予告を実行すると判定した場合は、次に、前述の群予告演出態様判定テーブルに基づいて、群予告演出態様判定を行う。前述の通り、群予告演出態様判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各群予告演出態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、群予告態様に群予告態様判定用乱数の値（群予告態様判定値）が割り当てられている。よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた群予告態様判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、群予告態様判定用乱数カウンタが示す値を群予告態様判定用乱数として取得し、取得した群予告態様判定用乱数に基づいて群予告態様判定を行う。演出制御用マイコン121は、群予告態様判定において、選択した群予告態様判定テーブルに、取得した群予告態様判定用乱数を照合し、群予告態様を決定して、決定した群予告態様を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。30

【0398】

演出制御用マイコン121は、群予告態様判定を行った場合は、さらに群ドラム予告実行判定テーブルに基づいて群ドラム予告実行判定を行う。前述の通り、群ドラム予告実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各群ドラム予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、群ドラム予告の実行の可否に群ドラム予告実行判定用乱数の値（群ドラム予告実行判定値）が割り当てられている。

【0399】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた群ドラム予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、群ドラム予告実行判定用乱数カウンタが示す値を群ドラム予告実行判定用乱数として取得し、取得した群ドラム予告実行判定用乱数に基づいて群ドラム予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、群ドラム予告実行判定において、選択した群ドラム予告実行判定テーブルに、取得した群ドラム予告実行判定用乱数を照合し、群ドラム予告の実行の可否を決定する。群ドラム予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。40

【0400】

また、演出制御用マイコン121は、タイマー予告、または群ドラム予告を実行しない

10

20

30

40

50

場合は、非特定ドラム予告実行判定テーブルに基づいて非特定ドラム予告実行判定を行う。前述の通り、非特定ドラム予告実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各非特定ドラム予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるようになり、非特定ドラム予告の実行の可否を含む各判定結果（実行1、実行2、実行3、および非実行）に非特定ドラム予告実行判定用乱数の値（非特定ドラム予告実行判定値）が割り当てられている。

【0401】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた非特定ドラム予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、非特定ドラム予告実行判定用乱数カウンタが示す値を非特定ドラム予告実行判定用乱数として取得し、取得した非特定ドラム予告実行判定用乱数に基づいて非特定ドラム予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、非特定ドラム予告実行判定において、選択した非特定ドラム予告実行判定テーブルに、取得した非特定ドラム予告実行判定用乱数を照合し、非特定ドラム予告の実行の可否や演出内容を決定する。非特定ドラム予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

10

【0402】

また、演出制御用マイコン121は、タイマー予告、またはドラム予告を実行しない場合は、タイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルに基づいてタイマー調整中予告ガセ実行判定を行う。前述の通り、タイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各タイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルでは、例えば、所定の選択率となるように、タイマー調整中予告ガセの実行の可否を含む各判定結果にタイマー調整中予告ガセ実行判定用乱数の値（タイマー調整中予告ガセ実行判定値）が割り当てられている。

20

【0403】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられたタイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、タイマー調整中予告ガセ実行判定用乱数カウンタが示す値をタイマー調整中予告ガセ実行判定用乱数として取得し、取得したタイマー調整中予告ガセ実行判定用乱数に基づいてタイマー調整中予告ガセ実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、タイマー調整中予告ガセ実行判定において、選択したタイマー調整中予告ガセ実行判定テーブルに、取得したタイマー調整中予告ガセ実行判定用乱数を照合し、タイマー調整中予告ガセの実行の可否や演出内容を決定する。タイマー調整中予告ガセを実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

30

【0404】

そして、演出制御用マイコン121は、当該特図変動演出開始処理における各種判定結果に基づいて、特図変動演出の演出内容を表す特図変動演出開始コマンドを演出用RAM124の出力バッファにセットする。なお、特図変動演出開始コマンドのデータ構造は限定されずに適宜に設定して良い。例えば、特図変動演出の演出内容を1つの特図変動演出開始コマンドに集約させても良い。また、特図変動演出の演出内容を複数の特図変動演出開始コマンドで構成させても良い。建夫ば、S P リーチ、L リーチ、N リーチ、タイマー予告、タイマー発動予告、群予告、およびタイマー調整中予告ガセなどの演出毎に、その演出内容を表す演出開始コマンドを生成し、まとめて、出力バッファにセットするようにしても良い。

40

【0405】

演出用RAM124の出力バッファにセットされた特図変動演出開始コマンドが、コマンド送信処理（S4004）により画像制御基板140に送信されると、画像制御基板140の画像用CPU141は、画像用ROM142から所定の演出画像を読み出して、画像表示装置50の表示部50aにて画像による特図変動演出を行う。画像用CPU141は、例えば、タイマー予告を実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、S P リーチや群予告などのタイマー予告の後に連動するように実行される演出が開始されるタ

50

タイミングから、そのタイマー予告の演出時間分、前に開始させる。さらに、画像用CPU141は、例えば、タイマー予告の前にタイマー発動予告を実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、タイマー予告の開始タイミングから、タイマー発動予告の演出時間分、前にタイマー発動予告を開始させる。また、画像用CPU141は、例えば、群予告の前にドラム予告を実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、群予告の開始タイミングから、ドラム予告の演出時間分、前にドラム予告を開始させる。さらに、画像用CPU141は、例えば、高期待度示唆図柄、またはリーチ示唆図画を停止表示させるドラム予告を実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、リーチの成立タイミングから、ドラム予告の演出時間分、前にドラム予告を開始させる。また、画像用CPU141は、例えば、ハズレ示唆図画を停止表示させるドラム予告を実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、演出図柄EZ1～EZ3の仮停止表示のタイミングから、ドラム予告の演出時間分、前にドラム予告を開始させる。さらに、画像用CPU141は、例えば、タイマー調整中予告ガセを実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、特図変動演出が開始してから、タイマー予告の実行前にタイマー調整中予告を実行させる場合のタイマー調整中予告の開始タイミングと同じまたは大体同じタイミングで、タイマー調整中予告ガセを開始させる。

【0406】

また、特図変動演出開始コマンドには、画像表示装置50で行われる画像による特図変動演出の他に、スピーカ52から出力される音声による特図変動演出、枠ランプ53で行われる発光による特図変動演出の演出内容、および、盤可動体55kで行われる動作による特図変動演出の演出内容が含まれている。

【0407】

また、演出制御用マイコン121は、画像制御基板140によって行われる画像による特図変動演出が行われている間、画像制御基板140に送信された特図変動演出開始コマンドが示す特図変動演出内容に応じて、音声制御回路161を介してスピーカ52から音声を出力させ（音声による特図変動演出を実行し）、また、サブドライブ基板162を介して枠ランプ53を発光させ（発光による特図変動演出を実行し）、盤可動体55kを作動させる（動作による特図変動演出を実行する）。

【0408】

ステップS4307において、演出制御用マイコン121は、遊技制御基板100から特図変動停止コマンドを受信したか否か、言い換えれば、特図変動停止コマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。演出制御用マイコン121は、特図変動停止コマンドを受信していなければ（S4307でNO）、ステップS4309に進む一方、特図変動停止コマンドを受信していれば（S4307でYES）、特図変動演出を終了させる（演出図柄の変動表示を停止し、停止表示を行う）ための特図変動演出終了処理（S4308）を行う。

【0409】

演出制御用マイコン121は、特図変動演出終了処理では、特図変動停止コマンドを解析し、その解析結果に基づいて、特図変動演出を適宜に終了（演出図柄EZ1～EZ3、および小図柄KZ1～KZ3の変動表示を停止）させるための特図変動演出終了コマンドを演出用RAM124の出力バッファにセットする。画像制御基板140は、特図変動演出終了コマンドを受信すると、実行中の特図変動演出を終了（変動中の演出図柄EZ1～EZ3、および小図柄KZ1～KZ3を停止）する。

【0410】

ステップS4309において、演出制御用マイコン121は、遊技制御基板100から大当たりオープニングコマンドを受信したか否か、言い換えれば、大当たりオープニングコマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。演出制御用マイコン121は、大当たりオープニングコマンドを受信していなければ（S4309でNO）、ステップS4311に進む一方、大当たりオープニングコマンドを受信していれば（S4309でYES）、大当たり遊技のオープニングの開始に伴う大当たりオープニング演出開始処理を行

10

20

30

40

50

う(S 4 3 1 0)。演出制御用マイコン 1 2 1 は、大当たりオープニング演出開始処理では、大当たりオープニングコマンドを解析して、その解析結果に基づいて、これから実行される大当たり遊技のオープニングに応じた大当たりオープニング演出を実行するか否かを判定し、実行するのであれば大当たりオープニング演出の演出内容(大当たりオープニング演出パターン)を選択し、選択した大当たりオープニング演出パターンにて大当たりオープニング演出を開始するための大当たりオープニング演出開始コマンドを演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットする。

【 0 4 1 1 】

ステップ S 4 3 1 1において、演出制御用マイコン 1 2 1 は、遊技制御基板 1 0 0 からラウンド数指定コマンドを受信したか否か、言い換えれば、ラウンド数指定コマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。ラウンド数指定コマンドを受信していないければ(S 4 3 1 1 で N O)、ステップ S 4 3 1 3 に進む一方、ラウンド数指定コマンドを受信しているれば(S 4 3 1 1 で Y E S)、ラウンド遊技の開始に伴うラウンド演出開始処理を行う(S 4 3 1 2)。演出制御用マイコン 1 2 1 は、ラウンド演出開始処理では、ラウンド数指定コマンドを解析して、これから開始されるラウンド遊技に応じたラウンド演出を実行するか否かを判定し、実行するのであればラウンド演出の演出内容(ラウンド演出パターン)を選択し、選択したラウンド演出パターンに応じたラウンド演出開始コマンドを演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットする。

【 0 4 1 2 】

ステップ S 4 3 1 3において、演出制御用マイコン 1 2 1 は、遊技制御基板 1 0 0 から大当たりエンディングコマンドを受信したか否か、言い換えれば、大当たりエンディングコマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。大当たりエンディングコマンドを受信していないければ(S 4 3 1 3 で N O)、ステップ S 4 3 1 6 に進む一方、大当たりエンディングコマンドを受信しているれば(S 4 3 1 3 で Y E S)、大当たり遊技のエンディングの開始に伴う大当たりエンディング演出開始処理(S 4 3 1 4)、および演出モード設定処理(S 4 3 1 5)を行う。

【 0 4 1 3 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、大当たりエンディング演出開始処理において、大当たりエンディングコマンドを解析して、これから実行される大当たり遊技のエンディングに応じた大当たりエンディング演出を実行するか否かを判定し、実行するのであれば大当たりエンディング演出の演出内容(大当たりエンディング演出パターン)を選択し、選択した大当たりエンディング演出パターンに応じた大当たりエンディング演出開始コマンドを演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットする。

【 0 4 1 4 】

また、演出制御用マイコン 1 2 1 は、演出モード設定処理において、大当たりエンディングコマンドの解析結果、具体的には、大当たりエンディングコマンドが示す大当たり図柄に基づいて、大当たり遊技後の演出モードを設定する処理(演出モードを制御するための処理)を行う。

【 0 4 1 5 】

例えば、演出制御用マイコン 1 2 1 は、大当たりエンディングコマンドが示す大当たり図柄が、大当たり図柄 A 、または大当たり図柄 D であると、高確率高ベース遊技状態を示唆する確変演出モードに設定する。そして、確変演出モードを示す演出モードフラグを演出用 RAM 1 2 4 の所定領域に ON すると共に、確変演出モードを設定することを示す確変演出モード開始コマンドを演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットする。演出用 RAM 1 2 4 の出力バッファにセットされた確変演出モード開始コマンドが、コマンド送信処理(S 4 0 0 4)により画像制御基板 1 4 0 に送信されると、画像制御基板 1 4 0 の画像用 CPU 1 4 1 は、エンディングが終了するタイミングで、背景画像として確変用背景画像 G 1 2 0 を表示し、 B G M として確変用 B G M を出力する。

【 0 4 1 6 】

また、演出制御用マイコン 1 2 1 は、大当たりエンディングコマンドが示す大当たり図

10

20

30

40

50

柄が、大当たり図柄B、大当たり図柄C、大当たり図柄E、または大当たり図柄Fであると、高確率高ベース遊技状態、または低確率高ベース遊技状態の何れであるか判別困難、または判別不可能な時短演出モードを設定する。そして、演出制御用マイコン121は、時短演出モードを示す演出モードフラグを演出用RAM124の所定領域にONすると共に、時短演出モードを設定することを示す時短演出モード開始コマンドを演出用RAM124の出力バッファにセットする。演出用RAM124の出力バッファにセットされた時短演出モード開始コマンドが、コマンド送信処理(S4004)により画像制御基板140に送信されると、画像制御基板140の画像用CPU141は、エンディングが終了するタイミングで、背景画像として時短用背景画像G130を表示し、BGMとして時短用BGMを出力する。

10

【0417】

ステップS4316において、演出制御用マイコン121は、遊技制御基板100から遊技状態コマンドを受信したか否か、言い換えれば、遊技状態コマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。演出制御用マイコン121は、遊技状態コマンドを受信していないければ(S4316でNO)、ステップS4318に進む一方、遊技状態コマンドを受信しているれば(S4316でYES)、遊技状態コマンドを解析して、遊技状態コマンドが表す遊技状態を特定し、遊技状態を設定するための遊技状態設定処理を行う(S4317)。

【0418】

演出制御用マイコン121は、遊技状態設定処理において、遊技状態コマンドが示す遊技状態に応じた遊技状態フラグを演出用RAM124の遊技状態フラグ領域に設定する。例えば、演出制御用マイコン121は、遊技状態コマンドが示す遊技状態が通常遊技状態であれば遊技状態フラグ「00H」を演出用RAM124の遊技状態フラグ領域に設定する。また、演出制御用マイコン121は、遊技状態コマンドが示す遊技状態が高確率高ベース遊技状態であれば遊技状態フラグ「01H」を演出用RAM124の遊技状態フラグ領域に設定する。さらに、演出制御用マイコン121は、遊技状態コマンドが示す遊技状態が低確率高ベース遊技状態であれば遊技状態フラグ「02H」を演出用RAM124の遊技状態フラグ領域に設定する。

20

【0419】

ステップS4318において、演出制御用マイコン121は、遊技制御基板100から客待ちコマンドを受信したか否か、言い換えれば、客待ちコマンドを受信バッファに格納したか否かを判定する。演出制御用マイコン121は、客待ちコマンドを受信していないれば(S4318でNO)、受信コマンド解析処理を終える一方、客待ちコマンドを受信しているれば(S4318でYES)、客待ち演出待機処理を行い(S4319)、受信コマンド解析処理を終える。

30

【0420】

演出制御用マイコン121は、客待ち演出待機処理では、演出図柄の停止表示が行われてから客待ち演出を開始させるまでの待機時間(客待ち演出待機時間:例えば、20秒)を客待ち演出タイマにセットする。なお、演出制御用マイコン121は、この待機時間が経過したか否かを判定可能であり、待機時間が経過したと判定すると、客待ち演出を開始させるための客待ち演出開始コマンドを演出用RAM124の出力バッファにセットする。

40

【0421】

以上のようにパチンコ遊技機PY1によれば、特定の段階まで進行可能な進行演出であるタイマー予告を実行することがあり、タイマー予告をその時間が「0」になるまで、すなわち、タイムアップという特定の段階まで進行させることに応じて、遊技者に有利な大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆するSPリーチやLリーチを実行することがある。ここで、タイマー予告が実行される前に、タイマー予告が実行されることを示唆するタイマー発動予告を実行することがある。そして、タイマー発動予告には、タイマー調整中予告と、ドラム予告に含まれるタイマー示唆図柄の停止表示がある。このように、「特定の段階まで進行可能な進行演出 SPリーチやLリーチ」という一連の演出が、

50

タイマー調整中予告、およびタイマー示唆図柄の停止表示といった種類の異なるタイマー発動予告を経由して実行されることがあるので、遊技の単調化を抑えつつ、遊技興趣を向上させることができる。ここで、タイマー調整中予告が実行される場合と、タイマー示唆図柄の停止表示が実行される場合とで、タイマー予告が実行される可能性が異なるので、遊技者にタイマー予告への発展に対して期待させ、また不安を抱かせることができ、さらに遊技興趣を向上させることができる。

【0422】

また、パチンコ遊技機PY1によれば、タイマー予告を示唆するタイマー発動予告の後に、段階的に進行可能なタイマー予告が実行され、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて、大当たり遊技状態になる可能性が相対的に高いことを示唆するSPリーチを実行するときと、大当たり遊技状態になる可能性が相対的に低いことを示唆するLリーチを実行するときがある。このように、タイマー発動予告 タイマー予告というように段階的に演出が発展した後に、さらにタイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて大当たり遊技状態になる可能性が異なるSPリーチおよびLリーチの何れかが実行される可能性があるので、遊技者の大当たり遊技状態に対する期待感を持続させ、遊技興趣を向上させることができる。さらに、タイマー発動予告には、タイマー調整中予告と、タイマー示唆図柄の停止表示と、があり、タイマー調整中予告が実行されたときの方が、タイマー予告がタイムアップまで進行した場合にSPリーチが実行される確率が高い。このように、タイマー予告が特定の段階まで進行したとしても、その前に実行されたタイマー発動予告の種別によって、SPリーチへの発展の期待度が異なるので、遊技の面白みが増大し、遊技興趣を向上させることができる。10

【0423】

また、パチンコ遊技機PY1によれば、タイマー予告を示唆するタイマー発動予告の後に、段階的に進行可能なタイマー予告が実行され、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて、大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆するSPリーチを実行することがある。ここで、タイマー予告には、相対的大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆する態様1（赤色+秒数「15」）と、相対的大当たり遊技状態になる可能性が低いことを示唆する態様2（青色+秒数「5」）と、がある。よって、タイマー予告において、SPリーチへの発展を期待させつつ、さらにタイマー予告に注目させて、タイマー予告の演出効果を高め、遊技興趣を向上させることができる。ここで、タイマー調整中予告が実行される場合と、タイマー示唆図柄の停止表示が実行される場合とで、タイマー予告態様1のタイマー予告が実行される可能性、さらには大当たり遊技状態になる可能性が異なるので、遊技者にタイマー予告への発展、さらには大当たり遊技状態になることに対して期待させ、また不安を抱かせることができ、さらに遊技興趣を向上させることができる。20

【0424】

また、パチンコ遊技機PY1によれば、タイマー予告を示唆するタイマー発動予告の後に、段階的に進行可能なタイマー予告が実行され、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて、大当たり遊技状態になる可能性が相対的に高いことを示唆するSPリーチを実行することがある。ここで、タイマー発動予告には、タイマー調整中予告と、ドラム予告に含まれるタイマー示唆図柄の停止表示とがある。タイマー示唆図柄は、ドラム予告において、何れかの示唆図柄が停止表示することを示唆する、すなわち、タイマー予告が実行される可能性があることを示唆するドラム予告画像G22の回転表示の後に行われる。そして、ドラム予告画像G22の回転表示を経て、タイマー示唆図柄の停止表示が行われて、それに連動するようにタイマー予告が実行するときと、ドラム予告画像G22の回転表示が行われたが、タイマー示唆図柄の停止表示およびタイマー予告が実行されないときとがある。このように、ドラム予告画像G22の回転表示の後に、タイマー示唆図柄の停止表示が行われた後に発展的にタイマー予告が実行され、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じてSPリーチが実行される場合と、ドラム予告画像G22の回転表示の後にタイマー示唆図柄の停止表示およびタイマー予告が実行されない場合があるの40

で、遊技興趣を向上させることができる。

【0425】

さらに、ドラム予告画像G22の回転表示の後に、タイマー示唆図柄の停止表示およびタイマー予告を実行しない場合、リーチ示唆図柄や群示唆図柄などの停止表示が行われて、その示唆図柄の停止表示に伴って、リーチの成立や群予告といったSPリーチとは異なる大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出が実行されることがある。そのため、演出のバリエーションが増えると共に、タイマー示唆図柄が停止表示しなかった場合にも遊技者の期待感を持続させ、遊技興趣を向上させることができる。ここで、タイマー予告後に実行可能なSPリーチの方が、リーチの成立や群予告よりも大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆しているので、ドラム予告にメリハリを効かせ、遊技興趣を向上させることができる。

10

【0426】

ここで、第1実施形態の変更例について説明する。第1実施形態では、タイマー予告の後に実行される演出として、SPリーチやLリーチが設定されているが、この他に、所謂「疑似連」や「全回転リーチ」を設定しても良い。また、SPリーチやLリーチ、あるいは疑似連や全回転リーチのように、特図変動パターンに組み込まれている、言い換えると、特図変動演出の演出フローを構成し、特図変動演出の演出時間（所謂「尺」）が割り当てられる演出ではなく、後述するカットイン予告や群予告、さらには所謂「ゾーン予告」や「ステップアップ予告」などのように、大当たり判定結果や特図変動パターンに基づいて実行されるが、特図変動演出の演出フローを構成する演出からは独立して実行され、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出をタイマー予告の後に実行される演出にしても良い。

20

【0427】

さらに、タイマー発動予告として、タイマー調整中予告とタイマー示唆図柄の停止表示を行うドラム予告が設けられているが、タイマー発動予告の演出内容はこれらに限られず適宜に変更しても良い。また、タイマー発動予告の種類も3種類以上にしても良い。この場合、タイマー発動予告の種類によって、タイマー予告が実行される確率が異なるようにすることが望ましい。

【0428】

また、第1実施形態では、タイマー調整中予告ガセが実行されるが、タイマー調整中予告ガセが設けられていなくても良い。すなわち、タイマー調整中予告画像G21が出現すると必ずタイマー調整中予告が実行されるようにしても良い。

30

【0429】

また、ドラム予告で、タイマー示唆図柄の停止表示が行われると、タイマー予告が実行されるが、タイマー調整中予告が実行されるようにしても良い。さらに、ドラム予告に含まれる示唆図柄の種類も適宜に設定しても良い。また、ドラム予告の演出態様をルーレットのような演出構成に変更しても良い。また、ドラム予告は、ドラム予告画像G22の回転が行われた後に示唆図柄の停止表示が行われるが、ドラム予告の演出内容はこれに限られず適宜に設定しても良い。すなわち、例えば、中演出図柄EZ2に複数の示唆図柄を含ませて、奥側から手前側に向けて回転しながら示唆図柄が次々に入れ替わり、何れの示唆図柄が停止表示されるのかを煽る演出を行った後に何れかの示唆図柄を正面で停止表示するようにしても良い。この煽る演出は、ドラム予告画像G22の回転に対応するものであり、タイマー予告が実行される可能性があることを示唆している。

40

【0430】

さらに、タイマー予告の実行の可否、タイマー予告態様、タイマー発動予告の実行の可否、およびタイマー発動予告種別を、先読み判定結果が含まれる始動入賞コマンドに基いて決定し、タイマー予告が実行される特図変動演出よりも前の特図変動演出からタイマー発動予告を実行できるようにしても良い。

【0431】

<第2実施形態>

50

次に、前述の本発明に係る基本的な実施形態に基づいて、本発明の特徴的な構成を表す第2実施形態について説明する。

【0432】

前述のように、特図変動演出においてS P リーチやL リーチ、さらには保留アイコン変化予告といった、遊技者に大当たりを期待させることができる、すなわち、大当たりになる可能性があることを示唆する演出が行われる。パチンコ遊技機PY1では、S P リーチやL リーチ以外にも大当たりになる可能性があることを示唆する演出が実行可能である。具体的には、保留アイコン変化予告、変動アイコン変化予告、カットイン予告、群予告、およびタイマー予告が実行可能である。以下に、各演出について説明する。なお、第2実施形態の群予告は、第1実施形態の群予告と同一であるので、単独の説明を省略する。

10

【0433】

最初に、保留アイコン変化予告について説明する。保留アイコン変化予告は、前述の基本的な実施形態で説明したとおり、保留アイコンを特別態様で表示させる演出であり、大当たり期待度を示唆する。すなわち、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する。保留アイコンが特別態様で表示されると、通常態様で表示されるよりも大当たり期待度が高い。

【0434】

保留アイコン変化予告を実行するか否かは保留アイコン変化予告実行判定によって決定される。保留アイコン変化予告実行判定は、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、例えば、始動入賞コマンドに含まれる特図変動パターン情報が示す特図変動パターンに関連付けられた保留アイコン変化予告実行判定テーブルに基づいて保留アイコン変化予告実行判定を行う。図56(A)に示すように、各保留アイコン変化予告実行判定テーブルは、保留アイコン変化予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

20

【0435】

図56(A)に示すように、特図変動パターン情報が示す特図変動パターンが大当たり変動の場合は、L リーチ変動よりもS P リーチ変動のときの方が、「保留アイコン変化予告を実行する」と判定する可能性が高い。また、特図変動パターン情報が示す特図変動パターンがハズレ変動の場合は、S P ハズレ変動 > L リーチ変動 > N ハズレ変動 > 通常ハズレ変動の順番で、「保留アイコン変化予告を実行する」と判定する可能性が高い。さらに、同一のリーチ種別に対しては、ハズレよりも大当たりのときの方が、「保留アイコン変化予告を実行する」と判定する可能性が高い。

30

【0436】

また、保留アイコン変化予告の演出態様である保留アイコン変化予告態様、すなわち保留アイコン変化予告に係る特別態様は複数設定されている。特別態様には、特別態様1～特別態様4がある。特別態様は保留アイコンに関連付けられている。特別態様1の保留アイコンは青色の円形で構成され、特別態様2の保留アイコンは緑色の円形で構成され、特別態様3の保留アイコンは赤色の円形で構成され、特別態様4の保留アイコンは金色の円形で構成されている。

40

【0437】

保留アイコン変化予告に係る特別態様を何れにするか否かは保留アイコン変化予告態様判定によって決定される。保留アイコン変化予告態様判定は、保留アイコン変化予告判定で保留アイコン変化予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、始動入賞コマンドに含まれる特図変動パターン情報が示す特図変動パターンに関連付けられた保留アイコン変化予告態様判定テーブルに基づいて、保留アイコン変化予告態様判定を行う。図56(B)に示すように、各保留アイコン変化予告態様判定テーブルは、複数の特別態様のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【0438】

図56(B)に示すように、特別態様4 > 特別態様3 > 特別態様2 > 特別態様1の順序

50

で大当たり当選およびS P リーチの実行に対する期待度が高い。なお、特別態様4はS P リーチの実行を示唆する。さらに、特別態様3～特別態様4は、S P リーチまたはL リーチの実行を示唆する。

【0439】

次に、変動アイコン変化予告について説明する。変動アイコン変化予告は、変動アイコンを何れかの特別態様に変化させる演出であり、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する。変動アイコンが何れかの特別態様に変化すると、変化しない場合よりも大当たり期待度が高い。すなわち、変動アイコンが何れかの特別態様に変化して変動アイコン変化予告が実行されると、大当たりに対するチャンスアップとなる。

【0440】

前述の基本的な実施形態で説明した通り、保留アイコンは、当該保留アイコンに係る特図保留が開始してもそのまま継続的に表示され続けて変動アイコンとなる。そして、前述の通り、保留アイコン変化予告が実行される場合と実行されない場合がある。すなわち、保留アイコンが通常態様のまま特図変動演出の開始を迎えて変動アイコンが通常態様で表示される場合と、保留アイコンが特別態様になって特図変動演出の開始を迎えて変動アイコンが特別態様で表示される場合と、がある。ここで、変動アイコン変化予告には、前者の場合に、特図変動演出の開始時に通常態様の変動アイコンがその後に何れかの特別態様に変化する変動アイコン変化予告と、後者の場合に、特図変動演出の開始時に特別態様の変動アイコンがその後に別の特別態様に変化する変動アイコン変化予告と、がある。

【0441】

変動アイコン変化予告を実行するか否かは変動アイコン変化予告実行判定によって決定される。変動アイコン変化予告実行判定は、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、例えば、特図変動パターン、ならびに変動アイコンの当該特図可変表示の開始時の表示態様（通常態様、特別態様1～特別態様4）、すなわち変動アイコンに対応する保留アイコンに係る保留アイコン変化予告実行判定および保留アイコン変化予告態様判定結果に関連付けられた変動アイコン変化予告実行判定テーブルに基づいて変動アイコン変化予告実行判定を行う。図57(A)に示すように、各変動アイコン変化予告実行判定テーブルは、変動アイコン変化予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【0442】

図57(A)に示すように、同一の大当たり判定結果に対して、L リーチ変動よりもS P リーチ変動のときの方が、「変動アイコン変化予告を実行する」と判定する可能性が高い。また、同一のリーチ種別に対して、ハズレよりも大当たりのときの方が、「変動アイコン変化予告を実行する」と判定する可能性が高い。

【0443】

なお、特図変動パターンと変動アイコンの当該特図可変表示の開始時の表示態様（通常態様、特別態様1～特別態様4）との組み合わせが特定の組み合わせの場合に実行される。すなわち、非特定の組み合わせの場合は変動アイコン変化予告実行判定が実行されない。非特定の組み合わせは、図57において「-」で図示された組み合わせである。

【0444】

また、変動アイコン変化予告に係る特別態様、すなわち変動アイコンが変動アイコン変化予告を経て変化可能な特別態様は複数設定されている。特別態様には、特別態様1～特別態様5がある。特別態様1～特別態様4は前述の保留アイコンの特別態様1～特別態様4と同じであり、特別態様5の変動アイコンは、野球のボールで構成されており、保留アイコンの特別態様にはない特殊な特別態様となっている。

【0445】

変動アイコン変化予告に係る特別態様を何れにするか否かは変動アイコン変化予告態様判定によって決定される。変動アイコン変化予告態様判定は、変動アイコン変化予告判定で変動アイコン変化予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターン、ならびに変動アイコン

10

20

30

40

50

の当該特図可変表示の開始時の表示態様（通常態様、特別態様1～特別態様4）、すなわち変動アイコンに対応する保留アイコンに係る保留アイコン変化予告実行判定および保留アイコン変化予告態様判定結果に関連付けられた変動アイコン変化予告態様判定テーブルに基づいて、変動アイコン変化予告態様判定を行う。図57（B）に示すように、各変動アイコン変化予告態様判定テーブルは、複数の特別態様のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

【0446】

図57（B）に示すように、特別態様5>特別態様4>特別態様3>特別態様2>特別態様1の順序で大当たり当選およびS Pリーチの実行に対する期待度が高い。なお、特別態様5は大当たり当選を示唆する。また、特別態様4はS Pリーチの実行を示唆する。さらに、特別態様3～特別態様5は、S PリーチまたはLリーチの実行を示唆する。

10

【0447】

次に、カットイン予告について説明する。カットイン予告は、Lリーチ、またはS Pリーチの所定タイミングにて、表示部50aの全体に、LリーチやS Pリーチに係る映像とは異なるカットイン予告画像が突然、Lリーチ用背景画像G114やS Pリーチ用背景画像G115に重畠的に一瞬表示される演出であり、大当たり状態になる可能性があることを示唆する。カットイン予告が実行されると、カットイン予告が実行されない場合よりも大当たり期待度が高い。すなわち、カットイン予告が実行されることが自体が、大当たりに対するチャンスアップとなる。

【0448】

カットイン予告を実行するか否かはカットイン予告実行判定によって決定される。カットイン予告実行判定は、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、例えば、特図変動パターンに関連付けられているカットイン予告実行判定テーブルに基づいてカットイン予告実行判定を行う。図58（A）に示すように、各カットイン予告実行判定テーブルは、カットイン予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

20

【0449】

図58（A）に示すように、同一の大当たり判定結果に対して、Lリーチ変動よりもS Pリーチ変動のときの方が、「カットイン予告を実行する」と判定する可能性が高い。また、同一のリーチ種別に対して、ハズレよりも大当たりのときの方が、「カットイン予告を実行する」と判定する可能性が高い。

30

【0450】

また、カットイン予告の演出態様であるカットイン予告態様は複数設定されている。具体的には、カットイン予告態様として、カットイン予告態様1～カットイン予告態様4がある。カットイン予告態様は、カットイン予告画像に関連付けられている。具体的には、カットイン予告態様は、カットイン予告画像に含まれるキャラクタの種類に関連付けられている。カットイン予告態様1は弱敵キャラクタで構成され、カットイン予告態様2は通常キャラクタで構成され、カットイン予告態様3は強敵キャラクタで構成され、カットイン予告態様4はレアキャラクタで構成されている。

【0451】

カットイン予告態様を何れにするか否かはカットイン予告態様判定によって決定される。カットイン予告態様判定は、カットイン予告判定でカットイン予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン121によって行われる。演出制御用マイコン121は、特図変動パターンに関連付けられたカットイン予告態様判定テーブルに基づいて、カットイン予告態様判定を行う。図58（B）に示すように、各カットイン予告態様判定テーブルは、複数のカットイン予告態様のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。

40

【0452】

図58（B）に示すように、カットイン予告態様4>カットイン予告態様3>カットイン予告態様2>カットイン予告態様1の順序で大当たりに対する期待度が高い。

50

【 0 4 5 3 】

次に、タイマー予告について説明する。第2実施形態のタイマー予告は、第1実施形態のタイマー予告と異なる。タイマー予告は、群予告、カットイン予告、または変動アイコン変化予告の実行前に実行可能な演出である。すなわち、タイマー予告は、群予告、カットイン予告、または変動アイコン変化予告が実行される可能性があることを示唆する演出である。よって、結果的には、タイマー予告が実行されると、遊技者に大当たりを期待させることができる。群予告、カットイン予告、および変動アイコン変化予告がハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも実行可能であり、タイマー予告も同様にハズレの場合だけでなく大当たりの場合にも実行可能であるからである。

【 0 4 5 4 】

詳細は後述するが、タイマー予告は、表示部50aにおいて、タイマーを表すタイマー予告画像が表示されることによって行われる。タイマー予告画像には時間、具体的には秒数を表す数字が表示される。そして、時間の経過に伴ってその時間が減少していく、タイマー予告画像に表示される時間が「0」になると、群予告、カットイン予告、または変動アイコン変化予告が実行される。よって、タイマー予告は、時間が「0」、すなわちタイムアップという特定の段階まで進行可能な演出とういことができる。また、最初に表示される数字は、タイマー予告が進行可能な長さを表している。これらの点については、第2実施形態のタイマー予告は第1実施形態のタイマー予告と共通している。そして、タイマー予告の終了に応じて群予告、カットイン予告、または変動アイコン変化予告が実行されることがある。すなわち、群予告、カットイン予告、または変動アイコン変化予告は、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて実行されることがある。

10

【 0 4 5 5 】

タイマー予告を実行するか否かはタイマー予告実行判定によって決定される。タイマー予告実行判定は、群予告に対するタイマー予告実行判定（以下、「Gタイマー予告実行判定」という）と、カットイン予告に対するタイマー予告実行判定（以下、「Cタイマー予告実行判定」という）と、変動アイコン変化予告に対するタイマー予告実行判定（以下、「Hタイマー予告実行判定」という）と、に分かれる。各タイマー予告実行判定は、演出制御用マイコン121によって行われる。

20

【 0 4 5 6 】

演出制御用マイコン121は、群予告判定で群予告を実行すると判定していれば、群予告演出態様判定の判定結果、すなわち実行される群予告の演出態様に関連付けられたGタイマー予告実行判定テーブルに基づいてGタイマー予告実行判定を行う。図59（A）に示すように、各Gタイマー予告実行判定テーブルは、タイマー予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図59（A）に示すように、群予告態様3>群予告態様2>群予告態様1の順序で「タイマー予告を実行する」と判定する確率が高い。

30

【 0 4 5 7 】

また、演出制御用マイコン121は、カットイン予告判定でカットイン予告を実行すると判定していれば、カットイン予告演出態様判定の判定結果、すなわち実行されるカットイン予告の演出態様に関連付けられたCタイマー予告実行判定テーブルに基づいてCタイマー予告実行判定を行う。図59（B）に示すように、各Cタイマー予告実行判定テーブルは、タイマー予告の実行と不実行のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図59（B）に示すように、カットイン予告態様4>カットイン予告態様3>カットイン予告態様2>カットイン予告態様1の順序で「タイマー予告を実行する」と判定する確率が高い。

40

【 0 4 5 8 】

さらに、演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告判定で変動アイコン変化予告を実行すると判定していれば、変動アイコン変化予告に係る特別態様の種類に関連付けられたHタイマー予告実行判定テーブルに基づいてHタイマー予告実行判定を行う。図59（C）に示すように、各Hタイマー予告実行判定テーブルは、タイマー予告の実行と

50

不実行のそれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 5 9 (C) に示すように、特別態様 5 > 特別態様 4 > 特別態様 3 > 特別態様 2 > 特別態様 1 の順序で「タイマー予告を実行する」と判定する確率が高い。

【 0 4 5 9 】

ところで、タイマー予告の演出種別であるタイマー予告種別として、第 1 タイマー予告と、第 2 タイマー予告とが設定されている。タイマー予告種別は、タイマー予告画像の大きさと表示位置に関連付けられている。第 1 タイマー予告と第 2 タイマー予告とで、タイマー予告画像のデザインは同一であるが、第 1 タイマー予告の方が、第 2 タイマー予告よりも大きい。以下において、第 1 タイマー予告に係るタイマー予告画像を「第 1 タイマー予告が画像」と称し、第 2 タイマー予告に係るタイマー予告画像を「第 2 タイマー予告画像」と称する場合がある。

10

【 0 4 6 0 】

また、第 1 タイマー予告では第 1 タイマー予告画像が表示部 5 0 a の左側の下端部より上側に表示されるのに対して、第 2 タイマー予告では第 2 タイマー予告画像が表示部 5 0 a の下端部で変動表示領域 5 0 e の左隣りに表示される。さらに、第 2 タイマー予告よりも第 1 タイマー予告の方が、タイマー予告画像に最初に表示される数字が全体的に大きくなり易い。すなわち、第 1 タイマー予告の方が第 2 タイマー予告よりも演出時間が長くなり易い。なお、変動アイコン変化予告に対するタイマー予告では、第 1 タイマー予告または第 2 タイマー予告の何れか一方が実行される。しかし、群予告およびカットイン予告に対するタイマー予告では、第 1 タイマー予告のみが実行される。

20

【 0 4 6 1 】

変動アイコン変化予告に対するタイマー予告について、タイマー予告種別を何れにするか否かはタイマー予告種別判定によって決定される。タイマー予告種別判定は、H タイマー予告判定でタイマー予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は、変動アイコン変化予告に係る特別態様の種類に関連付けられたタイマー予告種別判定テーブルに基づいてタイマー予告種別判定を行う。図 5 9 (D) に示すように、各タイマー予告種別判定テーブルは、複数のタイマー予告種別のそれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 5 9 (D) に示すように、特別態様 5 > 特別態様 4 > 特別態様 3 > 特別態様 2 > 特別態様 1 の順序で「第 2 タイマー予告の実行」の選択率が高い。よって、第 2 タイマー予告が実行された方が、大当たり期待度の高い変動アイコン変化予告が実行され易いということになる。

30

【 0 4 6 2 】

また、第 1 タイマー予告、および第 2 タイマー予告のそれぞれには複数の演出時間が設定されている。第 1 タイマー予告の演出時間には、演出時間 1 (3 0 秒) と、演出時間 2 (1 5 秒) と、演出時間 3 (1 0 秒) と、演出時間 4 (5 秒) が設定されている。第 2 タイマー予告の演出時間には、演出時間 3 (1 0 秒) と、演出時間 4 (5 秒) と、演出時間 5 (3 秒) が設定されている。

【 0 4 6 3 】

タイマー予告の演出時間を何れにするか否かはタイマー予告演出時間判定によって決定される。タイマー予告演出時間判定は、群予告に対する第 1 タイマー予告のタイマー予告演出時間判定 (以下、「 G タイマー予告演出時間判定」という) と、カットイン予告に対する第 1 タイマー予告のタイマー予告演出時間判定 (以下、「 C タイマー予告演出時間判定」という) と、変動アイコン変化予告に対する第 1 タイマー予告のタイマー予告演出時間判定 (以下、「 H 1 タイマー予告演出時間判定」という) と、変動アイコン変化予告に対する第 2 タイマー予告のタイマー予告演出時間判定 (以下、「 H 2 タイマー予告演出時間判定」という) と、に分かれている。

40

【 0 4 6 4 】

G タイマー予告演出時間判定は、G タイマー予告判定でタイマー予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンに関連付けられた G タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて

50

G タイマー予告演出時間判定を行う。図 6 0 (A) に示すように、各 G タイマー予告演出時間判定テーブルは、複数のタイマー予告の演出時間のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 6 0 (A) に示すように、演出時間 2 > 演出時間 3 > 演出時間 4 の順序で大当たり期待度が高い。すなわち、第 1 タイマー予告の演出時間が長くなるにつれて大当たり期待度が高くなる。また、演出時間 2 > 演出時間 3 > 演出時間 4 の順序で、大当たり期待度の高い演出態様の群予告が実行される可能性が高くなる。すなわち、第 1 タイマー予告の演出時間が長くなるにつれて大当たり期待度が高い群予告が実行され易くなる。

【 0 4 6 5 】

C タイマー予告演出時間判定は、C タイマー予告判定でタイマー予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は、特図変動パターンに関連付けられた C タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて C タイマー予告演出時間判定を行う。図 6 0 (B) に示すように、各 C タイマー予告演出時間判定テーブルは、複数のタイマー予告の演出時間のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 6 0 (B) に示すように、演出時間 1 > 演出時間 2 > 演出時間 3 > 演出時間 4 の順序で大当たり期待度が高い。すなわち、第 1 タイマー予告の演出時間が長くなるにつれて大当たり期待度が高くなる。また、演出時間 1 > 演出時間 2 > 演出時間 3 > 演出時間 4 の順序で、大当たり期待度の高い演出態様のカットイン予告が実行される可能性が高くなる。すなわち、第 1 タイマー予告の演出時間が長くなるにつれて大当たり期待度が高い群予告が実行され易くなる。

【 0 4 6 6 】

また、H 1 タイマー予告演出時間判定は、タイマー予告種別判定で第 1 タイマー予告を実行すると判定された場合に演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は変動アイコン変化予告に係る特別態様の種類に関連付けられた H 1 タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて H 1 タイマー予告演出時間判定を行う。図 6 1 (A) に示すように、各 H 1 タイマー予告演出時間判定テーブルは、複数のタイマー予告の演出時間のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 6 1 (A) に示すように、演出時間 2 > 演出時間 3 > 演出時間 4 の順序で、大当たり期待度の高い変動アイコン変化予告が実行され易い。すなわち、変動アイコンは、第 1 タイマー予告の演出時間が長くなるにつれて、大当たり期待度の高い表示態様に変化し易くなる。

【 0 4 6 7 】

さらに、H 2 タイマー予告演出時間判定は、タイマー予告種別判定で第 2 タイマー予告を実行すると判定された場合に、演出制御用マイコン 1 2 1 によって行われる。演出制御用マイコン 1 2 1 は変動アイコン変化予告に係る特別態様の種類に関連付けられた H 2 タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて H 2 タイマー予告演出時間判定を行う。図 6 1 (B) に示すように、各 H 2 タイマー予告演出時間判定テーブルは、複数のタイマー予告の演出時間のそれぞれが所定の確率で選択されるように構成されている。図 6 1 (B) に示すように、演出時間 3 > 演出時間 4 > 演出時間 5 の順序で、大当たり期待度の高い変動アイコン変化予告が実行され易い。すなわち、変動アイコンは、第 2 タイマー予告の演出時間が長くなるにつれて、大当たり期待度の高い表示態様に変化し易くなる。

【 0 4 6 8 】

次に、第 1 タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じて変動アイコン変化予告、群予告、カットイン予告が実行される具体例や、第 2 タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じて変動アイコン変化予告が実行される具体例について説明する。なお、以下に説明する具体例は一例であるので、各種演出の演出内容は以下に説明する具体例に限られず適宜に設定可能である。最初に、表示部 5 0 a において、第 1 タイマー予告、および第 2 タイマー予告が実行される領域について説明する。

【 0 4 6 9 】

図 6 2 に示すように、第 1 タイマー予告を実行することが可能な第 1 タイマー予告領域 5 0 f は、表示部 5 0 a の下端部より上側であって、表示部 5 0 a を左右方向に大体均等

10

20

30

40

50

に3分割したうちの左側に形成されている。また、第2タイマー予告を実行することが可能な第2タイマー予告領域50gは、当該変動表示領域50eの左隣に形成されている。なお、第2タイマー予告領域50gは、ほとんど小図柄領域50c(図示なし)と重複しているが、後述するように、小図柄KZ1～KZ3は第2タイマー予告に係る第2タイマー予告画像G60よりも優先的に表示される。具体的には、第2タイマー予告画像G60の上に重なって小図柄KZ1～KZ3が表示される。ただし、前述したように、小図柄KZ1～KZ3が高速で変動表示されている間は、小図柄KZ1～KZ3は、その背景側の画像が視認容易な透明性を持って表示されているので、第2タイマー予告画像G60は遊技者から視認可能である。

【0470】

次に、第1タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じて変動アイコン変化予告が実行される具体例について説明する。例えば、図63(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われ、通常態様の保留アイコンHA1～保留アイコンHA3が不図示の第1領域50d1～第3領域50d3に表示されているとする。ここで、新たな特図1可変表示が開始すると、それに伴って、図63(B)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始すると共に、保留アイコンHA1～保留アイコンHA3がそれぞれシフトする。ここで、保留順1の特図1保留を表示していた保留アイコンHA1は、変動アイコンHA1となる。

【0471】

それから所定時間(例えば、5秒)が経過すると、図63(C)に示すように、表示部50aの第1タイマー予告領域50fにおいて、第1タイマー予告画像G30が出現し、続いて、図63(D)に示すように、第1タイマー予告画像G30における上下で一対のシャッターが開いて数字、すなわちタイマー予告が進行可能な長さを表す残り時間が出現し、第1タイマー予告が本格的に開始する。この数字はH1タイマー予告演出時間判定で決定された演出時間となる。

【0472】

第1タイマー予告では、第1実施形態の場合と同様に、時間の経過に応じて、第1タイマー予告画像G30の数字部分が減少していく。そして、図64(A)に示すように、第1タイマー予告画像G30の数字が「0」になり、すなわちタイムアップになると第1タイマー予告が終了する。そして、このタイムアップに応じて、図64(B)に示すように、第1タイマー予告画像G30が消去されると共に、閃光を表す閃光画像G40が変動アイコンHA1の真上から変動アイコンHA1に向かって急降下して変動アイコンHA1に突き刺さる。そうすると、図64(C)に示すように、変動アイコンHA1が、前述の変動アイコン変化予告態様判定で決定された特別態様に変化する変動アイコン変化予告が行われる。

【0473】

次に、第1タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じて群予告が実行される具体例について説明する。例えば、図65(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始してから、所定時間(例えば、5秒)が経過すると、図65(B)に示すように、表示部50aの第1タイマー予告領域50fにおいて、第1タイマー予告画像G30が出現し、続いて、図65(C)に示すように、第1タイマー予告画像G30における上下で一対のシャッターが開いて数字、すなわちタイマー予告が進行可能な長さを表す残り時間が出現し、第1タイマー予告が本格的に開始する。

【0474】

その後、図65(D)に示すように、時間の経過に応じて、第1タイマー予告画像G30の数字部分が減少していっている中で、リーチが成立したとする。そして、図66(A)に示すように、第1タイマー予告画像G30の数字が「0」になり、第1タイマー予告が終了すると、第1タイマー予告画像G30が消えて、例えば、図66(B)～図66(C)に示すように群予告画像G23が表示される群予告が実行される。

【0475】

10

20

30

40

50

次に、第1タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じてカットイン予告が実行される具体例について説明する。例えば、図67(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始してから、所定時間(例えば、5秒)が経過すると、図67(B)に示すように、表示部50aの第1タイマー予告領域50fにおいて、第1タイマー予告画像G30が出現し、続いて、図67(C)に示すように、第1タイマー予告画像G30における上下で一対のシャッターが開いて数字、すなわちタイマー予告が進行可能な長さを表す残り時間が出現し、第1タイマー予告が本格的に開始する。

【0476】

その後、図67(D)に示すように、時間の経過に応じて、特図変動演出が進行しながら第1タイマー予告画像G30の数字部分が減少していっている中で、リーチが成立したとする。そして、さらに特図変動演出が進行して図68(A)に示すように、SPリーチに突入し、その後、SPリーチが進行していく中で、図68(B)に示すように、第1タイマー予告画像G30の数字が「0」になり、第1タイマー予告が終了すると、第1タイマー予告画像G30が消えて、例えば、図68(C)～図68(D)に示すように、表示部50aにおいて、カットイン画像G50がSPリーチ用背景画像G115に割り込むように一瞬表示されるカットイン予告が実行される。なお、ここでは、カットイン予告態様4のカットイン予告が実行されている。

10

【0477】

また、第1タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じてカットイン予告が実行される別の具体例について説明する。例えば、図69(A)に示すように、リーチが成立した後に、図69(B)に示すように、表示部50aの第1タイマー予告領域50fにおいて、第1タイマー予告画像G30が出現し、続いて、図69(C)に示すように、第1タイマー予告画像G30における上下で一対のシャッターが開いて数字が出現し、第1タイマー予告が本格的に開始する。

20

【0478】

その後、図69(D)に示すように、時間の経過に応じて、特図変動演出が進行しながら第1タイマー予告画像G30の数字部分が減少していっている中で、SPリーチに突入したとする。その後、SPリーチが進行していく中で、図70(A)に示すように、第1タイマー予告画像G30の数字が「0」になり、第1タイマー予告が終了すると、第1タイマー予告画像G30が消えて、例えば、図70(B)～図70(C)に示すように、表示部50aにおいて、カットイン画像G50がSPリーチ用背景画像G115に割り込むように一瞬表示されるカットイン予告が実行される。なお、ここでは、カットイン予告態様1のカットイン予告が実行されている。

30

【0479】

次に、第2タイマー予告がタイムアップまで進行したことに応じて変動アイコン変化予告が実行される具体例について説明する。第1タイマー予告の場合と同様に、例えば、図71(A)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の停止表示が行われ、通常態様の保留アイコンHA1～保留アイコンHA3が不図示の第1領域50d1～第3領域50d3に表示されているとする。ここで、新たな特図1可変表示が開始すると、それに伴って、図71(B)に示すように、演出図柄EZ1～EZ3の変動表示が開始すると共に、保留アイコンHA1～保留アイコンHA3がそれぞれシフトする。

40

【0480】

それから所定時間(例えば、5秒)が経過すると、図71(C)に示すように、表示部50aの第2タイマー予告領域50gにおいて、第2タイマー予告画像G50が出現し、続いて図71(D)に示すように、第2タイマー予告画像G50における上下で一対のシャッターが開いて数字が出現し、第2タイマー予告が本格的に開始する。なお、ここでは、第2タイマー予告画像G50は、正面視で小図柄KZ1～KZ3に重なって表示されている。ただし、小図柄KZ1～KZ3が第2タイマー予告画像G60に重畠的に優先して表示されている。また、第1タイマー予告の場合と同様に、最初に第2タイマー予告画像G50に現れた数字はH2タイマー予告演出時間判定で決定された演出時間となる。

50

【 0 4 8 1 】

第2タイマー予告でも、第1タイマー予告と同様に、時間の経過に応じて、第2タイマー予告画像G60の数字部分が減少していく。そして、図72(A)に示すように、第2タイマー予告画像G50の数字が「0」になり、第2タイマー予告が終了すると、図72(B)に示すように、第2タイマー予告画像G50が消去されると共に、閃光画像G40が変動アイコンHA1の真上から変動アイコンHA1に向かって急降下して変動アイコンHA1に突き刺さる。そうすると、図72(C)に示すように、変動アイコンHA1が、前述の変動アイコン変化予告態様判定で決定された特別態様に変化する変動アイコン変化予告が行われる。

【 0 4 8 2 】

10

[受信コマンド解析処理]

演出制御用マイコン121は、ステップS4201の受信コマンド解析処理において、ステップS4302の始動入賞時処理、およびステップS4306の特図変動演出開始処理以外の処理については第1実施形態と同じような制御を行う。以下において、第2実施形態における始動入賞時処理、および特図変動演出開始処理について説明する。最初に始動入賞時処理について説明する。

【 0 4 8 3 】

演出制御用マイコン121は、ステップS4302において、まずは受信した始動入賞コマンドを演出用RAM124にある始動入賞コマンド保留記憶部125に記憶する。次に、演出制御用マイコン121は、その記憶した始動入賞コマンドを解析して、保留アイコン変化予告実行判定テーブルに基づいて保留アイコン変化予告実行判定を行う。前述の通り、保留アイコン変化予告実行判定テーブルは、始動入賞コマンドに含まれる特図変動パターン情報が示す特図変動パターンに関連付けられている。そして、各保留アイコン変化予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、保留アイコン変化予告の実行の可否に保留アイコン変化予告実行判定用乱数の値(保留アイコン変化予告実行判定値)が割り当てられている。

20

【 0 4 8 4 】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた保留アイコン変化予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、保留アイコン変化予告実行判定用乱数カウンタが示す値を保留アイコン変化予告実行判定用乱数として取得し、取得した保留アイコン変化予告実行判定用乱数に基づいて保留アイコン変化予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、保留アイコン変化予告実行判定において、選択した保留アイコン変化予告実行判定テーブルに、取得した保留アイコン変化予告実行判定用乱数を照合し、保留アイコン変化予告の実行の可否を決定する。保留アイコン変化予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。なお、ここで、保留アイコン変化予告を実行しないと判定した場合は、通常態様で保留アイコンを表示することを表す先読み演出開始コマンドを演出用RAM124の出力バッファにセットする。

30

【 0 4 8 5 】

演出制御用マイコン121は、保留アイコン変化予告実行判定で保留アイコン変化予告を実行すると判定した場合は、次に、前述の保留アイコン変化予告態様判定テーブルに基づいて、保留アイコン変化予告態様判定を行う。前述の通り、保留アイコン変化予告態様判定テーブルは、始動入賞コマンドに含まれる特図変動パターン情報が示す特図変動パターンに関連付けられている。そして、各保留アイコン変化予告態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、保留アイコン変化予告態様である特別態様に保留アイコン変化予告態様判定用乱数の値(保留アイコン変化予告態様判定値)が割り当てられている。

40

【 0 4 8 6 】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた保留アイコン変化予告態様判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、保留アイコン変化予告態様判定用乱数カウンタが示す値を保留アイコン変化予告態様判定用

50

乱数として取得し、取得した保留アイコン変化予告態様判定用乱数に基づいて保留アイコン変化予告態様判定を行う。演出制御用マイコン121は、保留アイコン変化予告態様判定において、選択した保留アイコン変化予告態様判定テーブルに、取得した保留アイコン変化予告演出態様用乱数を照合し、保留アイコン変化予告態様を決定して、決定した保留アイコン変化予告態様を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットすると共に、決定した保留アイコン変化予告態様を表す先読み演出開始コマンドを演出用RAM124の出力バッファにセットする。

【0487】

演出用RAM124の出力バッファにセットされた先読み演出開始コマンドが、コマンド送信処理(S4004)により画像制御基板140に送信されると、画像制御基板140の画像用CPU141は、画像用ROM142から所定の演出画像を読み出して、画像表示装置50の表示部50aに、先読み演出開始コマンドが示す表示態様の保留アイコンを保留順に応じた位置に表示する。10

【0488】

次に、ステップS4306の特図変動演出開始処理について説明する。演出制御用マイコン121は、特図変動演出開始処理において、第1実施形態の場合と同様に、停止図柄パターンおよび特図変動演出パターンを決定する。

【0489】

また、演出制御用マイコン121は、特図変動パターンと特図変動演出の開始時の変動アイコンの表示態様との組み合わせが特定の組み合わせの場合、変動アイコン変化予告実行判定テーブルに基づいて変動アイコン変化予告実行判定を行う。前述の通り、変動アイコン変化予告実行判定テーブルは、特図変動パターン、ならびに特図変動演出の開始時の変動アイコンの表示態様、すなわち、当該変動アイコンに対応する保留アイコンに係る保留アイコン変化予告実行判定および保留アイコン変化予告態様判定の結果に関連付けられている。そして、各変動アイコン変化予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、変動アイコン変化予告の実行の可否に変動アイコン変化予告実行判定用乱数の値(変動アイコン変化予告実行判定値)が割り当てられている。20

【0490】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターン、および特図変動演出の開始時の変動アイコンの表示態様に関連付けられた変動アイコン変化予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告実行判定用乱数カウンタが示す値を変動アイコン変化予告実行判定用乱数として取得し、取得した変動アイコン変化予告実行判定用乱数に基づいて変動アイコン変化予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告実行判定において、選択した変動アイコン変化予告実行判定テーブルに、取得した変動アイコン変化予告実行判定用乱数を照合し、変動アイコン変化予告の実行の可否を決定する。変動アイコン変化予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。30

【0491】

演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告実行判定で変動アイコン変化予告を実行すると判定した場合は、次に、前述の変動アイコン変化予告態様判定テーブルに基づいて、変動アイコン変化予告態様判定を行う。前述の通り、変動アイコン変化予告態様判定テーブルは、特図変動パターン、ならびに特図変動演出の開始時の変動アイコンの表示態様、すなわち、当該変動アイコンに対応する保留アイコンに係る保留アイコン変化予告実行判定および保留アイコン変化予告態様判定の結果に関連付けられている。そして、各変動アイコン変化予告態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、変動アイコン変化予告態様に変動アイコン変化予告態様判定用乱数の値(変動アイコン変化予告態様判定値)が割り当てられている。40

【0492】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターン、および特図変動演出の開始時の変動アイコンの表示態様に関連付けられた変動アイコン変化予告態様判定テー50

ブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告態様判定用乱数カウンタが示す値を変動アイコン変化予告態様判定用乱数として取得し、取得した変動アイコン変化予告態様判定用乱数に基づいて変動アイコン変化予告態様判定を行う。演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告態様判定において、選択した変動アイコン変化予告態様判定テーブルに、取得した変動アイコン変化予告態様用乱数を照合し、変動アイコン変化予告態様を決定して、決定した変動アイコン変化予告態様を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

【0493】

次に、演出制御用マイコン121は、Hタイマー予告実行判定テーブルに基づいてHタイマー予告実行判定を行う。前述の通り、Hタイマー予告実行判定テーブルは、変動アイコン変化予告態様に関連付けられている。そして、各Hタイマー予告実行判定テーブルでは、例えば、所定の選択率となるように、変動アイコン変化予告に向かたタイマー予告の実行の可否にHタイマー予告実行判定用乱数の値（Hタイマー予告実行判定値）が割り当てられている。10

【0494】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられたHタイマー予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、Hタイマー予告実行判定用乱数カウンタが示す値をHタイマー予告実行判定用乱数として取得し、取得したHタイマー予告実行判定用乱数に基づいてHタイマー予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、Hタイマー予告実行判定において、選択したHタイマー予告実行判定テーブルに、取得したHタイマー予告実行判定用乱数を照合し、変動アイコン変化予告に向けたタイマー予告の実行の可否を決定する。20

【0495】

演出制御用マイコン121は、変動アイコン変化予告に向けたタイマー予告を実行すると判定した場合、タイマー予告種別判定テーブルに基づいてタイマー予告種別判定を行う。前述の通り、タイマー予告種別判定テーブルは、変動アイコン変化予告態様に関連付けられている。そして、各タイマー予告種別判定テーブルでは、所定の選択率となるように、変動アイコン変化予告に向けたタイマー予告種別にタイマー予告種別判定用乱数の値（タイマー予告種別判定値）が割り当てられている。

【0496】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、変動アイコン変化予告態様に関連付けられたタイマー予告種別判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、タイマー予告種別判定用乱数カウンタが示す値をタイマー予告種別判定用乱数として取得し、取得したタイマー予告種別判定用乱数に基づいてタイマー予告種別判定を行う。演出制御用マイコン121は、タイマー予告種別判定において、選択したタイマー予告種別判定テーブルに、取得したタイマー予告種別判定用乱数を照合し、変動アイコン変化予告に向けたタイマー予告の演出種別を決定し、その演出種別を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。30

【0497】

演出制御用マイコン121は、タイマー予告種別判定で第1演出種別（第1タイマー予告）と判定した場合、次に、前述のH1タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて、H1タイマー予告演出時間判定を行う。前述の通り、H1タイマー予告演出時間判定テーブルは、変動アイコン変化予告態様に関連付けられている。そして、各H1タイマー予告演出時間判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー予告演出時間にHタイマー予告演出時間判定用乱数の値（Hタイマー予告演出時間判定値）が割り当てられている。40

【0498】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、変動アイコン変化予告態様に関連付けられたH1タイマー予告用演出時間判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、Hタイマー予告演出時間判定用乱数カウンタが示す値をHタイマー予告演出時間50

判定用乱数として取得し、取得したHタイマー予告演出時間判定用乱数に基づいて変動アイコン変化予告に対するH1タイマー予告演出時間判定を行う。演出制御用マイコン121は、このH1タイマー予告演出時間判定において、選択したH1タイマー予告用演出時間判定テーブルに、取得したHタイマー予告演出時間判定用乱数を照合し、タイマー予告演出時間を決定して、決定したタイマー予告演出時間を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

【0499】

一方、演出制御用マイコン121は、タイマー予告種別判定で第2演出種別（第2タイマー予告）と判定した場合、次に、前述のH2タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて、H2タイマー予告演出時間判定を行う。前述の通り、H2タイマー予告用演出時間判定テーブルは、変動アイコン変化予告態様に関連付けられている。そして、各第2タイマー予告演出時間判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー予告演出時間にHタイマー予告演出時間判定用乱数の値（Hタイマー予告演出時間判定値）が割り当てられている。

10

【0500】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、変動アイコン変化予告態様に関連付けられたH2タイマー予告用演出時間判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、Hタイマー予告演出時間判定用乱数カウンタが示す値をHタイマー予告演出時間判定用乱数として取得し、取得したHタイマー予告演出時間判定用乱数に基づいて変動アイコン変化予告に対するタイマー予告演出時間判定を行う。演出制御用マイコン121は、このH2タイマー予告演出時間判定において、選択したH2タイマー予告用演出時間判定テーブルに、取得したHタイマー予告演出時間判定用乱数を照合し、タイマー予告演出時間を決定して、決定したタイマー予告演出時間を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

20

【0501】

また、演出制御用マイコン121は、特図変動パターンがLリーチまたはS Pリーチ変動であれば、カットイン予告実行判定テーブルに基づいてカットイン予告実行判定を行う。前述の通り、カットイン予告実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各カットイン予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、カットイン予告の実行の可否にカットイン予告実行判定用乱数の値（カットイン予告実行判定値）が割り当てられている。

30

【0502】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられたカットイン予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、カットイン予告実行判定用乱数カウンタが示す値をカットイン予告実行判定用乱数として取得し、取得したカットイン予告実行判定用乱数に基づいてカットイン予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、カットイン予告実行判定において、選択したカットイン予告実行判定テーブルに、取得したカットイン予告実行判定用乱数を照合し、カットイン予告の実行の可否を決定する。カットイン予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

40

【0503】

演出制御用マイコン121は、カットイン予告実行判定でカットイン予告を実行すると判定した場合は、次に、前述のカットイン予告態様判定テーブルに基づいて、カットイン予告態様判定を行う。前述の通り、カットイン予告態様判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各カットイン予告態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、カットイン予告態様にカットイン予告態様判定用乱数の値（カットイン予告態様判定値）が割り当てられている。

【0504】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられたカットイン予告態様判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、カットイ

50

ン予告態様判定用乱数カウンタが示す値をカットイン予告態様判定用乱数として取得し、取得したカットイン予告態様判定用乱数に基づいてカットイン予告態様判定を行う。演出制御用マイコン121は、カットイン予告態様判定において、選択したカットイン予告態様判定テーブルに、取得したカットイン予告態様用乱数を照合し、カットイン予告態様を決定して、決定したカットイン予告態様を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。

【0505】

演出制御用マイコン121は、カットイン予告態様を決定すると、次に、Cタイマー予告実行判定テーブルに基づいてCタイマー予告実行判定を行う。前述の通り、Cタイマー予告実行判定テーブルは、カットイン予告態様に関連付けられている。そして、各Cタイマー予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、カットイン予告に向けたタイマー予告の実行の可否にCタイマー予告実行判定用乱数の値（Cタイマー予告実行判定値）が割り当てられている。10

【0506】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、カットイン予告態様に関連付けられたタイマー予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、Cタイマー予告実行判定用乱数カウンタが示す値をCタイマー予告実行判定用乱数として取得し、取得したCタイマー予告実行判定用乱数に基づいてCタイマー予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、タイマー予告実行判定において、選択したCタイマー予告実行判定テーブルに、取得したCタイマー予告実行判定用乱数を照合し、カットイン予告に向けたタイマー予告の実行の可否を決定する。20

【0507】

演出制御用マイコン121は、カットイン予告に向けたタイマー予告を実行すると判定した場合、次に、前述のCタイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて、Cタイマー予告演出時間判定を行う。前述の通り、Cタイマー予告演出時間判定テーブルは、カットイン予告態様に関連付けられている。そして、各Cタイマー予告演出時間判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー予告演出時間にCタイマー予告演出時間判定用乱数の値（Cタイマー予告演出時間判定値）が割り当てられている。

【0508】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、カットイン予告態様に関連付けられたタイマー予告演出時間判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、Cタイマー予告演出時間判定用乱数カウンタが示す値をCタイマー予告演出時間判定用乱数として取得し、取得したCタイマー予告演出時間判定用乱数に基づいてCタイマー予告演出時間判定を行う。演出制御用マイコン121は、このCタイマー予告演出時間判定において、選択したCタイマー予告演出時間判定テーブルに、取得したCタイマー予告演出時間判定用乱数を照合し、タイマー予告演出時間を決定して、決定したタイマー予告演出時間を表すデータを演出用RAM124の所定領域にセットする。30

【0509】

さらに、演出制御用マイコン121は、特図変動パターンが、Nハズレ変動、Lリーチ変動、またはSPリーチ変動であれば、群予告実行判定テーブルに基づいて群予告実行判定を行う。前述の通り、群予告実行判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各群予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、群予告の実行の可否に群予告実行判定用乱数の値（群予告実行判定値）が割り当てられている。40

【0510】

よって、演出制御用マイコン121は、まず、特図変動パターンに関連付けられた群予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン121は、群予告実行判定用乱数カウンタが示す値を群予告実行判定用乱数として取得し、取得した群予告実行判定用乱数に基づいて群予告実行判定を行う。演出制御用マイコン121は、群予告実行判定において、選択した群予告実行判定テーブルに、取得した群予告実行判定用乱数を照合し、群予告の実行の可否を決定する。群予告を実行する場合は、そのことを表すデータを演出

10

20

30

40

50

用 R A M 1 2 4 の所定領域にセットする。

【 0 5 1 1 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、群予告実行判定で群予告を実行すると判定した場合は、次に、前述の群予告態様判定テーブルに基づいて、群予告態様判定を行う。前述の通り、群予告態様判定テーブルは、特図変動パターンに関連付けられている。そして、各群予告態様判定テーブルでは、所定の選択率となるように、群予告態様に群予告態様判定用乱数の値（群予告態様判定値）が割り当てられている。

【 0 5 1 2 】

よって、演出制御用マイコン 1 2 1 は、まず、特図変動パターンに関連付けられた群予告態様判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン 1 2 1 は、群予告態様判定用乱数カウンタが示す値を群予告態様判定用乱数として取得し、取得した群予告態様判定用乱数に基づいて群予告態様判定を行う。演出制御用マイコン 1 2 1 は、群予告態様判定において、選択した群予告態様判定テーブルに、取得した群予告演出態様用乱数を照合し、群予告態様を決定して、決定した群予告態様を表すデータを演出用 R A M 1 2 4 の所定領域にセットする。

10

【 0 5 1 3 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、群予告態様を決定すると、次に、G タイマー予告実行判定テーブルに基づいてタイマー予告実行判定を行う。前述の通り、G タイマー予告実行判定テーブルは、群予告態様に関連付けられている。そして、各群予告実行判定テーブルでは、所定の選択率となるように、G タイマー予告の実行の可否に G タイマー予告実行判定用乱数の値（G タイマー予告実行判定値）が割り当てられている。

20

【 0 5 1 4 】

よって、演出制御用マイコン 1 2 1 は、まず、群予告態様に関連付けられた群予告実行判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン 1 2 1 は、G タイマー予告実行判定用乱数カウンタが示す値を G タイマー予告実行判定用乱数として取得し、取得した G タイマー予告実行判定用乱数に基づいてタイマー予告実行判定を行う。演出制御用マイコン 1 2 1 は、G タイマー予告実行判定において、選択した G タイマー予告実行判定テーブルに、取得した G タイマー予告実行判定用乱数を照合し、群予告に向けたタイマー予告の実行の可否を決定する。

30

【 0 5 1 5 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、群予告に向けたタイマー予告を実行すると判定した場合、次に、前述の G タイマー予告演出時間判定テーブルに基づいて、G タイマー予告演出時間判定を行う。前述の通り、G タイマー予告演出時間判定テーブルは、群予告態様に関連付けられている。そして、各 G タイマー予告演出時間判定テーブルでは、所定の選択率となるように、タイマー予告演出時間に G タイマー予告演出時間判定用乱数の値（群予告に係るタイマー予告演出時間判定値）が割り当てられている。

40

【 0 5 1 6 】

よって、演出制御用マイコン 1 2 1 は、まず、群予告態様に関連付けられた G タイマー予告演出時間判定テーブルを選択する。次に、演出制御用マイコン 1 2 1 は、G タイマー予告演出時間判定用乱数カウンタが示す値を G タイマー予告演出時間判定用乱数として取得し、取得した G タイマー予告演出時間判定用乱数に基づいて G タイマー予告演出時間判定を行う。演出制御用マイコン 1 2 1 は、この G タイマー予告演出時間判定において、選択した G タイマー予告演出時間判定テーブルに、取得した G タイマー予告演出時間判定用乱数を照合し、群予告演出時間を決定して、決定したタイマー予告演出時間を表すデータを演出用 R A M 1 2 4 の所定領域にセットする。

【 0 5 1 7 】

そして、演出制御用マイコン 1 2 1 は、当該特図変動演出開始処理における各種判定結果に基づいて、特図変動演出の演出内容を表す特図変動演出開始コマンドを演出用 R A M 1 2 4 の出力バッファにセットする。なお、特図変動演出開始コマンドのデータ構造は限定されずに適宜に設定して良い。例えば、特図変動演出の演出内容を 1 つの特図変動演出

50

開始コマンドに集約させても良い。また、特図変動演出の演出内容を複数の特図変動演出開始コマンドで構成させても良い。具体的には、S P リーチ、L リーチ、N リーチ、タイマー予告、変動アイコン変化予告、および群予告などの演出毎に、その演出内容を表す演出開始コマンドを生成し、まとめて、出力バッファにセットするようにしても良い。

【 0 5 1 8 】

演出用 R A M 1 2 4 の出力バッファにセットされた特図変動演出開始コマンドが、コマンド送信処理 (S 4 0 0 4) により画像制御基板 1 4 0 に送信されると、画像制御基板 1 4 0 の画像用 C P U 1 4 1 は、画像用 R O M 1 4 2 から所定の演出画像を読み出して、画像表示装置 5 0 の表示部 5 0 a にて画像による特図変動演出を行う。画像用 C P U 1 4 1 は、例えば、タイマー予告を実行するという内容の演出開始コマンドを受信すると、変動アイコン変化予告、カットイン予告、および群予告などのタイマー予告の後に連動するよう実行される演出が開始されるタイミングから、そのタイマー予告の演出時間分、前に開始させる。すなわち、タイマー予告のタイムアップに応じて変動アイコン変化予告、カットイン予告、および群予告が実行されるようにタイマー予告を開始させる。さらに、画像用 C P U 1 4 1 は、複数の第 1 タイマー予告を同じ時間帯に実行する場合は、表示部 5 0 a の第 1 タイマー予告領域 5 0 f において、それぞれが重ならないように適宜に調整して各第 1 タイマー予告に係る第 1 タイマー予告画像 G 3 0 を表示する（図 7 3 参照）。

【 0 5 1 9 】

以上により、第 2 実施形態に係るパチンコ遊技機 P Y 2 によれば、特定の段階まで進行可能な進行演出であるタイマー予告を実行することがあり、タイマー予告を表示されている数字である残り時間が「0」になるまで、すなわち、タイムアップという特定の段階まで進行させることに応じて、遊技者に有利な大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する複数種類の特別演出を実行することができる。ここで、特別演出には、変動アイコン変化予告、カットイン予告、および群予告などの複数種類がある。また、タイマー予告には、第 1 タイマー予告と、第 2 タイマー予告と、がある。そして、第 1 タイマー予告が特定の段階まで進行した場合は、変動アイコン変化予告よりもカットイン予告や群予告の方が実行され易く、第 2 タイマー予告が特定の段階まで進行した場合は、カットイン予告や群予告よりも変動アイコン変化予告の方が実行され易い。このように、特定の段階まで進行可能なタイマー予告の種別によって、その後に発展する特別演出の傾向が異なるので、遊技興趣を向上させることができる。また、第 1 タイマー予告と第 2 タイマー予告とで演出態様が異なるので、タイマー予告の種別の違いを遊技者に認識させ易くすることができる。

【 0 5 2 0 】

また、パチンコ遊技機 P Y 1 によれば、段階的に進行可能なタイマー予告が実行され、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆するカットイン予告を実行することができる。ここで、タイマー予告の段階数、具体的には演出時間は複数種類あり、段階数が最も多い特別な段階数、具体的には演出時間が 3 0 秒（演出時間 3 ）である場合、他の段階数よりも、カットイン予告の中でも相対的大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆するカットイン予告態様 3 やカットイン予告態様 4 のカットイン予告が実行され易い。このように、タイマー予告の段階数が多い場合の方が、遊技者に大当たり遊技状態に対する期待感を持たすことができる、タイマー予告の演出効果を高めて、遊技興趣を向上させることができる。

【 0 5 2 1 】

また、パチンコ遊技機 P Y 1 によれば、段階的に進行可能なタイマー予告が実行され、タイマー予告が特定の段階まで進行したことに応じて、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する変動アイコン変化予告を実行することができる。ここで、タイマー予告には第 1 タイマー予告と第 2 タイマー予告とがあり、第 1 タイマー予告がタイムアップして特定の段階まで進行した場合と、第 2 タイマー予告がタイムアップして特定の段階まで進行した場合とで、変動アイコン変化予告が実行され、変動アイコンの表示態様が変化する確率が異なる。すなわち、同一の変動アイコン変化予告に向けたタイマー予告の種別に

10

20

30

40

50

よって、変動アイコン変化予告の実行確率が異なる。よって、タイマー予告全般の面白さが増大し、遊技興趣を向上させることができる。ここで、変動アイコン変化予告の中でも、変動アイコンが相対的に大当たり期待度の高い赤色（特別態様3）に変化する変動アイコン変化予告に対する実行確率が異なるので、さらに遊技興趣を向上させることができる。

【0522】

ここで、第2実施形態の変更例について説明する。第2実施形態では、タイマー予告の後に実行される演出として、変動アイコン変化予告、カットイン予告や群予告が設定されているが、この他に、所謂「ゾーン予告」、「ステップアップ予告」、および「台詞予告」などのような他の予告アクションを設定しても良い。また、第1実施形態のようにS P リーチやLリーチ、あるいは所謂「疑似連」や「全回転リーチ」のように、特図変動パターンに組み込まれている、言い換えると、特図変動演出の演出フローを構成し、特図変動演出の演出時間が割り当てられる演出であって、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出をタイマー予告の後に実行される演出にしても良い。

10

【0523】

さらに、タイマー予告の後に、変動アイコン変化予告のように変動アイコンが変化する予告ではなく、保留アイコンが変化する保留アイコン変化予告が実行されるようにしても良い。この場合、演出制御用マイコン121は、保留アイコン変化予告に対してタイマー予告を実行するか否かは、始動入賞コマンドが有する当否情報、図柄情報、または特図変動パターン情報に基づいて決定する。また、タイマー予告の後に保留アイコン変化予告を実行するタイミングは、演出図柄の変動表示が開始されるとき、演出図柄の変動表示と停止表示の間、および演出図柄の停止表示のときなど適宜に設定しても良い。この場合、タイマー予告は、1つの演出図柄の可変表示において実行しても、複数の演出図柄の可変表示にまたがって実行しても良い。また、始動入賞時処理において、始動入賞コマンドに含まれる先読み判定結果に基づいて、変動アイコンの最終的な表示態様、さらには変動アイコン変化予告の実行の可否を決定するようにしても良い。この場合、さらに始動入賞コマンドに含まれる先読み判定結果に基づいて、変動アイコン変化予告に対するタイマー予告実行判定、タイマー予告種別判定、およびタイマー予告演出時間判定を行っても良い。そして、変動アイコン変化予告が行われる特図変動演出が開始される前から先読み演出として、変動アイコン変化予告に向けたタイマー予告を実行しても良い。

20

【0524】

また、第2実施形態では、第1実施形態のタイマー調整中予告のようにタイマー予告の実行を示唆する演出や、第1実施形態のドラム予告のようにタイマー予告が実行される可能性があることを示唆する演出が実行されないが、タイマー予告の前にこれらの演出が実行されるようにしても良い。

30

【0525】

さらに、第2実施形態では、第1タイマー予告の後に変動アイコン変化予告が実行されることがあるが、実行されないようにしても良い。また、第2タイマー予告の後にカットイン予告や群予告が実行されないが、実行されることがあるようにしても良い。

【0526】

7. 第1実施形態および第2実施形態のその他の変更例

40

また、第1実施形態および第2実施形態に係るパチンコ遊技機PY1について、前述した変更例以外のその他の変更例を以下に説明する。

【0527】

例えば、第1実施形態および第2実施形態のタイマー予告の後に、大当たり遊技状態になる可能性があることを示唆する演出が実行されているが、この演出の示唆対象は大当たり遊技状態の他に、高確率状態や時短状態などの遊技者に有利な遊技状態であっても良い。また、大当たり遊技状態の中でも、第1大当たり遊技や第3大当たり遊技のように相対的にラウンド数の多い特定の大当たり遊技状態であっても良い。さらに、高確率状態や時短状態の中でも、当該遊技状態の継続期間が相対的に長い特定の高確率状態や時短状態にしても良い。さらには、例えば、非時短状態において、第2始動口12の開放時間

50

が長い所謂「ロング開放」の補助遊技を実行可能にし、当該「ロング開放」の補助遊技に向けてタイマー予告が実行されるようにしても良い。

【 0 5 2 8 】

また、第1実施形態および第2実施形態のタイマー予告の具体的な演出内容や演出様の種類は、適宜に設定しても良い。具体的な演出内容には、画像内容や表示領域が含まれる。さらに、タイマー予告の演出時間や演出時間の種類も、第1実施形態や第2実施形態に限られず適宜に設定しても良い。また、タイマー予告の後に行われる演出として、画像による演出の他に、音声による演出、盤可動体 5 5 k のように作動可能な可動体の動作による演出、および照射による演出を設定しても良い。

【 0 5 2 9 】

さらに、第1実施形態および第2実施形態において、タイマー予告は、時間がカウントダウンされていく、残り時間が「0」になる、すなわちタイムアップすると終了するという内容の演出である。要するに、タイマー予告は、タイムアップという特定の段階まで進行可能な演出である。しかし、この特定の段階まで進行するという様様は第1実施形態や第2実施形態に限られず、適宜に設定しても良い。

【 0 5 3 0 】

例えば、特定の段階まで進行するという様様を、複数の目盛りを有するゲージにおいてエネルギーをゲージ最大値に向けて段階的に貯めていくような内容にしても良い。すなわち、タイマー予告は、段階的に減少していく形で進行するが、段階的に増加していく形で進行するようにしても良い。この場合、最大値の数を複数設定し、最大値をタイマー予告において最初に表示される数値、すなわち、タイマー予告の演出時間に見立てて、ゲージ最大値が大きいほど、大当たり遊技状態になる可能性が高くなるようにしても良い。また、ゲージ最大値が大きいほど、S P リーチやカットイン予告態様 3 ~ カットイン予告態様 5 のカットイン予告などのように相対的に大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆する演出が実行され易くなるようにしても良い。

【 0 5 3 1 】

また、特定の段階まで進行するという様様を、爆弾に接続された導火線の先端が点火されて、火が爆弾に向けて燃え進んでいく導火線が短くなっていくような内容にしても良い。すなわち、タイマー予告は、段階的に減少していく形で進行するが、連続的に減少していく形で進行するようにしても良い。この場合、例えば、導火線の長さを複数設定し、導火線の長さをタイマー予告における最初に表示される数値、すなわち、タイマー予告の演出時間に見立てて、導火線の長さが長くなるにつれて、大当たり遊技状態になる可能性が高くなるようにしても良い。あるいは、導火線の長さが長くなるにつれて、S P リーチやカットイン予告態様 3 ~ カットイン予告態様 5 のカットイン予告などのように相対的に大当たり遊技状態になる可能性が高いことを示唆する演出が実行され易くなるようにしても良い。また、導火線の長さを火が進行する速度に置き換え、その速度が遅くなるにつれて、大当たり遊技状態になる可能性が高くなるようにしても良い。あるいは、その速度が遅くなるにつれて、S P リーチやカットイン予告態様 3 ~ カットイン予告態様 5 のカットイン予告などのように大当たり遊技状態になる可能性が相対的に高いことを示唆する演出が実行され易くなるようにしても良い。

【 0 5 3 2 】

さらに、第1実施形態や第2実施形態のタイマー予告では、カウントダウンされる時間、すなわち、タイマー予告の進行が停止することはないが、進行が一旦停止するようにしても良い。よって、タイマー予告で最初に表示される数字である秒数がタイマー予告の演出時間を構成しない場合があることになるが、結果的には一旦停止する期間がある分、タイマー予告の演出時間が長くなる。また、カウントダウンされている途中で秒数が増加、すなわち、タイマー予告の進行が戻るようにもしても良い。そして、最初に表示される秒数が同一であっても、進行が一旦停止するあるいは進行が戻る方が、大当たり遊技状態になる可能性が高くなるようにしても良い。

【 0 5 3 3 】

10

20

30

40

50

また、パチンコ遊技機 P Y 1 では、大当たり遊技で大入賞口 1 4 が開放可能であるが、大入賞口 1 4 以外にも大当たり遊技で開放可能な入賞領域を設けても良い。

【 0 5 3 4 】

また、パチンコ遊技機 P Y 1 では、特定の大当たり図柄種別に判定されると、必ず大当たり遊技後に高確率状態にて遊技が進行する。すなわち、高確率状態の設定が大当たり図柄種別に対応付けられている。しかしながら、高確率状態の設定条件を変更してもよい。例えば、大入賞装置 1 4 D とは別に、開閉可能であり、開放時に遊技球が入球可能な第 2 大入賞装置を遊技領域 6 の遊技球が到達可能な位置に設けておき、大当たり遊技中の所定のラウンド遊技において第 2 大入賞装置が開放して第 2 大入賞装置に入球した遊技球が、その下流側に設けられた特定領域を通過すると、大当たり遊技の終了に伴って高確率状態が設定されるようにしてよい。

10

【 0 5 3 5 】

この場合、例えば第 2 大入賞装置が入球容易な時間（例えば、29.5 秒）開放する特定の大当たり図柄（高確率状態を設定させやすい大当たり図柄）と、第 2 大入賞装置が入球難難な時間（例えば、0.5 秒）開放する非特定の大当たり図柄（高確率状態を設定させ難い大当たり図柄）と、を設けることができる。また、第 2 大入賞装置に入賞した遊技球が通過可能な領域として特定領域と非特定領域があり、遊技球を特定領域と非特定領域に振り分ける振分装置を設けておく。そして、第 2 大入賞装置の開放時間は同じであるが、第 2 大入賞装置の開放態様と振分装置の作動態様との組み合わせで、高確率状態を設定させやすい大当たり図柄と高確率状態を設定させ難い大当たり図柄を設けることも可能である。

20

【 0 5 3 6 】

また、パチンコ遊技機 P Y 1 では、遊技の進行に係る基本的な制御を遊技制御基板 1 0 0 が行い、遊技の進行（遊技の制御）に応じた演出の進行に係る基本的な制御を演出制御基板 1 2 0 が行うというように、遊技の制御と演出の制御とを異なる基板で行っているが、一つの基板で行うよう構成しても良い。この場合、画像制御基板 1 4 0 を、その一つの基板に含めても良く、また、その一つの基板とは別に設けても良い。

【 0 5 3 7 】

また、本発明の遊技機を、アレンジボール機、雀球遊技機等の他の弾球遊技機や回胴式遊技機（所謂「スロットマシーン」）などに適用することも可能である。

【 0 5 3 8 】

30

8 . 実施形態に開示されている他の発明

この〔発明を実施するための形態〕における前段落までには、以下の発明 A ~ 発明 G が開示されている。発明 A ~ 発明 G の説明では、前述した発明を実施する形態における対応する構成の名称や表現、画面に使用した符号を参考のためにかっこ書きで付記している。但し、各発明を構成する手段などの要素はこの付記に限定されるものではない。なお、発明 A は、以下の発明 A 1 ~ A 2 の総称であり、発明 B は、以下の発明 B 1 ~ B 2 の総称であり、発明 C は、以下の発明 C 1 ~ C 2 の総称であり、発明 D は、以下の発明 D 1 ~ D 4 の総称であり、発明 E は、以下の発明 E 1 ~ E 3 の総称であり、発明 F は、以下の発明 F 1 ~ F 3 の総称であり、発明 G は、以下の発明 G 1 ~ G 3 の総称である。

【 0 5 3 9 】

40

8 - 1 - 1 . 発明 A 1

発明 A 1 に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態 / 高ベース遊技状態）にすることが可能な遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 1 2 1 など）を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別演出（S P リーチ、L リーチなど）、特定の段階（タイムアップなど）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）、および前記進行演出が実行される可能性があることを示唆する示唆演出（タイマー調整中予告、タイマー示唆図柄の停止表示など）が含まれ、

前記演出実行手段は、前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記

50

特別演出を実行することがあり、
を実行することがあり、

前記示唆演出には、第1示唆演出（タイマー調整中予告など）と、前記第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（タイマー示唆図柄の停止表示など）とがあることを特徴とする。

【0540】

8 - 1 - 2 . 発明 A 2

発明 A 2 に係る遊技機は、

発明 A 1 に係る遊技機であって、

前記第1示唆演出が実行されたときと前記第2示唆演出が実行されたときとで、前記進行演出が実行される確率が異なることを特徴とする。

10

【0541】

8 - 2 - 1 . 発明 B 1

発明 B 1 に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技 / 高ベース遊技状態）にすることが可能な遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン121など）を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別演出（S P リーチ、L リーチなど）、特定の段階（タイムアップなど）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）、および前記進行演出が実行される可能性があることを示唆する示唆演出（タイマー調整中予告、タイマー示唆図柄の停止表示など）が含まれ、

20

前記演出実行手段は、前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特別演出を実行することがあり、

前記特別演出には、前記特別遊技状態になる可能性が相対的に高いことを示唆する第1特別演出（S P リーチなど）と、前記特別遊技状態になる可能性が相対的に低いことを示唆する第2特別演出（L リーチなど）と、があることを特徴とする。

【0542】

8 - 2 - 2 . 発明 B 2

発明 B 2 に係る遊技機は、

発明 B 1 に係る遊技機であって、

前記示唆演出には、第1示唆演出（タイマー調整中予告など）と、前記第1示唆演出とは異なる第2示唆演出（タイマー示唆図柄の停止表示など）と、があり、

30

前記第1示唆演出が実行されたときと前記第2示唆演出が実行されたときとで、前記進行演出が前記特定の段階まで進行した場合に、前記第1特別演出が実行される確率が異なることを特徴とする。

【0543】

8 - 3 - 1 . 発明 C 1

発明 C 1 に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技 / 高ベース遊技状態）にすることが可能な遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン121など）を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別演出（S P リーチ、L リーチなど）、特定の段階（タイムアップなど）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）、および前記進行演出が実行される可能性があることを示唆する示唆演出（タイマー調整中予告、タイマー示唆図柄の停止表示など）が含まれ、

40

前記演出実行手段は、

前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特別演出を実行することがあり、

前記進行演出には、前記特別遊技状態になる可能性が相対的に高いことを示唆する第1進行演出（タイマー予告態様1のタイマー予告など）と、前記特別遊技状態になる可能性が相対的に低いことを示唆する第2進行演出（タイマー予告態様2のタイマー予告など）

50

と、があることを特徴とする。

【0544】

8 - 3 - 2 . 発明 C 2

発明 C 2 に係る遊技機は、

発明 C 1 に係る遊技機であって、

前記示唆演出には、第 1 示唆演出（タイマー調整中予告など）と、前記第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出（タイマー示唆図柄の停止表示など）と、があり、

前記第 1 示唆演出が実行されたときと前記第 2 示唆演出が実行されたときとで、前記第 1 進行演出が実行される確率が異なることを特徴とする。

【0545】

10

8 - 4 - 1 . 発明 D 1

発明 D 1 に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技 / 高ベース遊技状態）にすることが可能な遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 121 など）を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別演出（S P リーチ、L リーチなど）、特定の段階（タイムアップ）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）、前記進行演出が実行される可能性があることを示唆する特定演出（ドラム予告など）、および前記進行演出が実行されることを示唆する示唆演出（タイマー調整中予告、タイマー示唆図柄の停止表示など）が含まれ、

20

前記演出実行手段は、

前記進行演出を実行する場合、前記特定演出を実行し、さらにその後に前記示唆演出を実行することがあり、

前記進行演出を実行しない場合、前記特定演出を実行することがあるが、当該特定演出を実行した後には前記示唆演出を実行しないことを特徴とする。

【0546】

8 - 4 - 2 . 発明 D 2

発明 D 2 に係る遊技機は、

発明 D 1 に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、前記進行演出を実行しない場合、前記特定演出を実行してから前記示唆演出を実行しないで所定の予告演出（リーチや群予告など）を実行することがあることを特徴とする。

30

【0547】

8 - 4 - 3 . 発明 D 3

発明 D 3 に係る遊技機は、

発明 D 2 に係る遊技機であって、

前記予告演出は、前記特別演出よりも前記特別遊技状態になる可能性が低いことを示唆する演出であることを特徴とする。

【0548】

8 - 4 - 4 . 発明 D 4

40

発明 D 4 に係る遊技機は、

発明 D 1 乃至発明 D 3 の何れか 1 つに係る遊技機であって、

前記進行演出には、前記特別遊技状態になる可能性が相対的に高いことを示唆する第 1 進行演出と、前記特別遊技状態になる可能性が相対的に低いことを示唆する第 2 進行演出と、があり、

前記示唆演出には、第 1 示唆演出（タイマー調整中予告など）と、前記第 1 示唆演出とは異なる第 2 示唆演出（タイマー示唆図柄の停止表示など）と、があり、

前記第 1 示唆演出が実行されたときと前記第 2 示唆演出が実行されたときとで、前記第 1 進行演出が実行される確率が異なることを特徴とする。

【0549】

50

8 - 5 - 1 . 発明 E 1

発明 E 1 に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技 / 高ベース遊技状態）にすることがある遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 121 など）を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性があることを示唆する特別演出（カットイン予告、群予告、変動アイコン変化予告など）、および特定の段階（タイムアップなど）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）が含まれ、

前記演出実行手段は、前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特別演出を実行することがあり、10

前記進行演出には、第 1 進行演出（第 1 タイマー予告など）と、前記第 1 進行演出とは異なる第 2 進行演出（第 2 タイマー予告など）と、があり、

前記特別演出には、第 1 特別演出（カットイン予告、群予告）と、前記第 1 特別演出とは異なる第 2 特別演出（変動アイコン変化予告）と、があり、

前記第 1 進行演出が前記特定の段階まで進行した場合は、前記第 2 特別演出よりも前記第 1 特別演出が実行され易く、

前記第 2 進行演出が前記特定の段階まで進行した場合は、前記第 1 特別演出よりも前記第 2 特別演出が実行され易いことを特徴とする。

【 0 5 5 0 】

8 - 5 - 2 . 発明 E 2

発明 E 2 に係る遊技機は、

発明 E 1 に係る遊技機であって、

前記第 2 進行演出が前記特定の段階まで進行した場合は、前記第 1 特別演出が実行されないことを特徴とする。20

【 0 5 5 1 】

8 - 5 - 3 . 発明 E 3

発明 E 3 に係る遊技機は、

発明 E 1 に係る遊技機であって、

前記第 1 進行演出の演出態様と前記第 2 進行演出の演出態様とが異なることを特徴とする。30

【 0 5 5 2 】

8 - 6 - 1 . 発明 F 1

発明 F 1 に係る遊技機は、

遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技 / 高ベース遊技状態）にすることがある遊技機において、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 121 など）を備え、

前記所定の演出には、前記特別遊技状態になる可能性があることを示唆する特別演出（カットイン予告、群予告、変動アイコン変化予告など）、および特定の段階（タイムアップなど）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）が含まれ、

前記演出実行手段は、前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特別演出を実行することがあり、40

前記進行演出において前記特定の段階に至るまでの過程内容（タイマー予告の演出時間）が複数種類あり、

前記特別演出には、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する高期待度特別演出（カットイン予告態様 3 ~ 5 のカットイン予告、群予告態様 3 の群予告、特別態様 3 ~ 5 の変動アイコン変化予告など）を含む複数の種類があり、

前記特定の段階に至るまでの過程内容が特別な過程内容であった場合、他の過程内容であった場合に比べて前記高期待度特別演出が実行され易く、

前記進行演出には、第 1 進行演出（第 1 タイマー予告など）と、前記第 1 進行演出とは異なる第 2 進行演出（第 2 タイマー予告など）と、があり、50

前記第2進行演出よりも前記第1進行演出の方が前記特別な過程内容になり易いことを特徴とする。

【0553】

8 - 6 - 2 . 発明 F 2

発明 F 2 に係る遊技機は、

発明 F 1 に係る遊技機であって、

前記過程内容は、前記進行演出において前記特定の段階に至るまでの段階数であることを特徴とする。

【0554】

8 - 6 - 3 . 発明 F 3

10

発明 F 3 に係る遊技機は、

発明 F 1 に係る遊技機であって、

前記過程内容は、前記進行演出において前記特定の段階に至るまでの長さであることを特徴とする。

【0555】

8 - 7 - 1 . 発明 G 1

発明 G 1 に係る遊技機は、

第1条件の成立（始動口11、12への入賞）により、遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技 / 高ベース遊技状態）にするか否かの判定を行うための判定情報（特別図柄乱数、大当たり図柄乱数、リーチ乱数、特図変動パターン乱数など）を取得する取得手段（ステップS211、ステップS218を行う遊技制御用マイコン101）と、

20

前記取得手段によって取得された前記判定情報を記憶可能な記憶手段（ステップS213、ステップS220を行う遊技制御用マイコン101）と、

第2条件の成立（保留順1のときに特図可変表示の終了）により、前記記憶手段に記憶された前記判定情報に基づいて、前記判定を行う判定手段（ステップS1602、1603、1609、1610を行う遊技制御用マイコン101）と、

所定の表示手段（画像表示装置50、スピーカ52、枠ランプ53、盤可動装置55、など）を含む演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン121など）と、を備え、

前記所定の演出には、前記判定情報が前記記憶手段に記憶されたことに応じて前記表示手段に表示される特定図柄（変動アイコンなど）の表示態様を通常表示態様とは異なる特殊表示態様（特別態様など）に変化させる特殊演出（変動アイコン変化予告など）、および特定の段階（タイムアップなど）まで進行可能な進行演出（タイマー予告など）が含まれ、

30

前記演出実行手段は、前記進行演出を前記特定の段階まで進行させることに応じて前記特殊演出を実行することがあり、

前記進行演出には、第1進行演出（第1タイマー予告など）と、前記第1進行演出とは異なる第2進行演出（第2タイマー予告など）と、があり、

前記第1進行演出が前記特定の段階まで進行した場合と、前記第2進行演出が前記特定の段階まで進行した場合とで、前記特殊演出が実行される確率が異なることを特徴とする。

40

【0556】

8 - 7 - 2 . 発明 G 2

発明 G 2 に係る遊技機は、

発明 G 1 に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、前記判定手段による判定結果に基づいて、前記進行演出を実行することがあり、

前記特殊演出は、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する演出であることを特徴とする。

【0557】

8 - 7 - 3 . 発明 G 3

50

発明 G 3 に係る遊技機は、

発明 G 1 に係る遊技機であって、

前記第 2 条件が成立する前に、前記取得手段によって取得された前記判定情報に基づいて、前記特別遊技が実行されるか否かの事前判定（先読み判定）を行う事前判定手段（ステップ S212、ステップ S219 を行う遊技制御用マイコン 101 など）を更に備え、

前記演出実行手段は、前記事前判定の結果に基づいて、前記進行演出を実行することがあり、

前記特殊演出は、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する演出であることを特徴とする。

【符号の説明】

【 0 5 5 8 】

P Y 1 … パチンコ遊技機

1 … 遊技盤

1 1 … 第 1 始動口

1 1 a … 第 1 始動口センサ

1 2 … 第 2 始動口

1 2 a … 第 2 始動口センサ

1 4 … 大入賞口

1 4 a … 大入賞口センサ

5 0 … 画像表示装置

5 0 a … 表示部

5 2 … スピーカ

5 3 … 枠ランプ

5 5 … 盤可動装置

5 5 k … 盤可動体

1 0 0 … 遊技制御基板

1 0 1 … 遊技制御用マイコン

1 2 0 … 演出制御基板

1 2 1 … 演出制御用マイコン

1 4 0 … 画像制御基板

10

20

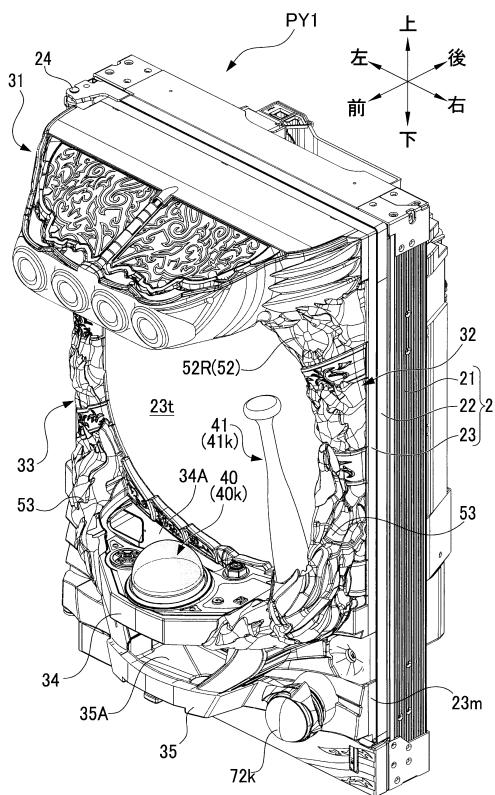
30

40

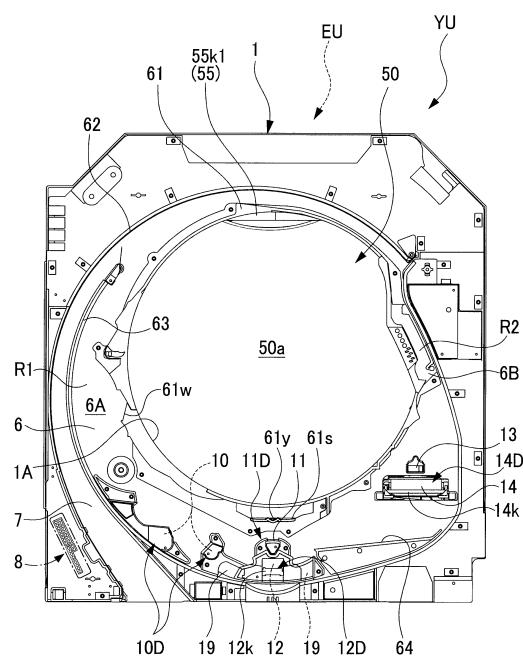
50

【図面】

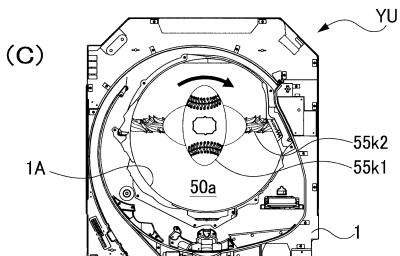
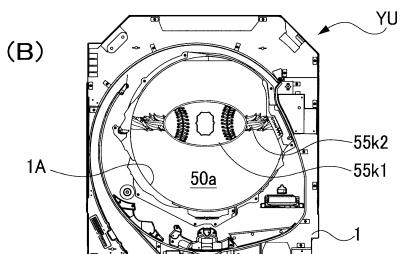
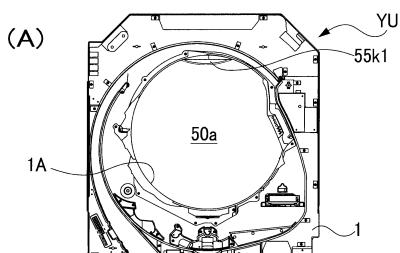
【図 1】



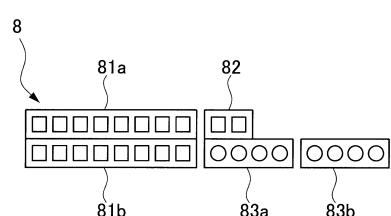
【図 2】



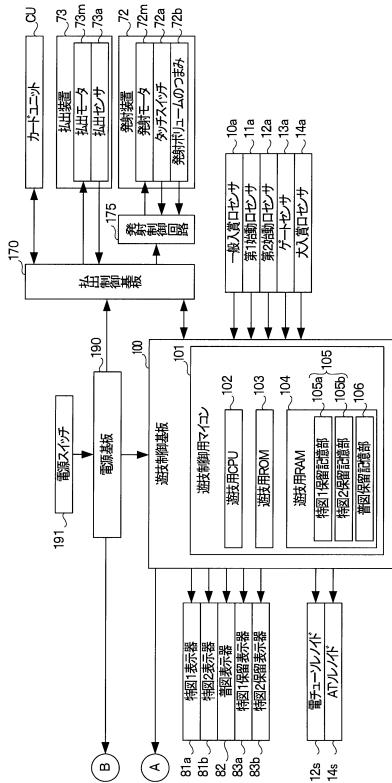
【図 3】



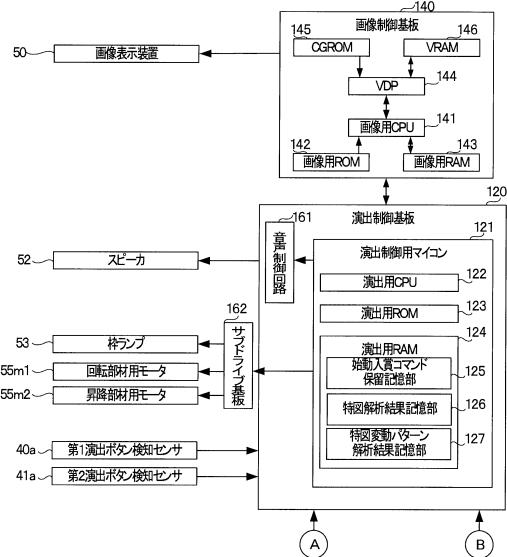
【図 4】



【図5】



【図6】



10

20

30

【図7】

(A)普図関連判定情報

乱数カウンタ名	乱数名	数値範囲	用途
ラベル-TRND-F	普通図柄乱数	0~65535	当たり判定用

(B)特図関連判定情報

乱数カウンタ名	乱数名	数値範囲	用途
ラベル-TRND-T	特別図柄乱数	0~6535	大当たり判定用
ラベル-TRND-OS	大当たり図柄種別乱数	0~9	大当たり図柄種別判定用
ラベル-TRND-RC	リーチ乱数	0~99	リーチ判定用
ラベル-TRND-HP	特図変動パターン乱数	0~99	特図変動パターン判定用

【図8】

(A)当たり判定テーブル

遊技状態	普通図柄乱数判定値	判定結果	TBL No.
非時短状態	1~6600	当たり	I-1
	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ	
時短状態	1~59936	当たり	I-2
	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ	

(B)普図変動パターン判定テーブル

遊技状態	普通図柄	普図変動時間	TBL No.
非時短状態	ハズレ普図	30秒	2-1
	当たり図柄	30秒	
時短状態	ハズレ普図	5秒	2-2
	当たり図柄	5秒	

40

(C)補助遊技制御テーブル

遊技状態	開放回数	開放時間	インターバル時間	TBL No.
非時短状態	1	0.2秒	~	3-1
時短状態	2	1回目 2.5秒	1.0秒	3-2
		2回目 2.5秒		

50

【図 9】

(A)大当たり判定テーブル(第1特別図柄用)

遊技状態	特別図柄乱数判定値	判定結果	TBL No.
通常確率状態	1000~1219	大当たり	5-1
	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ	
高確率状態	1000~2499	大当たり	5-2
	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ	

(B)大当たり判定テーブル(第2特別図柄用)

遊技状態	特別図柄乱数判定値	判定結果	TBL No.
通常確率状態	1000~1219	大当たり	5-3
	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ	
高確率状態	1000~2499	大当たり	5-4
	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ	

(C)大当たり図柄種別判定テーブル

特別図柄	大当たり図柄種別判定値	判定結果	TBL No.
特図1	0~14	大当たり図柄A	6-1
	15~64	大当たり図柄B	
	65~99	大当たり図柄C	
特図2	0~44	大当たり図柄D	6-2
	45~64	大当たり図柄E	
	65~99	大当たり図柄F	

(D)リーチ判定テーブル

遊技状態	リーチ乱数判定値	判定結果	TBL No.
非時短状態	0~29	リーチ有り	7-1
	30~99	リーチ無し	
時短状態	0~9	リーチ有り	7-2
	10~99	リーチ無し	

【図 10】

特図1変動パターン判定テーブル

遊技状態	大当たり 判定結果	リーチ有無	特別図柄 種別判定 結果	*備考		TBL No.			
				特別1 保有数 (U1)	割分率 (%)	時間変動 時間(m)	時間変動 時間(m)	時間変動 時間(m)	
時短状態	大当たり	A	—	—	—	THP01 70000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-1
		B, C	—	—	—	THP02 45000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-2
		リーチ有り	—	—	—	THP03 70000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-3
		リーチ無し	—	—	—	THP04 45000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-4
		0~2	—	—	—	THP05 60000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-5
		3~4	—	—	—	THP06 10000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-6
		5~7	—	—	—	THP07 40000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-7
		8~10	—	—	—	THP08 20000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-8
		11~13	—	—	—	THP09 13000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-9
		14~16	—	—	—	THP10 6000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-10
時短状態	ハズレ	A	—	—	—	THP21 35000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-11
		B, C	—	—	—	THP22 35000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-12
		リーチ有り	—	—	—	THP23 25000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-13
		リーチ無し	—	—	—	THP24 10000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-14
		0~2	—	—	—	THP25 6000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-15
		3~4	—	—	—	THP26 6000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-16
		5~7	—	—	—	THP27 3000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-17
		8~10	—	—	—	THP28 6000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-18
		11~13	—	—	—	THP29 13000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-19
		14~16	—	—	—	THP30 6000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-1-20

【図 11】

【図 12】

特図2変動パターン判定テーブル

遊技状態	大当たり 判定結果	リーチ有無	特別2 保有数 (U2)	張分率 (%)	特別変動 時間(m)	*備考		TBL No.
						特別2変動 演出の演出フロー	特別2変動 演出の名前	
時短状態	大当たり	D	—	—	65 THP61 70000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-1
		E, F	—	—	15 THP62 45000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-2
		リーチ有り	—	—	65 THP63 70000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-3
		リーチ無し	—	—	15 THP64 45000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-4
		0~2	—	—	15 THP65 60000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-5
		3~4	—	—	35 THP66 40000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-6
		5~7	—	—	5 THP67 13000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-7
		8~10	—	—	5 THP68 8000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-8
		11~13	—	—	5 THP69 4000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-9
		14~16	—	—	5 THP70 4000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-10
時短状態	ハズレ	A	—	—	65 THP71 60000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-11
		B, C	—	—	15 THP72 30000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-12
		リーチ有り	—	—	15 THP73 25000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-13
		リーチ無し	—	—	15 THP74 10000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-14
		0~2	—	—	15 THP75 6000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-15
		3~4	—	—	35 THP76 40000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-16
		5~7	—	—	5 THP77 13000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-17
		8~10	—	—	5 THP78 8000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-18
		11~13	—	—	5 THP79 4000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-19
		14~16	—	—	5 THP80 4000	通常変動:リーチ-N1-リーチ-S1リーチ	SP1大当たり変動	8-2-20

第1先読み判定テーブル

遊技状態	特別2 保有数 (U2)	大当たり 判定結果	リーチ 台数	特別変動 時間(m)	*備考		TBL No.	
					特別2変動 演出の演出フロー	特別2変動 演出の名前		
時短状態	1000~1219	0~14	—	—	0~64	第1動かし人コマンド:01	SP1大当たり変動	9-1
		15~29	—	—	65~100	第1動かし人コマンド:02	SP1大当たり変動	9-2
		30~255	—	—	0~64	第1動かし人コマンド:03	SP1大当たり変動	9-3
		26~29	—	—	65~100	第1動かし人コマンド:04	SP1大当たり変動	9-4
		30~255	—	—	0~64	第1動かし人コマンド:05	SP1大当たり変動	9-5
		10~255	—	—	65~99	第1動かし人コマンド:06	SP1大当たり変動	9-6
		10~255	—	—	0~9	第1動かし人コマンド:07	SP1大当たり変動	9-7
		10~255	—	—	30~99	第1動かし人コマンド:08	SP1大当たり変動	9-8
		10~255	—	—	0~9	第1動かし人コマンド:09	SP1大当たり変動	9-9
		10~255	—	—	30~99	第1動かし人コマンド:10	SP1大当たり変動	9-10
時短状態	0~65535	0~14	—	—	0~99	第1動かし人コマンド:21	SP1大当たり変動	9-11
		15~99	—	—	0~99	第1動かし人コマンド:22	SP1大当たり変動	9-12
		10~255	—	—	0~9	第1動かし人コマンド:23	SP1大当たり変動	9-13
		10~255	—	—	30~99	第1動かし人コマンド:24	SP1大当たり変動	9-14
		10~255	—	—	0~9	第1動かし人コマンド:25	SP1大当たり変動	9-15

【図13】

【 図 1 4 】

(A) 大当たり遊技制御テーブル

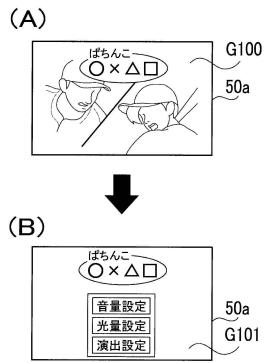
大当たり回数	回数	大入り賞金の開放パターン			OP時間	ED時間	TBL No.
		開放時間	開放回数	開放時間			
大当たり回数A	1回	1~10R	1回	25.5秒	20秒	10.0秒	15.0秒
大当たり回数B	5回	1~5R	1回	25.5秒	20秒	10.0秒	15.0秒
大当たり回数C	5回	1~5R	1回	25.5秒	20秒	10.0秒	15.0秒
大当たり回数D	16回	1~16R	1回	25.5秒	20秒	10.0秒	15.0秒
大当たり回数E	4回	1~4R	1回	25.5秒	20秒	10.0秒	15.0秒
大当たり回数F	4回	1~4R	1回	25.5秒	20秒	10.0秒	15.0秒

(B) 游技状態設定テーブル

				TBL No.
		逆接状態	高強度状態	終了条件
大当り+回転抑制	高強度高→一ス逆接状態	-	時短失速	-
大当り+回転A	高強度高→一ス逆接状態	-	-	-
大当り+回転B	高強度高→一ス逆接状態	-	-	-
大当り+回転C	低強度高→一ス逆接状態	-	特図可変表示100回	11
大当り+回転D	高強度高→一ス逆接状態	-	-	-
大当り+回転E	高強度高→一ス逆接状態	-	-	-
大当り+回転F	低強度高→一ス逆接状態	-	特図可変表示100回	11
大当り+回転G	高強度高→一ス逆接状態	-	-	-

【図15】

【 図 1 6 】



(A) G111
50a

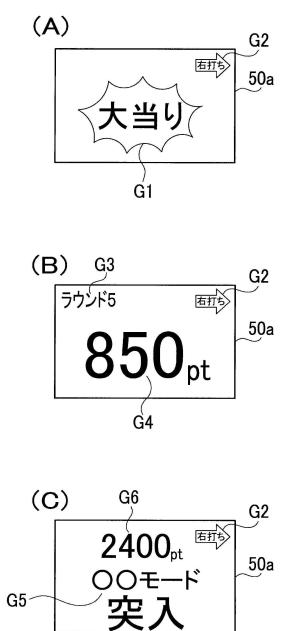
(B) G112
50a

(C) G113
50a

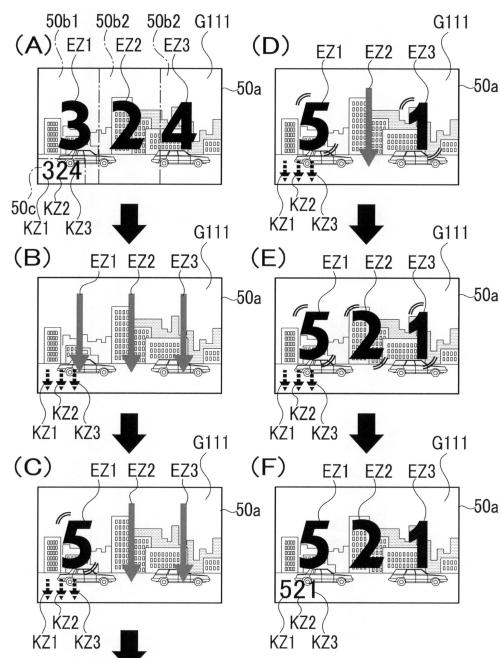
(D) G120
50a

(E) G130
50a

【図17】



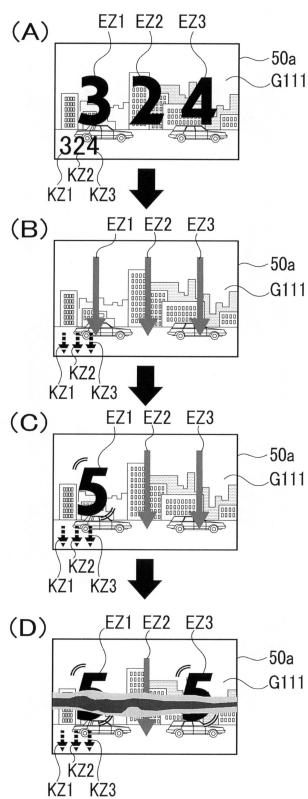
【図18】



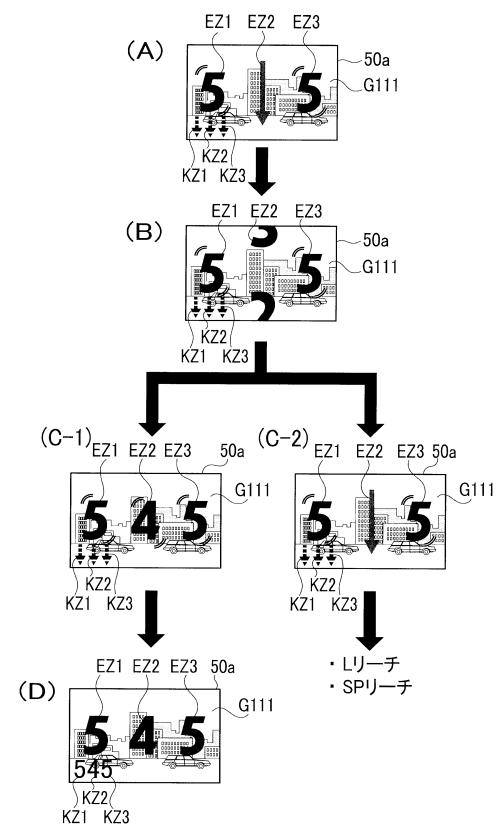
10

20

【図19】



【図20】

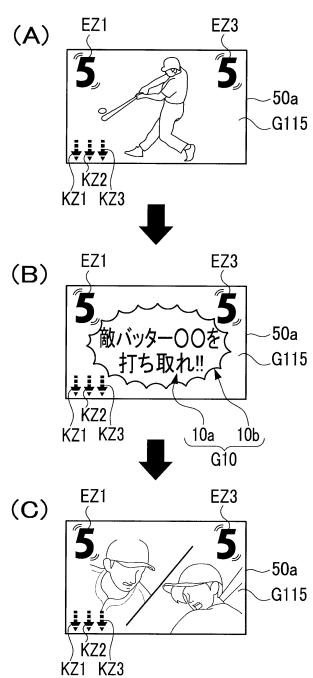


30

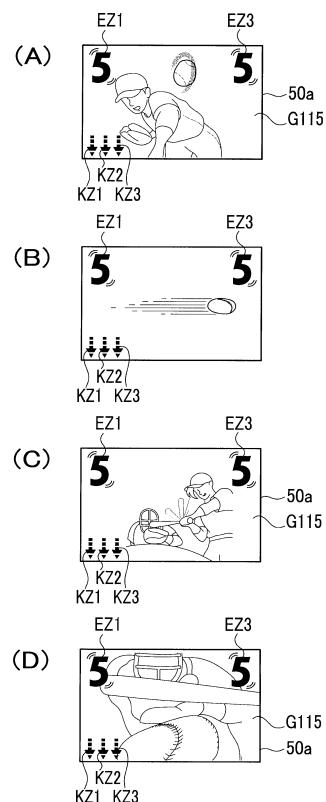
40

50

【図 2 1】



【図 2 2】



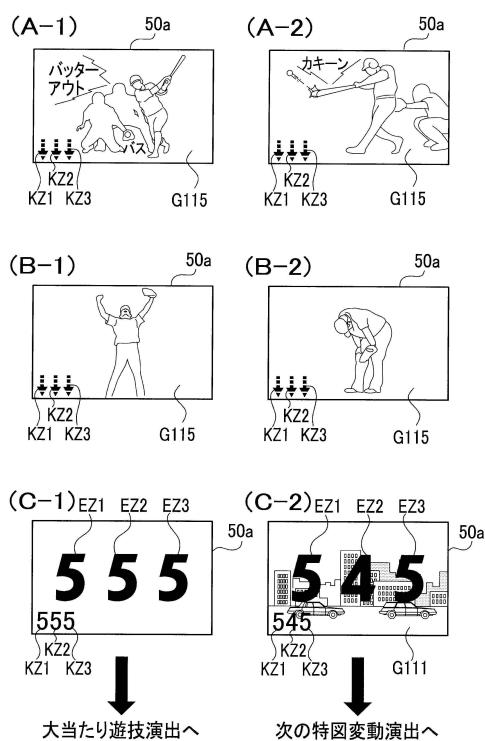
10

20

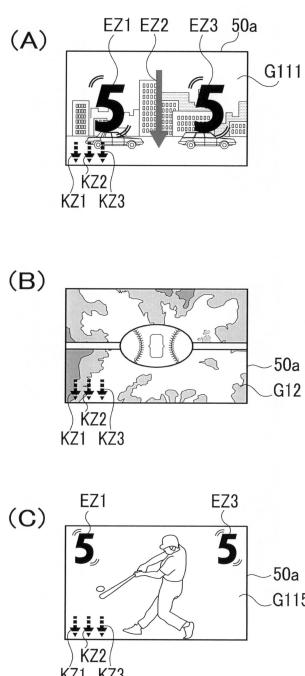
30

40

【図 2 3】

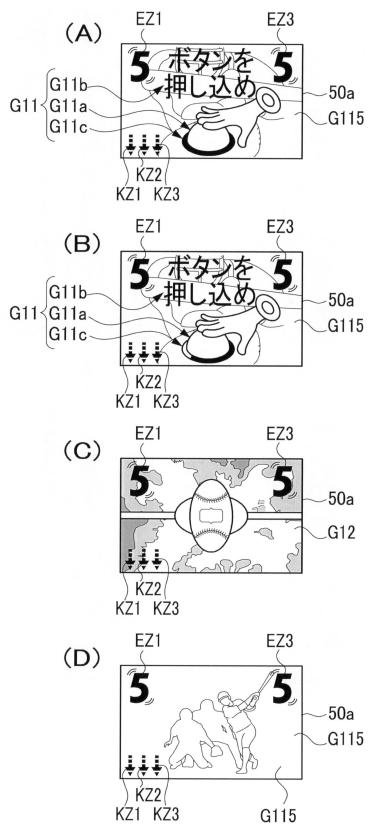


【図 2 4】

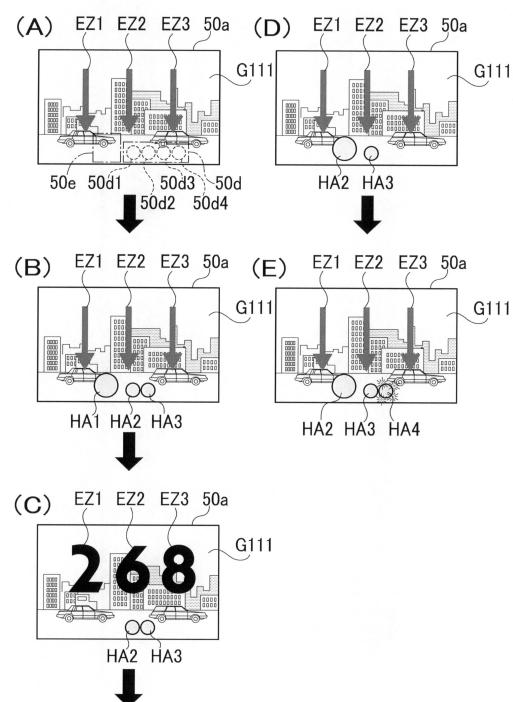


50

【図 2 5】



【図 2 6】



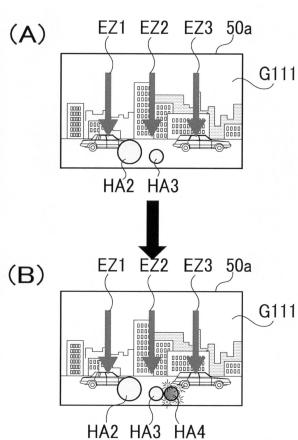
10

20

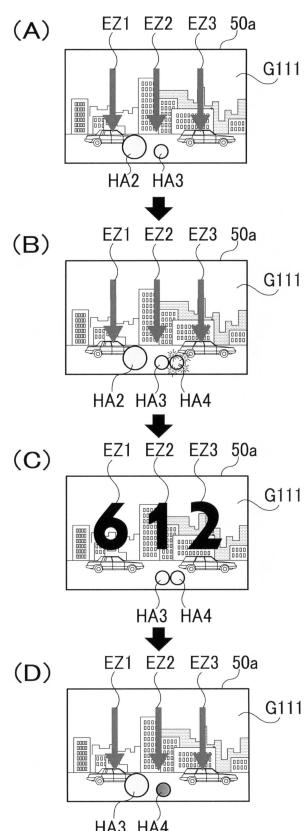
30

40

【図 2 7】

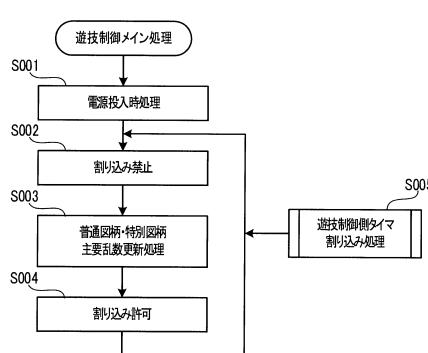


【図 2 8】

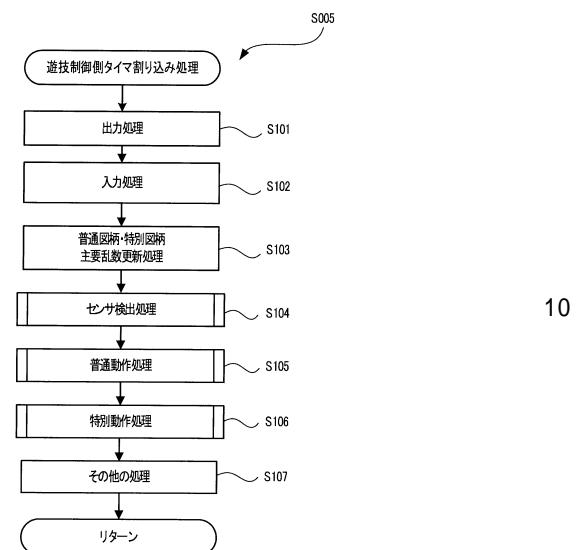


50

【図29】

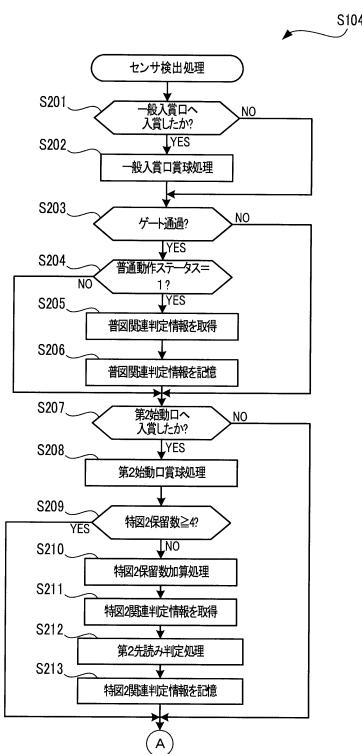


【図30】

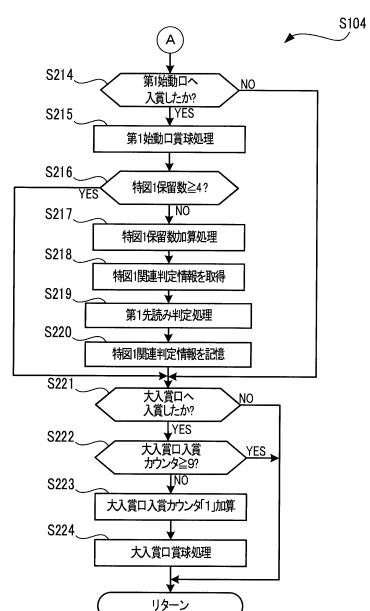


20

【図31】

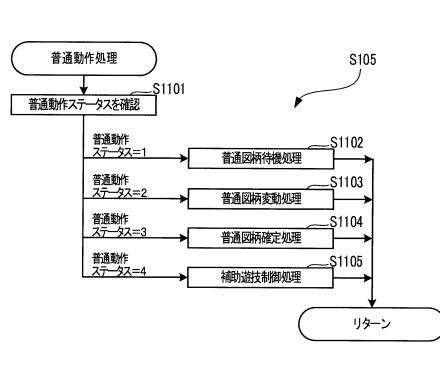


【図32】

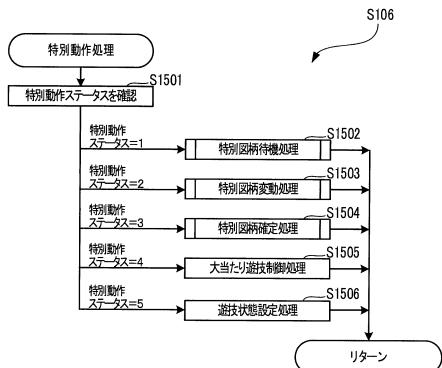


50

【図 3 3】



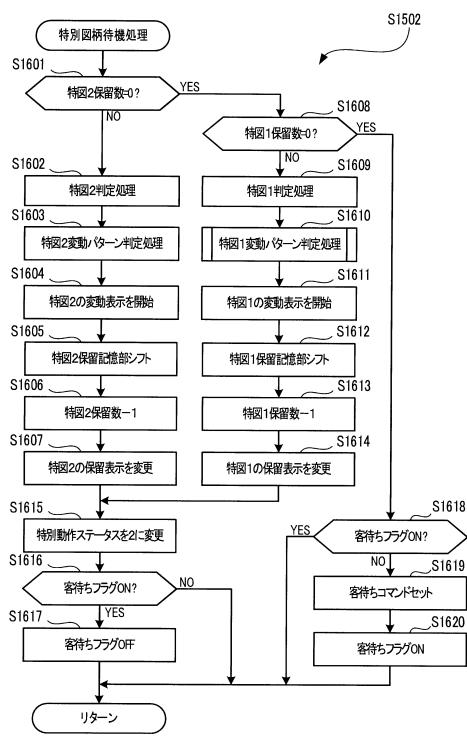
【図 3 4】



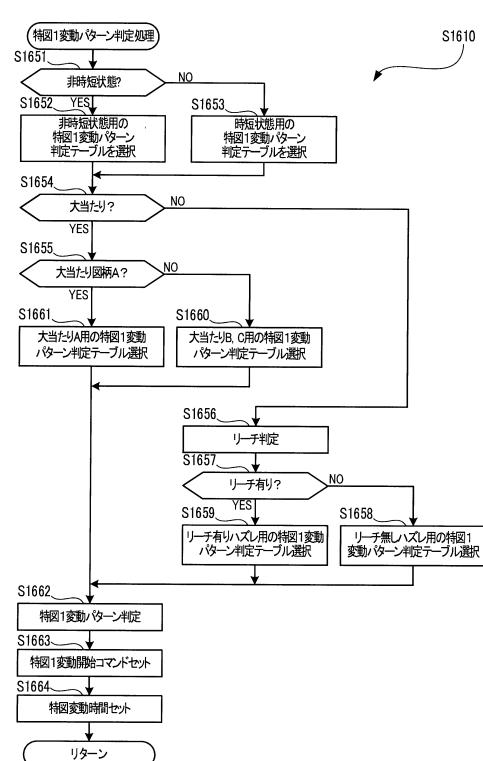
10

20

【図 3 5】



【図 3 6】

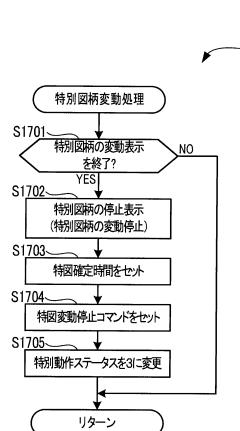


30

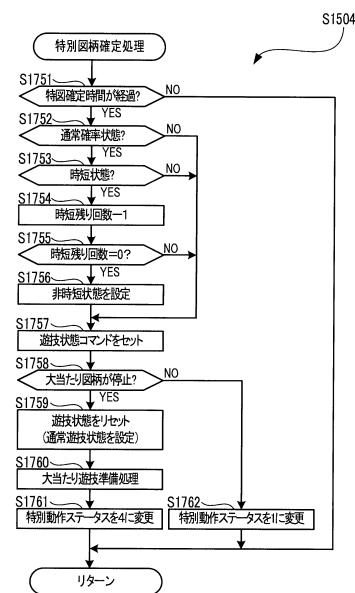
40

50

【図37】



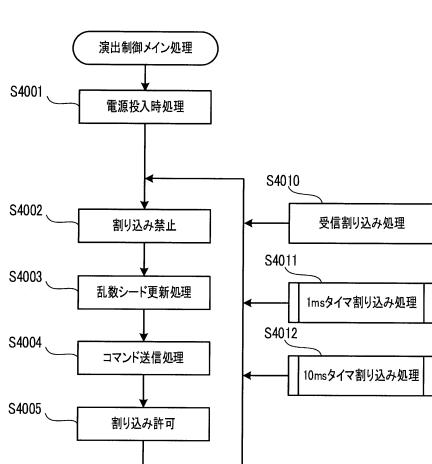
【図38】



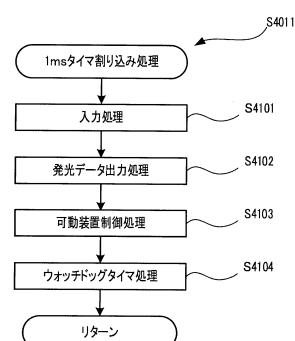
10

20

【図39】



【図40】

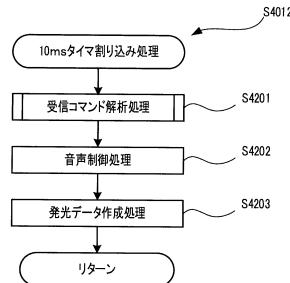


30

40

50

【図41】



【図42】

(A) タイマー予告実行判定テーブル		
特因変動パターン	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	75	実行
	25	非実行
L大当たり	60	実行
	40	非実行
SPハズレ	60	実行
	40	非実行
Lハズレ	50	実行
	50	非実行

(B) タイマー予告態様判定テーブル

特因変動パターン	選択率(%)	タイマー予告態様	演出内容
SP大当たり	70	タイマー予告態様1	赤色+秒数「15」
	30	タイマー予告態様2	青色+秒数「5」
L大当たり	50	タイマー予告態様1	赤色+秒数「15」
	50	タイマー予告態様2	青色+秒数「5」
SPハズレ	50	タイマー予告態様1	赤色+秒数「15」
	50	タイマー予告態様2	青色+秒数「5」
Lハズレ	30	タイマー予告態様1	赤色+秒数「15」
	70	タイマー予告態様2	青色+秒数「5」

10

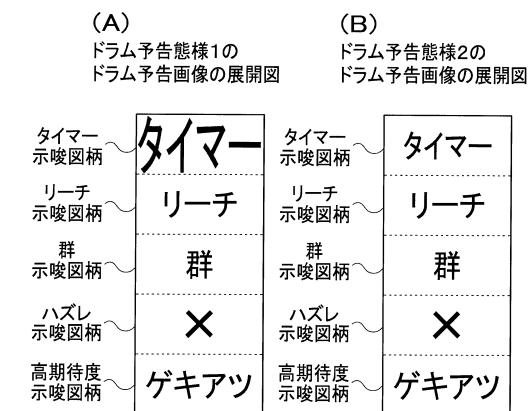
【図43】

(A) タイマー発動予告実行判定テーブル			
特因変動パターン	タイマー予告態様	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	1	70	実行
		30	非実行
SP大当たり	2	60	実行
		40	非実行
L大当たり	1	60	実行
		40	非実行
L大当たり	2	50	実行
		50	非実行
SPハズレ	1	60	実行
		40	非実行
SPハズレ	2	50	実行
		50	非実行
Lハズレ	1	40	実行
		60	非実行
Lハズレ	2	30	実行
		70	非実行

(B) タイマー発動予告種別判定テーブル			
特因変動パターン	タイマー予告態様	選択率(%)	タイマー発動予告種別
SP大当たり	1	65	種別1 タイマー調整中予告
		35	種別2 ドラム予告
SP大当たり	2	55	種別1 タイマー調整中予告
		45	種別2 ドラム予告
L大当たり	1	55	種別1 タイマー調整中予告
		45	種別2 ドラム予告
L大当たり	2	50	種別1 タイマー調整中予告
		50	種別2 ドラム予告
SPハズレ	1	55	種別1 タイマー調整中予告
		45	種別2 ドラム予告
SPハズレ	2	40	種別1 タイマー調整中予告
		60	種別2 ドラム予告
Lハズレ	1	35	種別1 タイマー調整中予告
		65	種別2 ドラム予告
Lハズレ	2	30	種別1 タイマー調整中予告
		70	種別2 ドラム予告

(C) ドラム予告態様判定テーブル		
タイマー予告態様	選択率(%)	ドラム予告態様
1	65	ドラム予告態様1
	35	ドラム予告態様2
2	35	ドラム予告態様1
	65	ドラム予告態様2

【図44】



30

40

50

【図45】

(A)群予告実行判定テーブル		
特図変動パターン	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	60	実行
	40	非実行
L大当たり	50	実行
	50	非実行
SPハズレ	50	実行
	50	非実行
Lハズレ	40	実行
	60	非実行
Nハズレ	10	実行
	90	非実行

(B)群予告態様判定テーブル

特図変動パターン	選択率(%)	群予告態様	演出内容
SP大当たり	65	群予告態様1	30個
	25	群予告態様2	15個
	10	群予告態様3	3個
L大当たり	25	群予告態様1	30個
	60	群予告態様2	15個
	15	群予告態様3	3個
SPハズレ	55	群予告態様1	30個
	30	群予告態様2	15個
	15	群予告態様3	3個
Lハズレ	15	群予告態様1	30個
	25	群予告態様2	15個
	60	群予告態様3	3個
Nハズレ	0	群予告態様1	30個
	0	群予告態様2	15個
	100	群予告態様3	3個

【図46】

特図変動パターン	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	35	実行
	65	非実行
L大当たり	30	実行
	70	非実行
SPハズレ	25	実行
	75	非実行
Lハズレ	20	実行
	80	非実行
Nハズレ	15	実行
	85	非実行

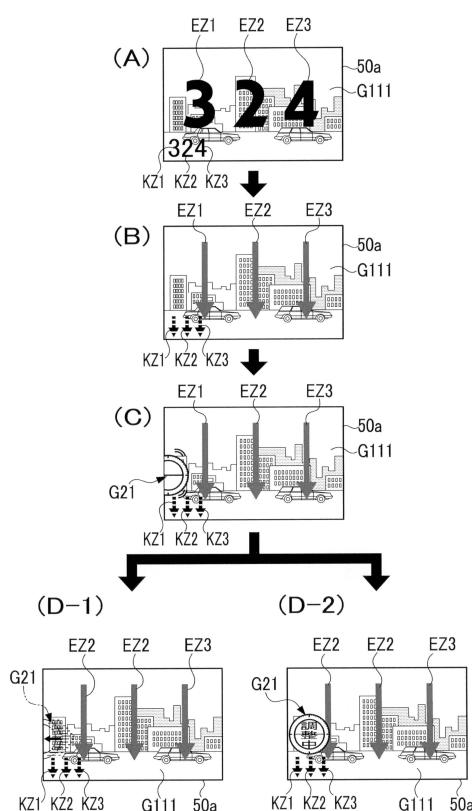
(B)非特定ドラム予告実行判定

特図変動パターン	選択率(%)	実行／非実行	停止表示の示唆図柄
SP大当たり	50	実行1	高期待度示唆図柄
	20	実行2	リード示唆図柄
	10	実行3	ハズレ示唆図柄
L大当たり	30	実行1	高期待度示唆図柄
	15	実行2	リード示唆図柄
	30	非実行	—
SPハズレ	35	実行1	高期待度示唆図柄
	20	実行2	ハズレ示唆図柄
	15	実行3	ハズレ示唆図柄
Lハズレ	30	非実行	—
	15	実行1	高期待度示唆図柄
	25	実行2	リード示唆図柄
Nハズレ	20	実行3	ハズレ示唆図柄
	40	非実行	—
	0	実行1	高期待度示唆図柄
通常A	15	実行2	リード示唆図柄
	35	実行3	ハズレ示唆図柄
	50	非実行	—
通常B	0	実行1	高期待度示唆図柄
	0	実行2	リード示唆図柄
	0	実行3	ハズレ示唆図柄
通常A	100	非実行	—

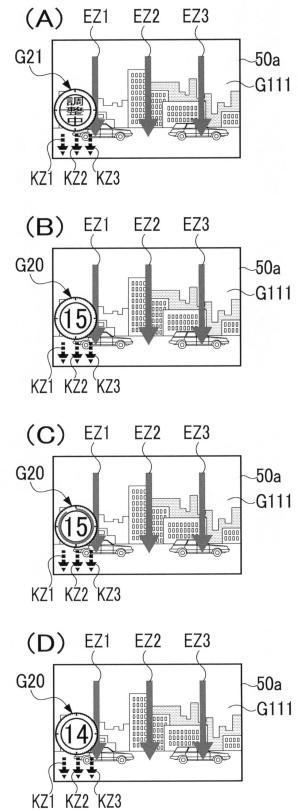
(C)タイマー調整中予告セ実行判定

特図変動パターン	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	20	実行
	80	非実行
L大当たり	25	実行
	75	非実行
SPハズレ	25	実行
	75	非実行
Lハズレ	30	実行
	70	非実行
Nハズレ	35	実行
	65	非実行
通常A	5	実行
	95	非実行
通常A	0	実行
	100	非実行

【図47】



【図48】



10

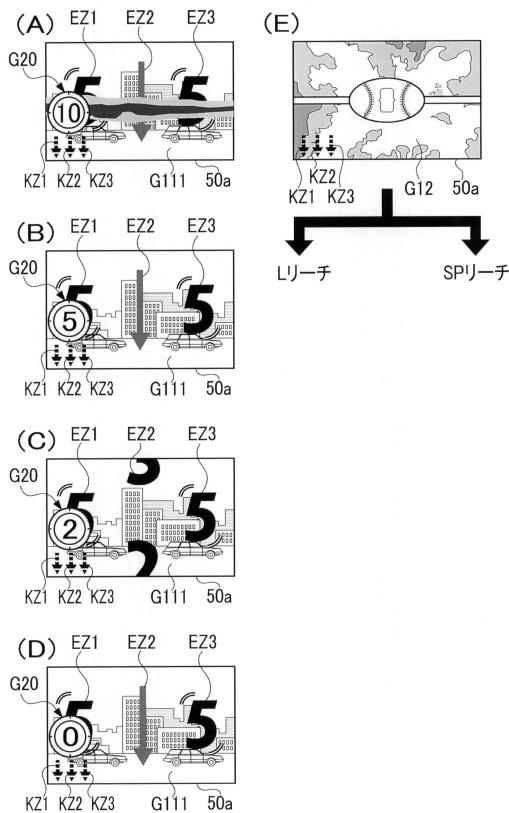
20

30

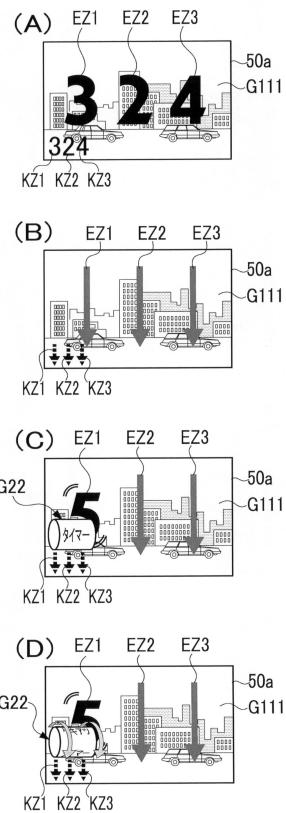
40

50

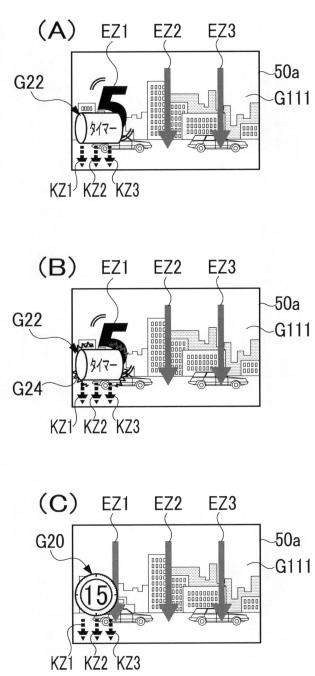
【図 4 9】



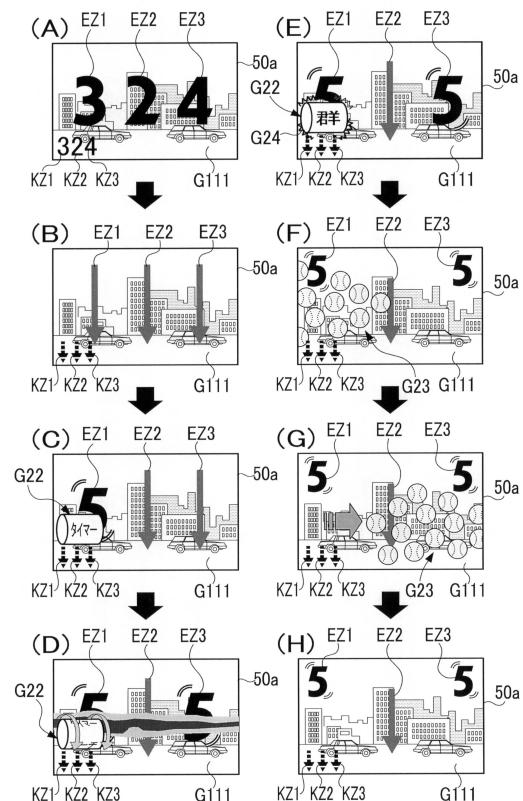
【図 5 0】



【図 5 1】



【図 5 2】



10

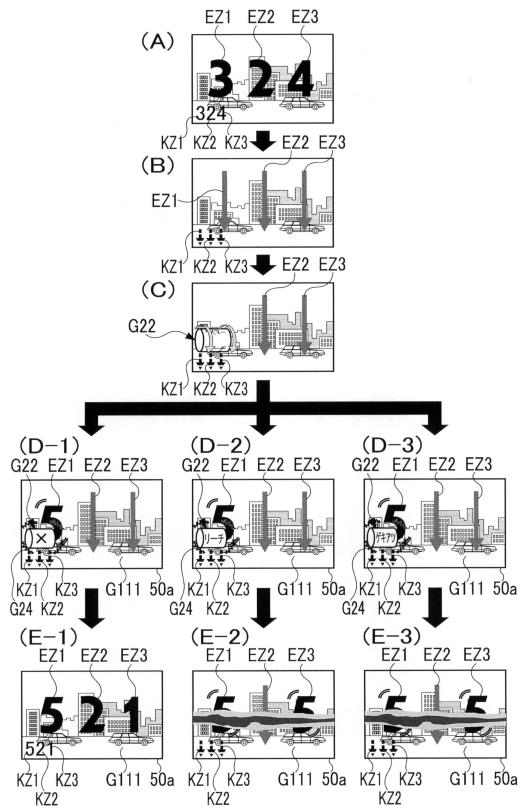
20

30

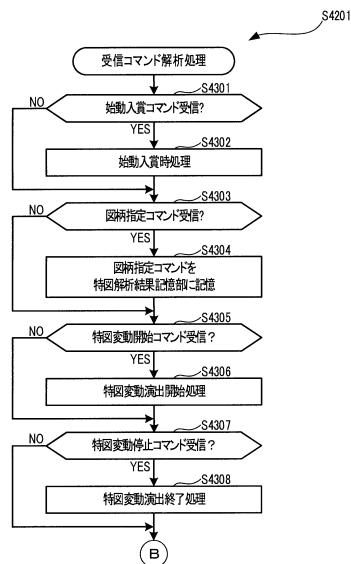
40

50

【図 5 3】



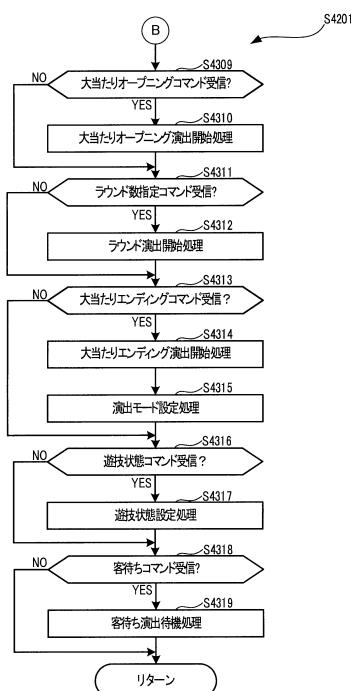
【図 5 4】



10

20

【図 5 5】



【図 5 6】

特因変動パターン	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	35	実行
	65	非実行
L大当たり	30	実行
	70	非実行
SPハズレ	30	実行
	70	非実行
Lハズレ	25	実行
	75	非実行
Nハズレ	15	実行
	85	非実行
通常ハズレ	3	実行
	97	非実行

特因変動パターン	選択率(%)	特別態様	演出内容
SP大当たり	20	特別態様1	青
	35	特別態様2	緑
	40	特別態様3	赤
	5	特別態様4	金
L大当たり	25	特別態様1	青
	45	特別態様2	緑
	30	特別態様3	赤
	0	特別態様4	金
SPハズレ	25	特別態様1	青
	43	特別態様2	緑
	30	特別態様3	赤
	2	特別態様4	金
Lハズレ	50	特別態様1	青
	35	特別態様2	緑
	15	特別態様3	赤
	0	特別態様4	金
Nハズレ	70	特別態様1	青
	30	特別態様2	緑
	0	特別態様3	赤
	0	特別態様4	金
通常ハズレ	100	特別態様1	青
	0	特別態様2	緑
	0	特別態様3	赤
	0	特別態様4	金

30

40

50

【図 5 7】

(A) 変動アイコン変化予告実行判定テーブル

特因変動パターン	選択率(%)				実行／非実行	
	通常態様	特別態様1	特別態様2	特別態様3	特別態様4	
SP大当たり	55	50	45	40	15	実行
	45	50	55	60	85	非実行
L大当たり	50	45	40	35	—	実行
	50	55	60	65	—	非実行
SPハズレ	50	45	40	35	0	実行
	50	55	60	65	100	非実行
Lハズレ	40	35	30	—	—	実行
	60	65	70	—	—	非実行
Nハズレ	30	15	—	—	—	実行
	70	85	—	—	—	非実行
通常ハズレ	15	—	—	—	—	実行
	85	—	—	—	—	非実行

(B) 変動アイコン変化予告態様判定テーブル

特因変動パターン	選択率(%)				特別態様	
	通常態様	特別態様1	特別態様2	特別態様3	特別態様4	
SP大当たり	15	—	—	—	—	特別態様1
	25	30	—	—	—	特別態様2
L大当たり	50	55	85	—	—	特別態様3
	10	10	10	75	—	特別態様4
SPハズレ	5	5	5	25	100	特別態様5
	18	—	—	—	—	特別態様1
Lハズレ	45	55	—	—	—	特別態様2
	35	43	98	—	—	特別態様3
SPハズレ	0	0	0	0	—	特別態様4
	2	2	2	100	—	特別態様5
Lハズレ	20	—	—	—	—	特別態様1
	40	55	—	—	—	特別態様2
Nハズレ	35	40	95	—	—	特別態様3
	5	5	5	100	—	特別態様4
通常ハズレ	0	0	0	0	100	特別態様5
	50	—	—	—	—	特別態様1
Lハズレ	35	65	—	—	—	特別態様2
	15	35	100	—	—	特別態様3
Nハズレ	0	0	0	0	—	特別態様4
	0	0	0	0	—	特別態様5
通常ハズレ	70	—	—	—	—	特別態様1
	30	100	—	—	—	特別態様2
通常ハズレ	0	0	—	—	—	特別態様3
	0	0	—	—	—	特別態様4
通常ハズレ	0	0	—	—	—	特別態様5

10

20

【図 5 8】

(A) カットイン予告実行判定テーブル

特因変動パターン	選択率(%)	実行／非実行
SP大当たり	65	実行
	35	非実行
L大当たり	50	実行
	50	非実行
SPハズレ	50	実行
	50	非実行
Lハズレ	35	実行
	65	非実行

(B) カットイン予告態様判定テーブル

特因変動パターン	選択率(%)	カットイン予告態様	演出内容
SP大当たり	15	カットイン予告態様1	弱敵キャラクタ
	30	カットイン予告態様2	普通キャラクタ
	50	カットイン予告態様3	強敵キャラクタ
	5	カットイン予告態様4	レアキャラクタ
	20	カットイン予告態様1	弱敵キャラクタ
L大当たり	30	カットイン予告態様2	普通キャラクタ
	45	カットイン予告態様3	強敵キャラクタ
	5	カットイン予告態様4	レアキャラクタ
	54	カットイン予告態様1	弱敵キャラクタ
	30	カットイン予告態様2	普通キャラクタ
SPハズレ	15	カットイン予告態様3	強敵キャラクタ
	1	カットイン予告態様4	レアキャラクタ
	60	カットイン予告態様1	弱敵キャラクタ
	30	カットイン予告態様2	普通キャラクタ
	9	カットイン予告態様3	強敵キャラクタ
Lハズレ	1	カットイン予告態様4	レアキャラクタ

【図 5 9】

(A) Gタイマー予告実行判定テーブル

群予告態様	選択率(%)	実行／非実行
群予告態様1 (30個)	40	実行
	60	非実行
群予告態様2 (15個)	30	実行
	70	非実行
群予告態様3 (3個)	20	実行
	80	非実行

(B) Cタイマー予告実行判定テーブル

カットイン予告態様	選択率(%)	実行／非実行
カットイン予告態様1 (弱敵キャラクタ)	30	実行
	70	非実行
カットイン予告態様2 (普通キャラクタ)	45	実行
	55	非実行
カットイン予告態様3 (強敵キャラクタ)	60	実行
	40	非実行
カットイン予告態様4 (レアキャラクタ)	70	実行
	30	非実行

(C) Hタイマー予告実行判定テーブル

特別態様	選択率(%)	実行／非実行
特別態様1 (青)	25	実行
	75	非実行
特別態様2 (緑)	30	実行
	70	非実行
特別態様3 (赤)	35	実行
	65	非実行
特別態様4 (金)	40	実行
	60	非実行
特別態様5 (野球のボール)	45	実行
	65	非実行

(D) 変動アイコン変化予告に係るタイマー予告種別判定テーブル

特別態様	選択率(%)	タイマー予告種別	※備考(演出名稱)
特別態様1 (青)	65	タイマー予告種別1	第1タイマー予告
	35	タイマー予告種別2	第2タイマー予告
特別態様2 (緑)	60	タイマー予告種別1	第1タイマー予告
	40	タイマー予告種別2	第2タイマー予告
特別態様3 (赤)	50	タイマー予告種別1	第1タイマー予告
	50	タイマー予告種別2	第2タイマー予告
特別態様4 (金)	40	タイマー予告種別1	第1タイマー予告
	60	タイマー予告種別2	第2タイマー予告
特別態様5 (野球のボール)	35	タイマー予告種別1	第1タイマー予告
	65	タイマー予告種別2	第2タイマー予告

30

40

【図 6 0】

(A) Gタイマー予告演出時間判定テーブル

群予告態様	選択率(%)	演出時間	※備考(時間)
群予告態様1	60	演出時間2	15秒
	30	演出時間3	10秒
	10	演出時間4	5秒
群予告態様2	30	演出時間2	15秒
	50	演出時間3	10秒
	20	演出時間4	5秒
群予告態様3	10	演出時間2	15秒
	30	演出時間3	10秒
	60	演出時間4	5秒

(B) Cタイマー予告演出時間判定テーブル

カットイン予告態様	選択率(%)	演出時間	※備考(時間)
カットイン予告態様1	15	演出時間1	30秒
	25	演出時間2	15秒
	40	演出時間3	10秒
	20	演出時間4	5秒
	20	演出時間1	30秒
カットイン予告態様2	30	演出時間2	15秒
	35	演出時間3	10秒
	15	演出時間4	5秒
	40	演出時間1	30秒
	30	演出時間2	15秒
カットイン予告態様3	20	演出時間3	10秒
	10	演出時間4	5秒
	55	演出時間1	30秒
	25	演出時間2	15秒
	15	演出時間3	10秒
カットイン予告態様4	5	演出時間4	5秒

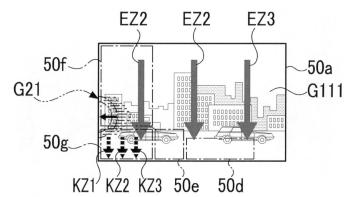
50

【図 6 1】

(A) H1タイマー予告演出時間判定テーブル			
特別態様	選択率(%)	演出時間	※備考(時間)
特別態様1	0	演出時間2	15秒
	35	演出時間3	10秒
	65	演出時間4	5秒
特別態様2	15	演出時間2	15秒
	35	演出時間3	10秒
	50	演出時間4	5秒
特別態様3	75	演出時間2	15秒
	15	演出時間3	10秒
	10	演出時間4	5秒
特別態様4	85	演出時間2	15秒
	10	演出時間3	10秒
	5	演出時間4	5秒
特別態様5	95	演出時間2	15秒
	5	演出時間3	10秒
特別態様5	0	演出時間4	5秒

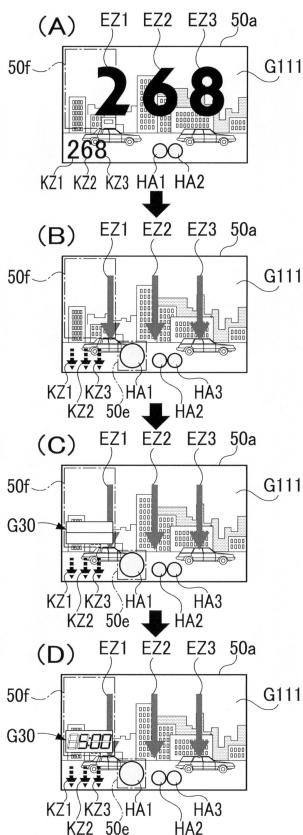
(B) H2タイマー予告演出時間判定テーブル			
特別態様	選択率(%)	演出時間	※備考(時間)
特別態様1	10	演出時間3	10秒
	35	演出時間4	5秒
	55	演出時間5	3秒
特別態様2	20	演出時間3	10秒
	30	演出時間4	5秒
	50	演出時間5	3秒
特別態様3	40	演出時間3	10秒
	25	演出時間4	5秒
	35	演出時間5	3秒
特別態様4	45	演出時間3	10秒
	30	演出時間4	5秒
	25	演出時間5	3秒
特別態様5	50	演出時間3	10秒
	35	演出時間4	5秒
	15	演出時間5	3秒

【図 6 2】

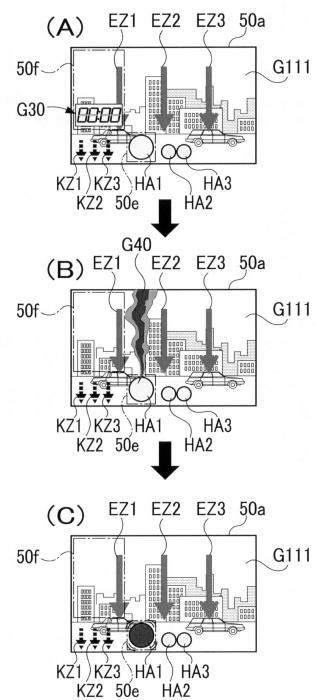


10

【図 6 3】



【図 6 4】

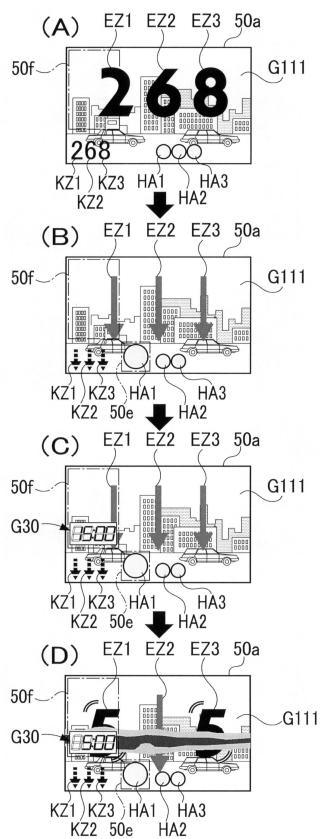


30

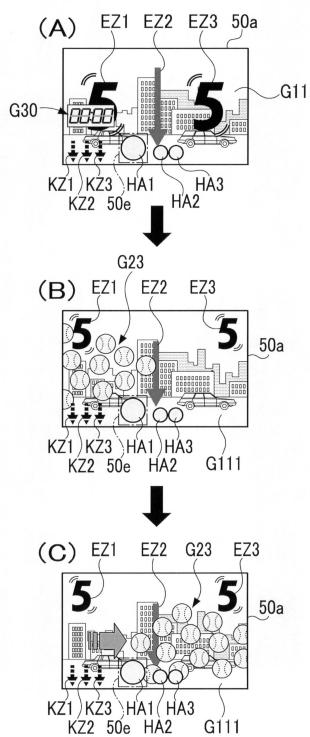
40

50

【図 6 5】



【図 6 6】



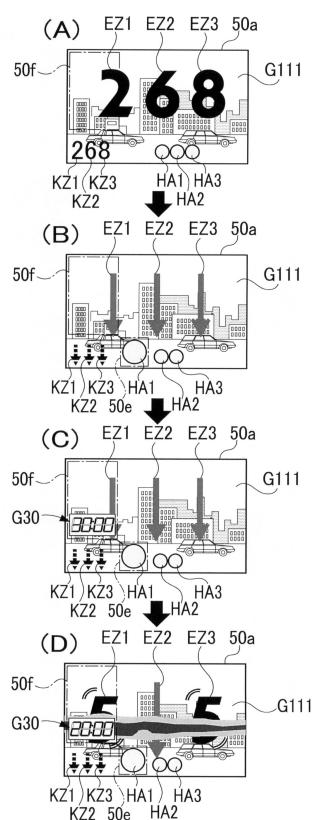
10

20

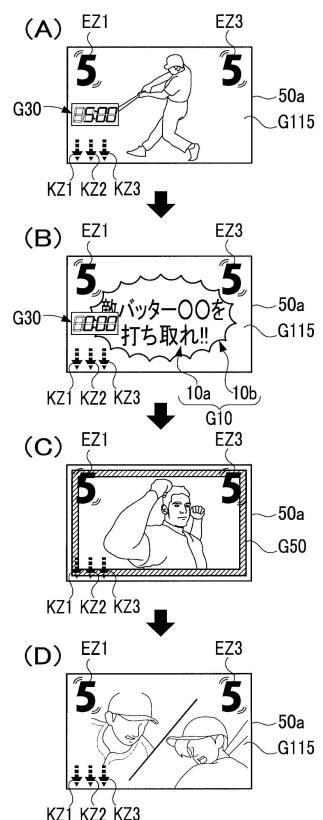
30

40

【図 6 7】

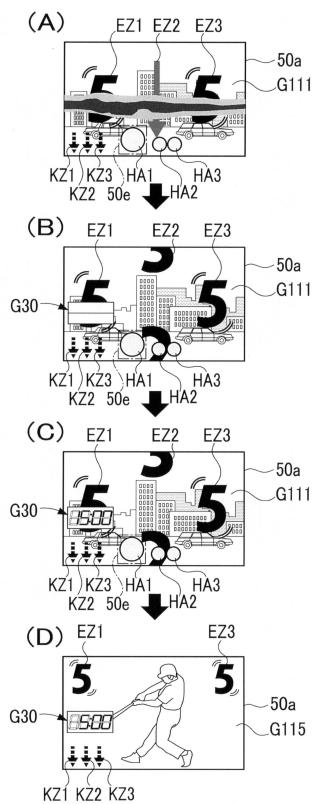


【図 6 8】

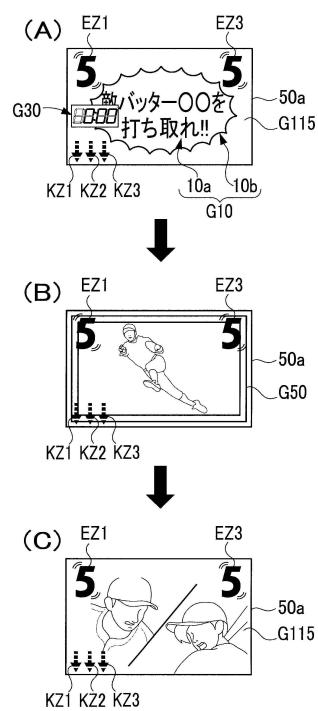


50

【図 6 9】



【図 7 0】



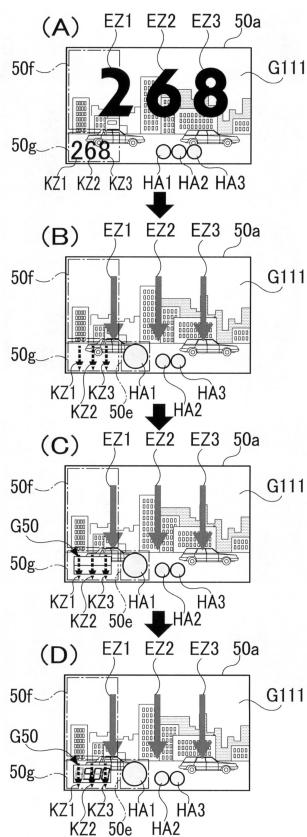
10

20

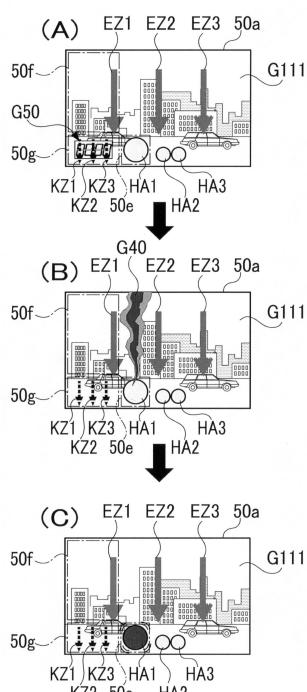
30

40

【図 7 1】



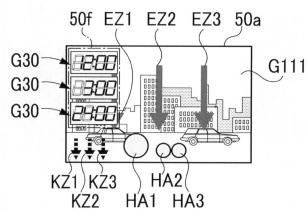
【図 7 2】



50

50

【図 7 3】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

(72)発明者 牧 智宣

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

(72)発明者 柏木 浩志

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

(72)発明者 梶野 浩司

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

審査官 佐藤 嘉純

(56)参考文献 特開2018-023661(JP,A)

特開2017-074315(JP,A)

特開2017-225532(JP,A)

(58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)

A 63 F 7 / 02